

ORIGAMI

TANTEIDAN

折紙探偵団

M A G A Z I N E

定価 635円
(本体605円)

クローズアップ Close-up

折り工程の話

On the Folding Procedure

前川 淳

Maekawa Jun

展開図折りに挑戦! Crease Pattern Challenge!

自転車 v1.8

Bicycle v1.8

ジェイソン・クー

Jason Ku



折り図 Diagrams

ベールテール エンゼルフィッシュ

Veiltail Angelfish

神谷哲史

Kamiya Satoshi

つまみおり Information

第16回折紙探偵団コンベンション情報

The 16th Origami Tanteidan Convention Update

通巻 120 号

日本折紙学会 (JOAS) の理念

The Purpose of Japan Origami Academic Society

第一章 名称と目的

第一条 会の名称

1. 本会の名称は日本折紙学会とする。
2. 本会の英語での名称は、Japan Origami Academic Societyとする。
3. 本会の略称は、JOASとする。

第二条 会の目的

1. 本会は、折り紙の専門研究と折り紙の普及の促進、ならびに、それらを通しての広く国内、外の折り紙愛好家との交流の促進を目的とする。
2. 第一項の折り紙の専門研究とは、折り紙の創作、折り紙の創作技術の研究、折り紙に関する批評・評論、数学研究、教育研究、歴史・書誌研究、知的財産権等の研究、工学・商業デザインの研究等を意味する。
3. 第一項の折り紙の普及とは、折り紙の社会的認知度の向上活動、折り紙愛好者層の拡大活動、折り紙に関する人材の育成と発掘等を意味する。

規約第1章より抜粋

Chapter 1: Name and Purpose

Article 1: Name

1. This society is to be called Nihon Origami Gakkai in Japanese.
2. This society is to be called Japan Origami Academic Society in English.
3. The abbreviated name of this society is JOAS.

Article 2: Purpose

1. The purpose of JOAS is to promote studies of origami, diffusion of origami, and both domestic and international association of all origami-lovers.
2. The studies of origami mentioned above includes designing, designing techniques, criticism, mathematical studies, educational studies, history, bibliography, studies of the intellectual property rights, studies of industrial and commercial design, and so on.
3. The diffusion of origami mentioned above includes widening appreciation of origami, expansion of the community of origami-lovers, scouting and rearing the origami talent, and so on.

●折り方の約束記号 SYMBOLS FOR FOLDING

谷折り線

Line indicating
valley fold

山折り線

Line indicating
mountain fold

手前に折る

Fold paper
forwards

後ろへ折る

Fold paper
backwards

折り筋を
つける

Making a crease line

段折り

Pleat fold

裏返す

Turn paper over

引き出す

Pull out

図の見る
位置が変わる

Rotation

図が大きくなる

A magnified view

見えない
ところ

A hidden line

押す、
押しつぶす

Push paper in

切る

Cut

自転車 v1.8

Bicycle v1.8

作: ジェイソン・クー (P.33)

by Jason Ku (P.33)

■どれだけ無理そうな題材であっても、やる気になったら不切一枚折りでなんとかしてしまう。これこそがマニアの本領発揮か、はたまた悲しいサガというべきか。細かいフレームは想像をはるかに超える硬さになるので、気を引き締めて取り組みましょう。

(解説: 北條高史) Comments : Hojyo Takashi



Bicycle v1.8 : Jason Ku

折り図 / Thematic Series with Diagrams

P.4 まーしーのユニット・オルタナティブ

Mercy's Unit Alternative

ORI-CUBE

ORI-CUBE

田中将司

Tanaka Masashi

P.8 おりがみ我楽多市

Origami Odds and Ends

四角箱 風車・手裏剣

Square Box: Windmill, Ninja Throwing Knife

やまぐち真

Yamaguchi Makoto

読み物 / Articles

P.14 日本折紙協会回想録

Reminiscence of and Notes on NOA

折り紙の教育的価値を高めようとした人 大橋皓也さん
 Ohashi Koya: A Man Who Tries to Raise the Academic and Pedagogical

やまぐち真

Yamaguchi Makoto

P.16 折紙図書館の本棚から

From the Bookshelves of the JOAS Library

『季刊をる』双樹舎・刊

"Quarterly ORU" Published by Sojusha

小松英夫

Komatsu Hideo

P.18 折線雑考

A Long Excursus on Crease Lines

若い女性の顔を折るための核心技法

The Crucial Matters on Folding Details of a Young Woman's Face

目黒俊幸

Meguro Toshiyuki

コラム / Columns

P.7 折り紙の周辺

Origami and Its Neighbors

布施知子

Fuse Tomoko

P.32 おりすじ

Orisuzi ("Fold-Creases")

武井純二

Takei Junji

情報 / Information

P.34 日本折紙学会 20 期事業報告と 21 期予定

JOAS' Annual Report: Activities in the 20th Year and Prospects in the 21st Year

P.36 つまみおり Rabbit Ear

第 16 回折紙探偵団コンベンション情報

The 16th Origami Tanteidan Convention Update

クローズアップ / Close-up

P.11 折り工程の話

On the Folding Procedure

前川 淳

Maekawa Jun

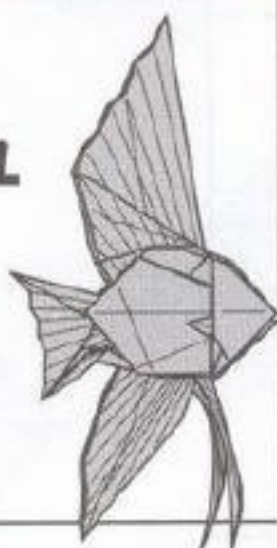
折り図 / Diagrams and Crease Pattern

**P.22 ベールテール
エンゼルフィッシュ**

Veiltail Angelfish

神谷哲史

Kamiya Satoshi



P.33 展開図折りに挑戦!

Crease Pattern Challenge!

自転車 v1.8

Bicycle v1.8

ジェイソン・クー

Jason Ku

カラーページ / Color

P.20 オリガミ・フォトギャラリー

Origami Photo Gallery

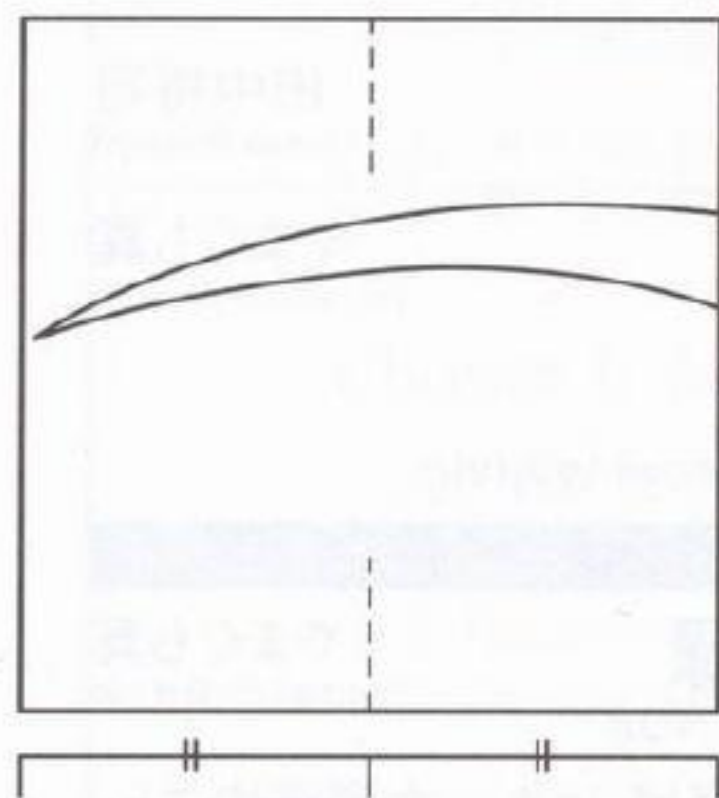
解説・北條高史

Comments : Hojyo Takashi

第5回 **ORI-CUBE** ORI-CUBE

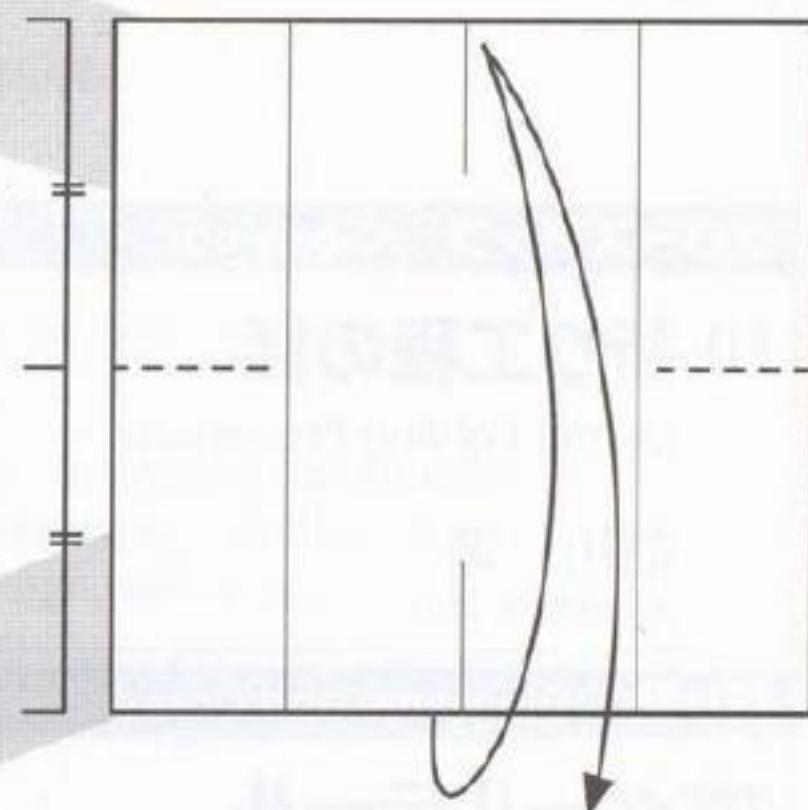
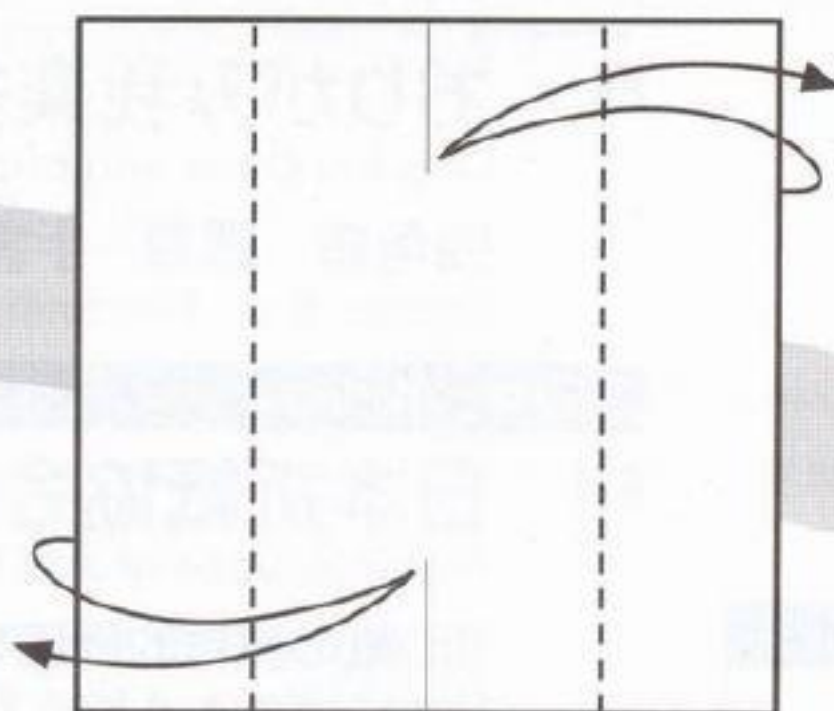


KFD-OriClub所属。折紙探偵団東海友の会スタッフ。苦手なものは酔っ払ったYさん。



1. フチから1/4ほど
折り線をつける

2. 付けた折り線で観音折り

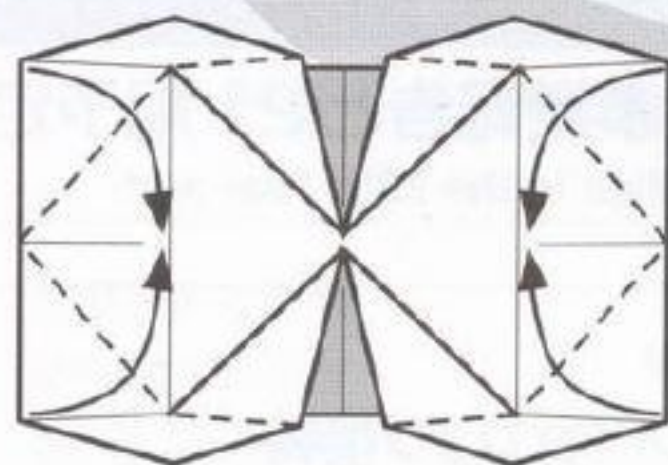
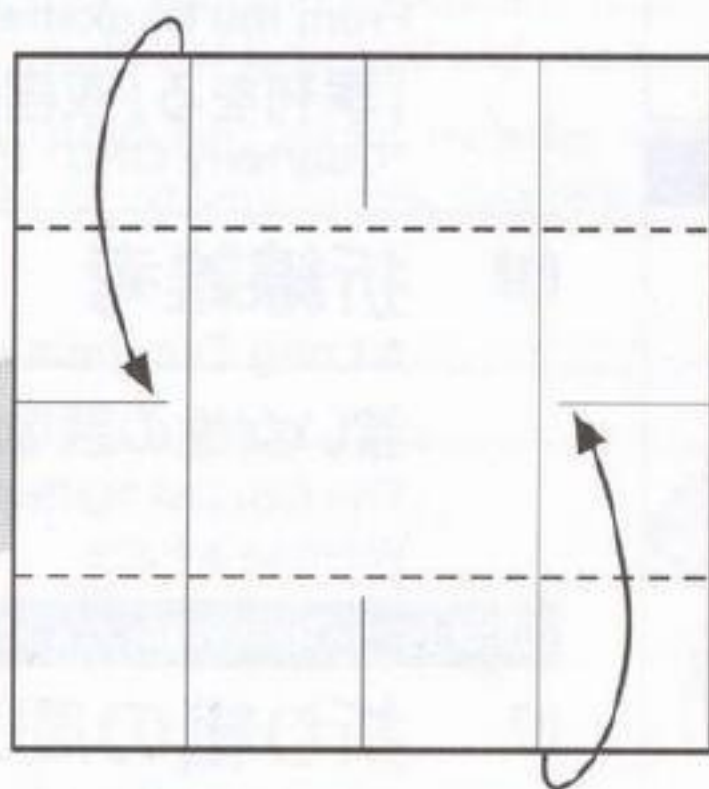


3. 同様に折る

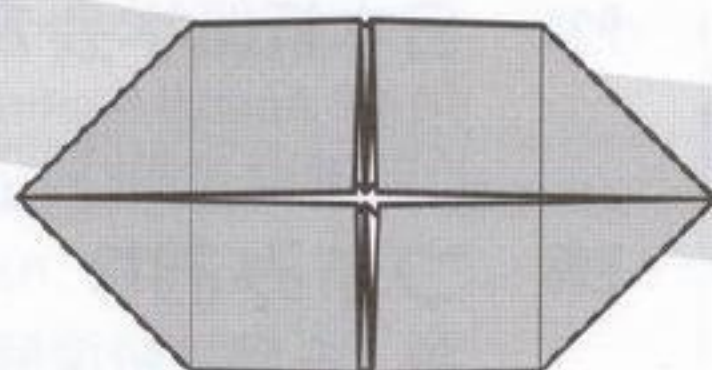
5.



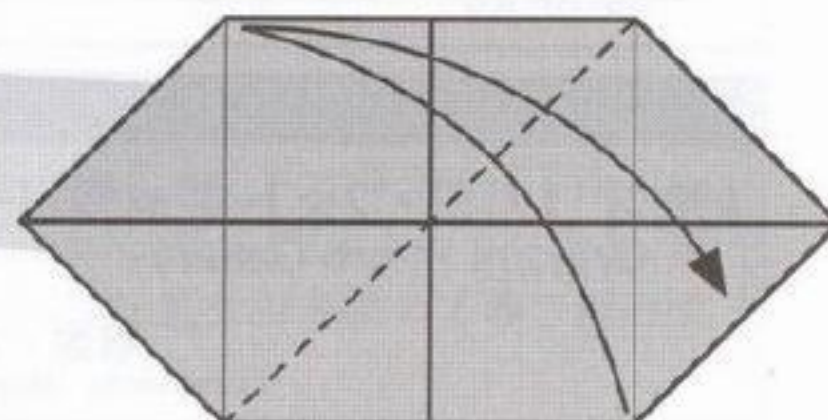
4. 同様に折る



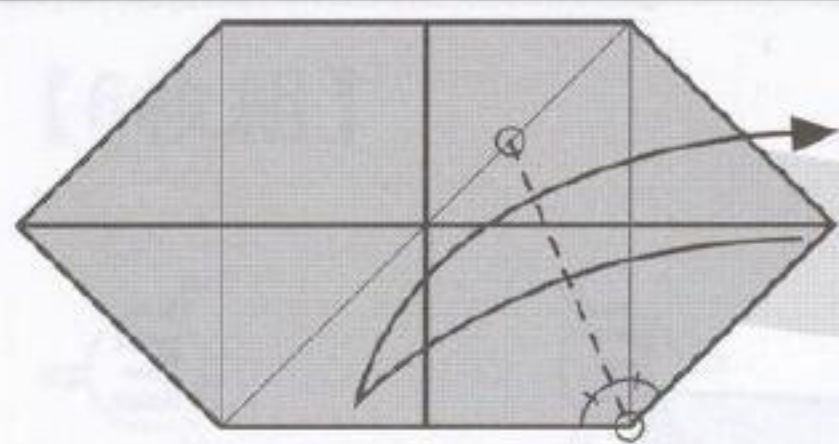
6. 閉じる



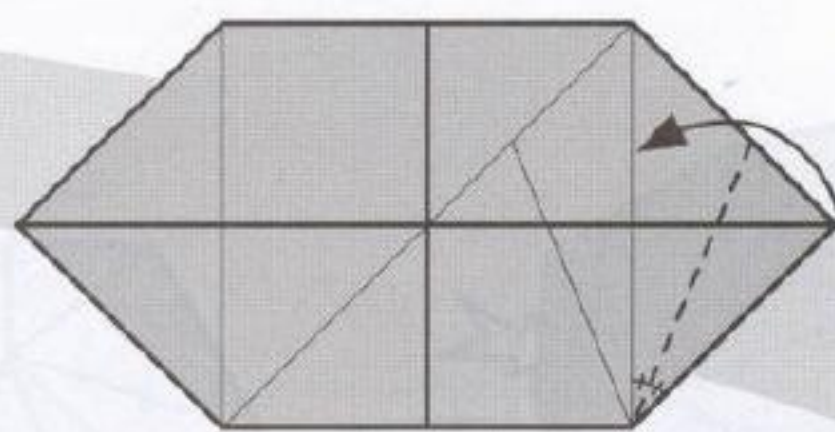
7. 図を簡略化 & 拡大します



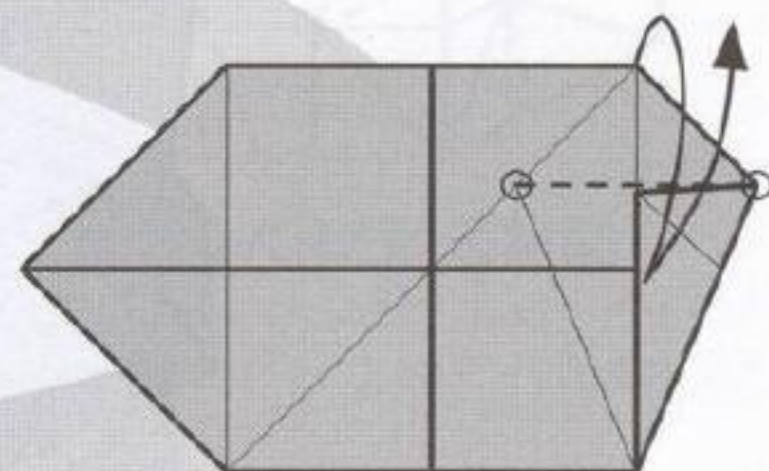
8.



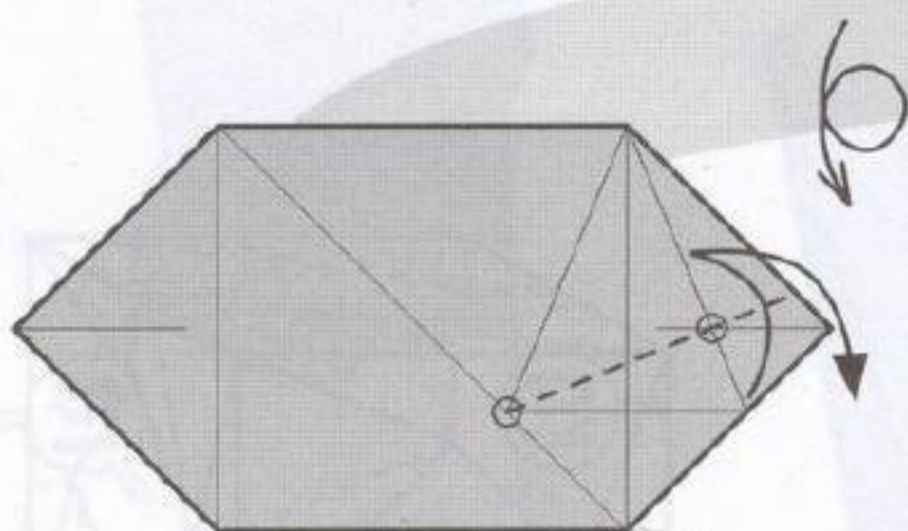
9. ○印間のみ
折り線を付ける



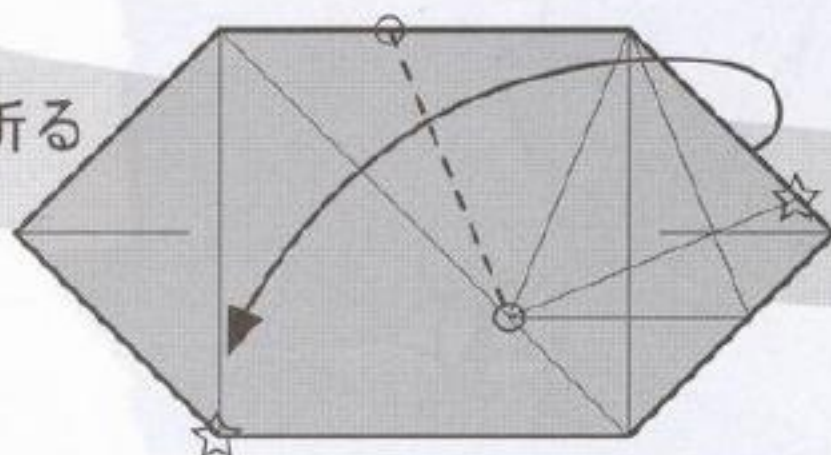
10.



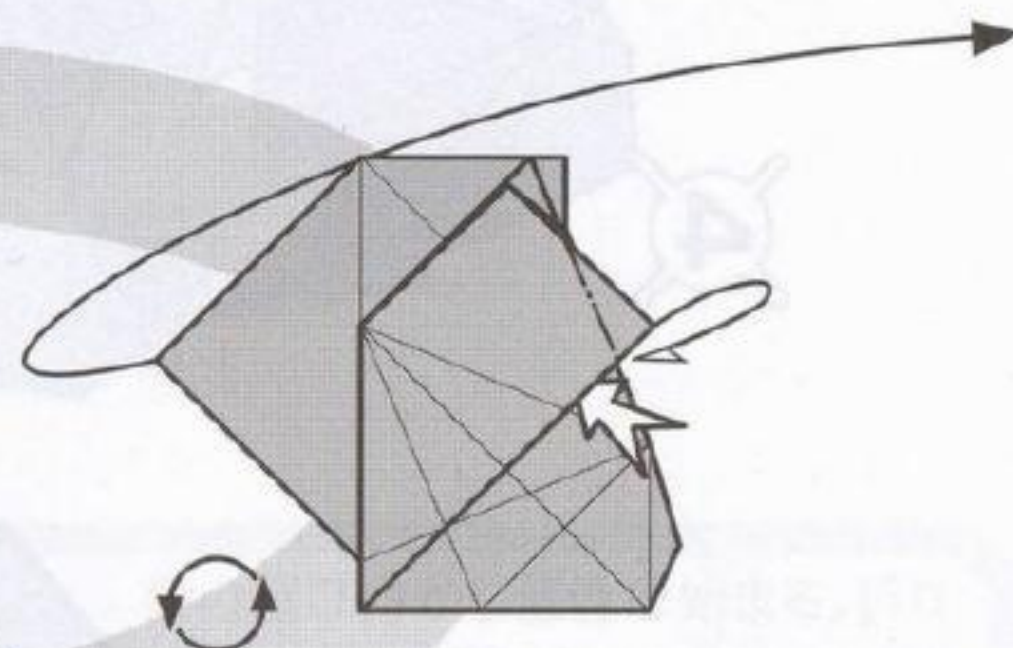
11. ○印間のみ
折り線を付ける



12. 開いて裏返す

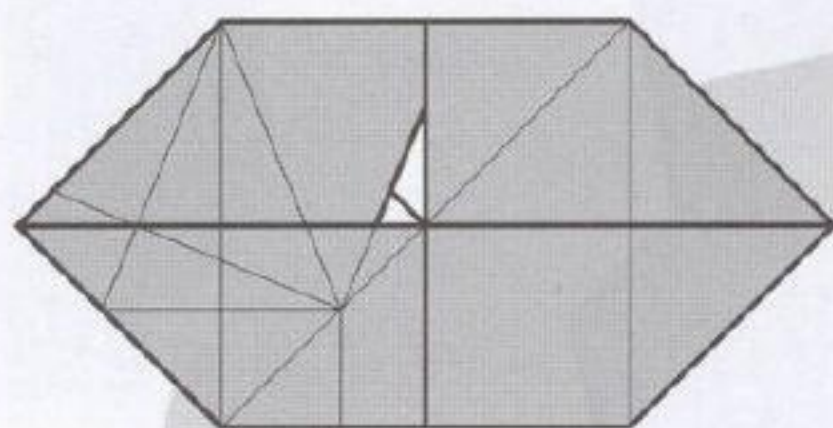


13. ○印間とその延長線を折る

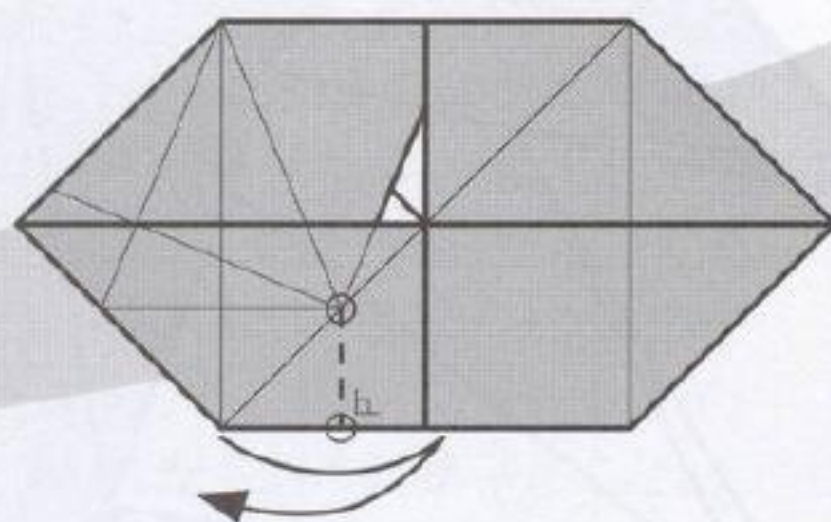


14. ☆印部分を合わせて
○印間のみ折る

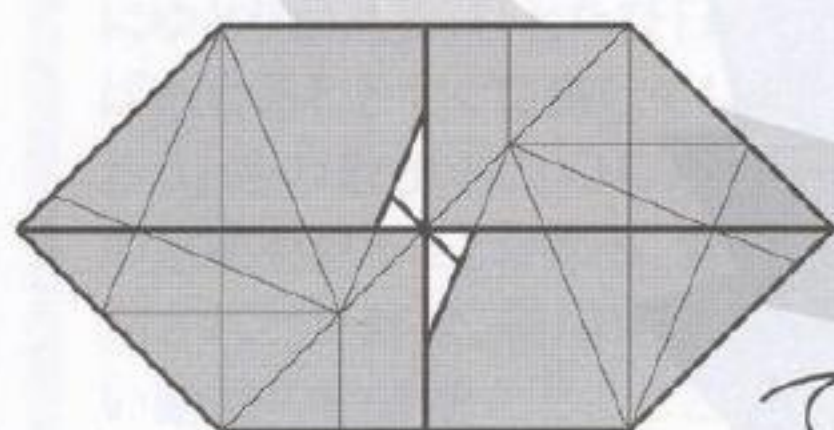
17. 反対側も同様に折る



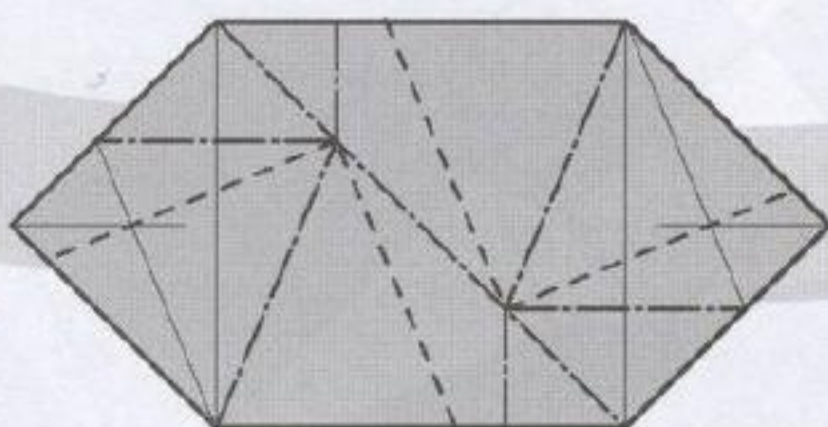
15. 飛び出た部分を
折って収納後開く



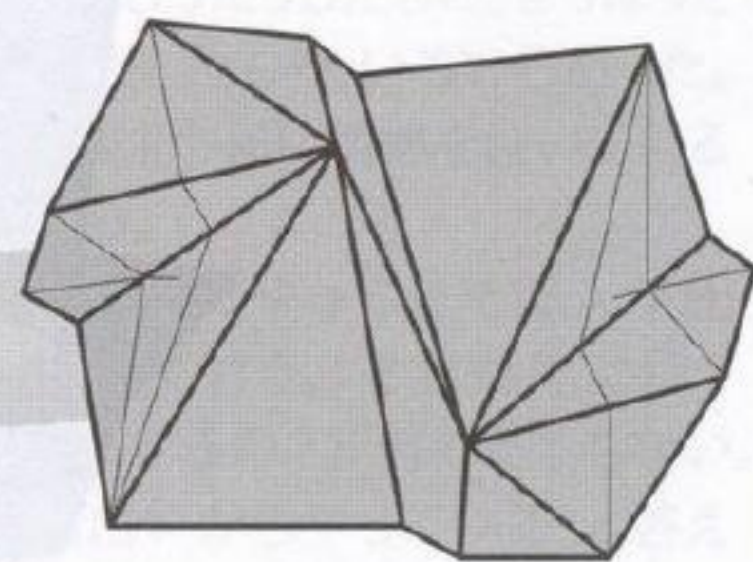
16. ○印間のみ
折り線を付ける



18. 裏返す

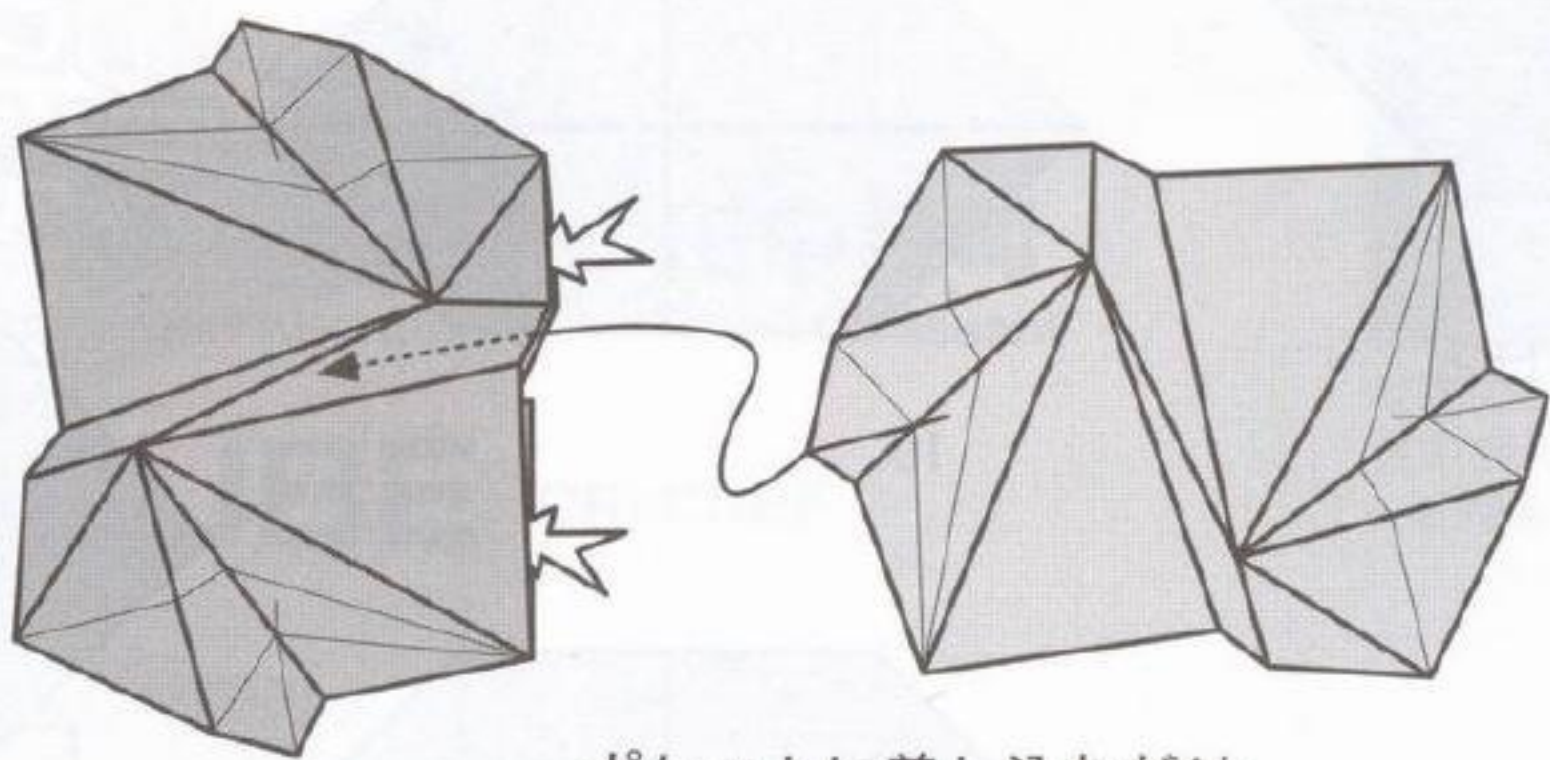


19. 付いている折り線で立体化



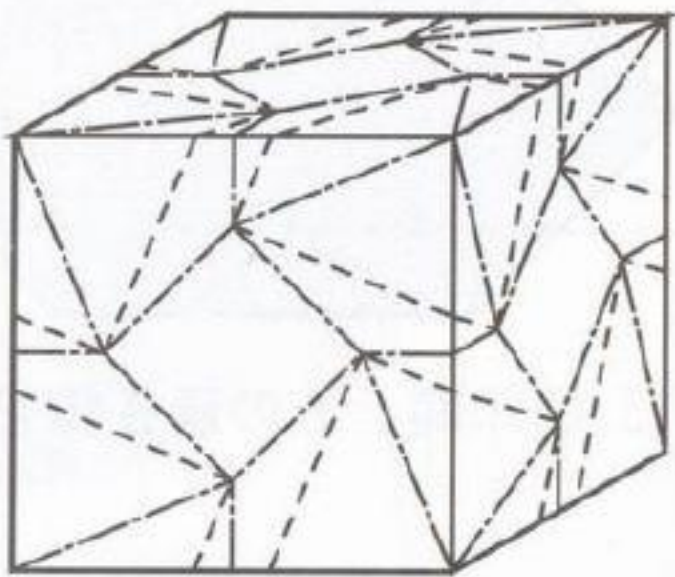
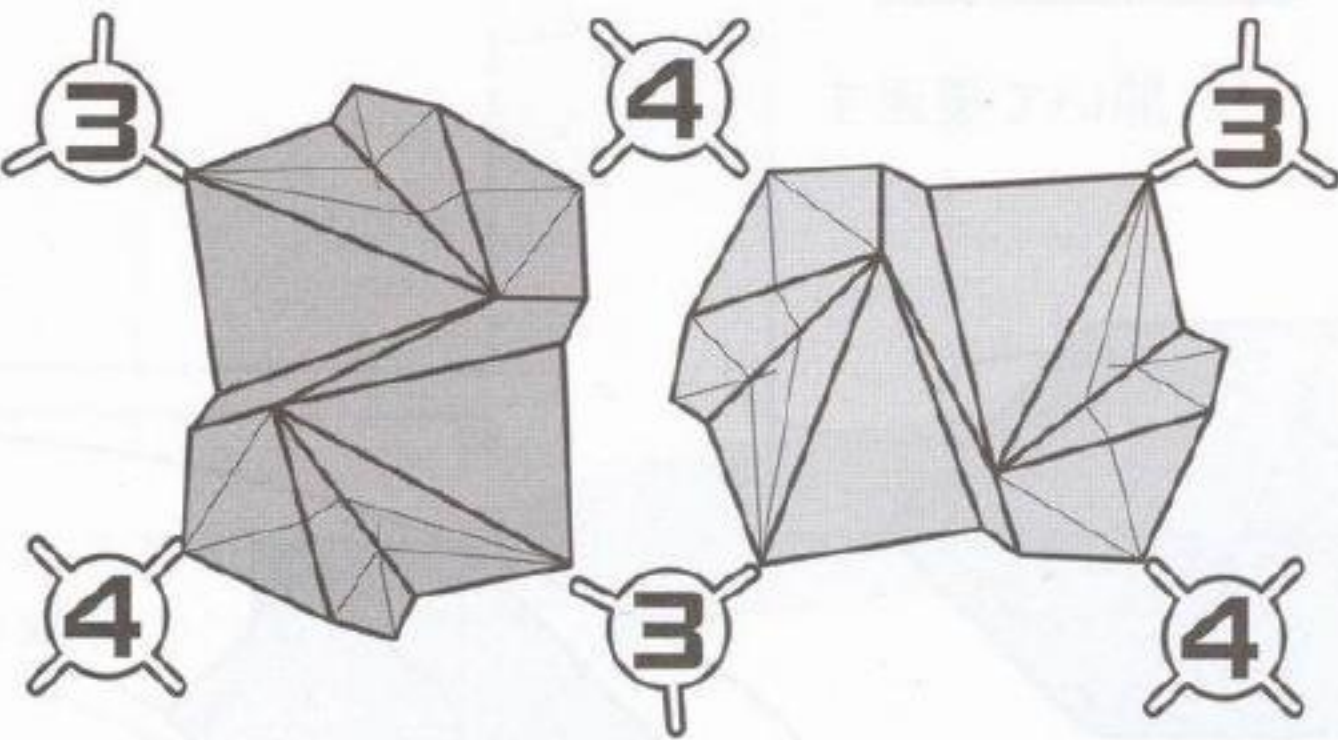
20. ORI-CUBEパーツ完成

【接続方法】

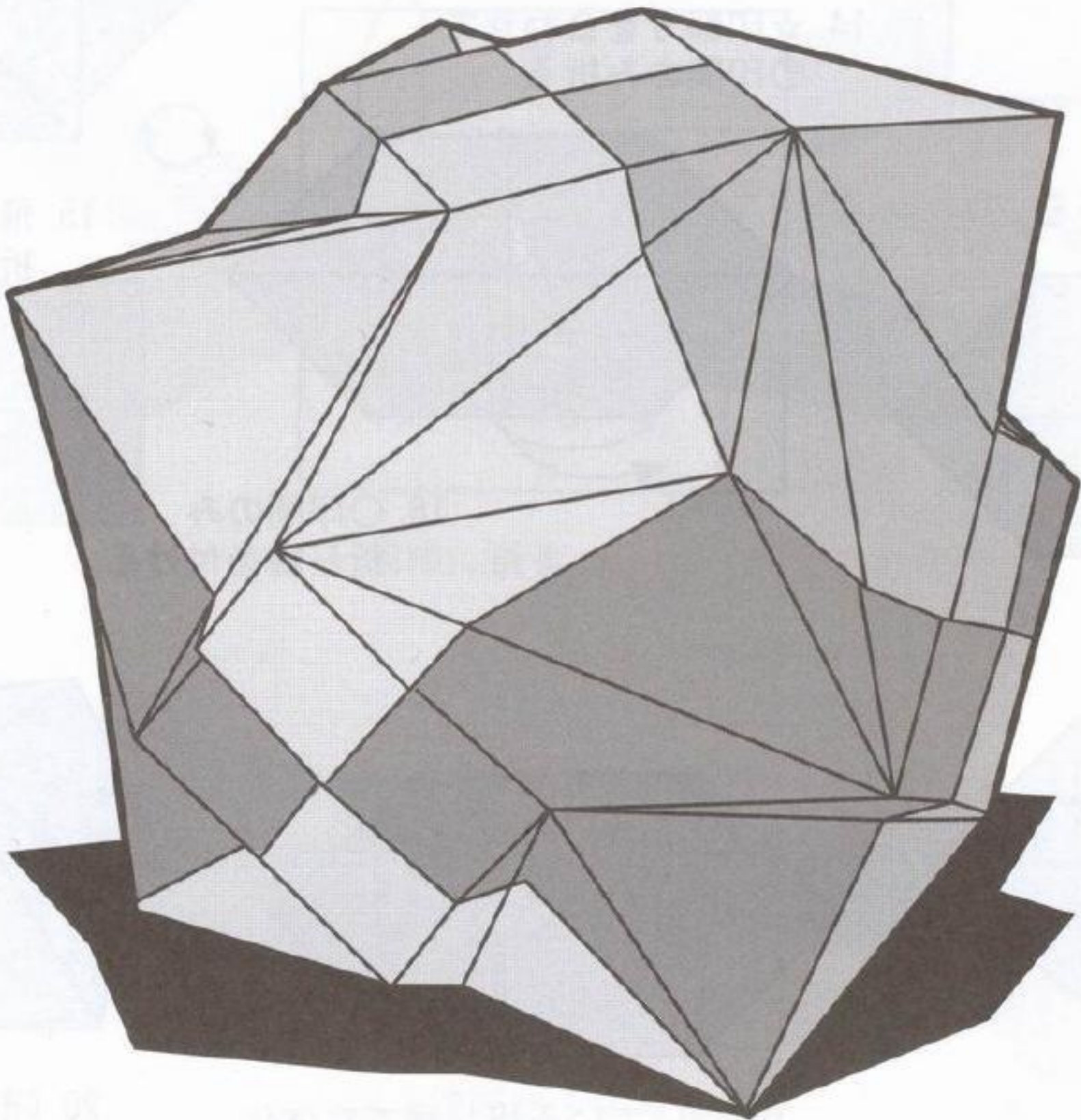


ポケットに差し込むだけ

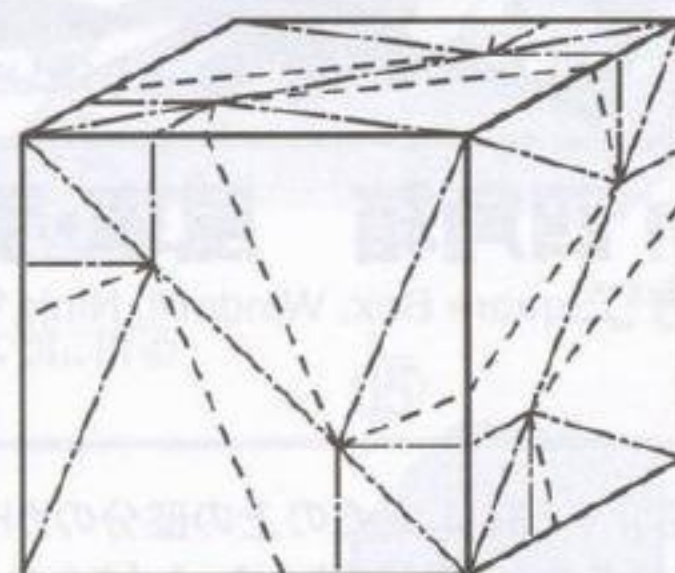
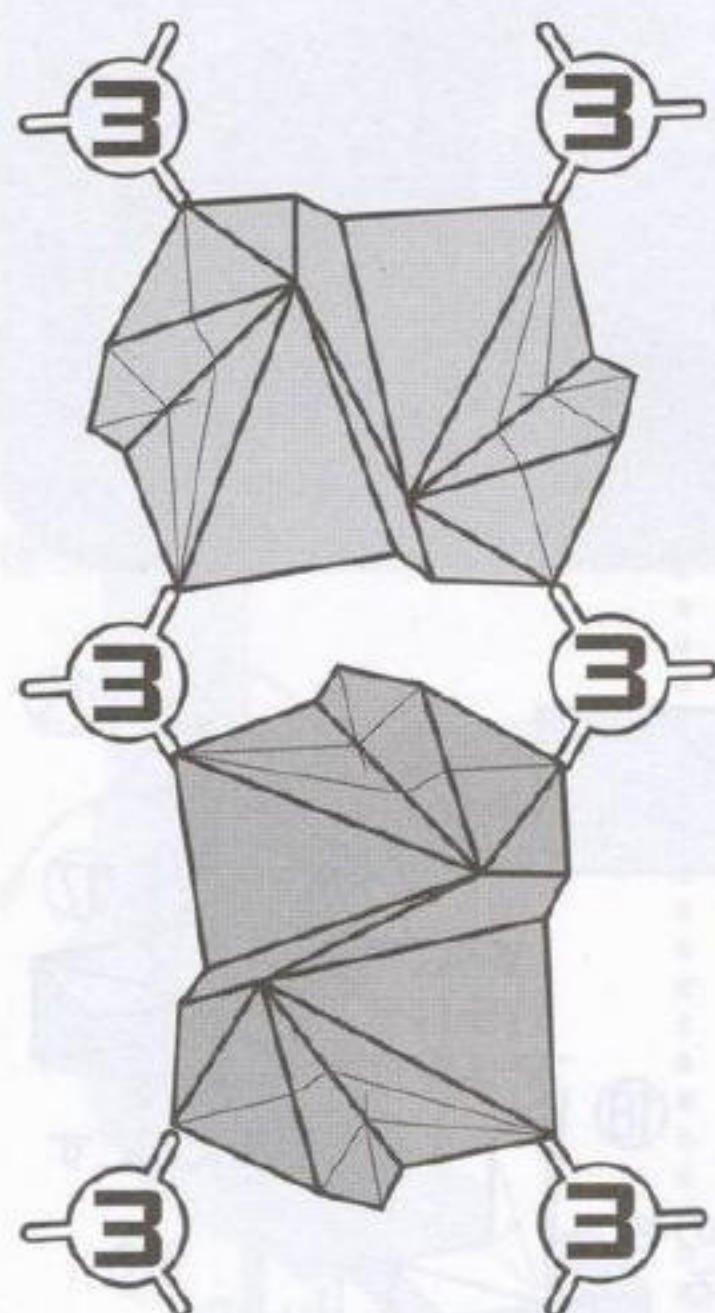
【12枚組】



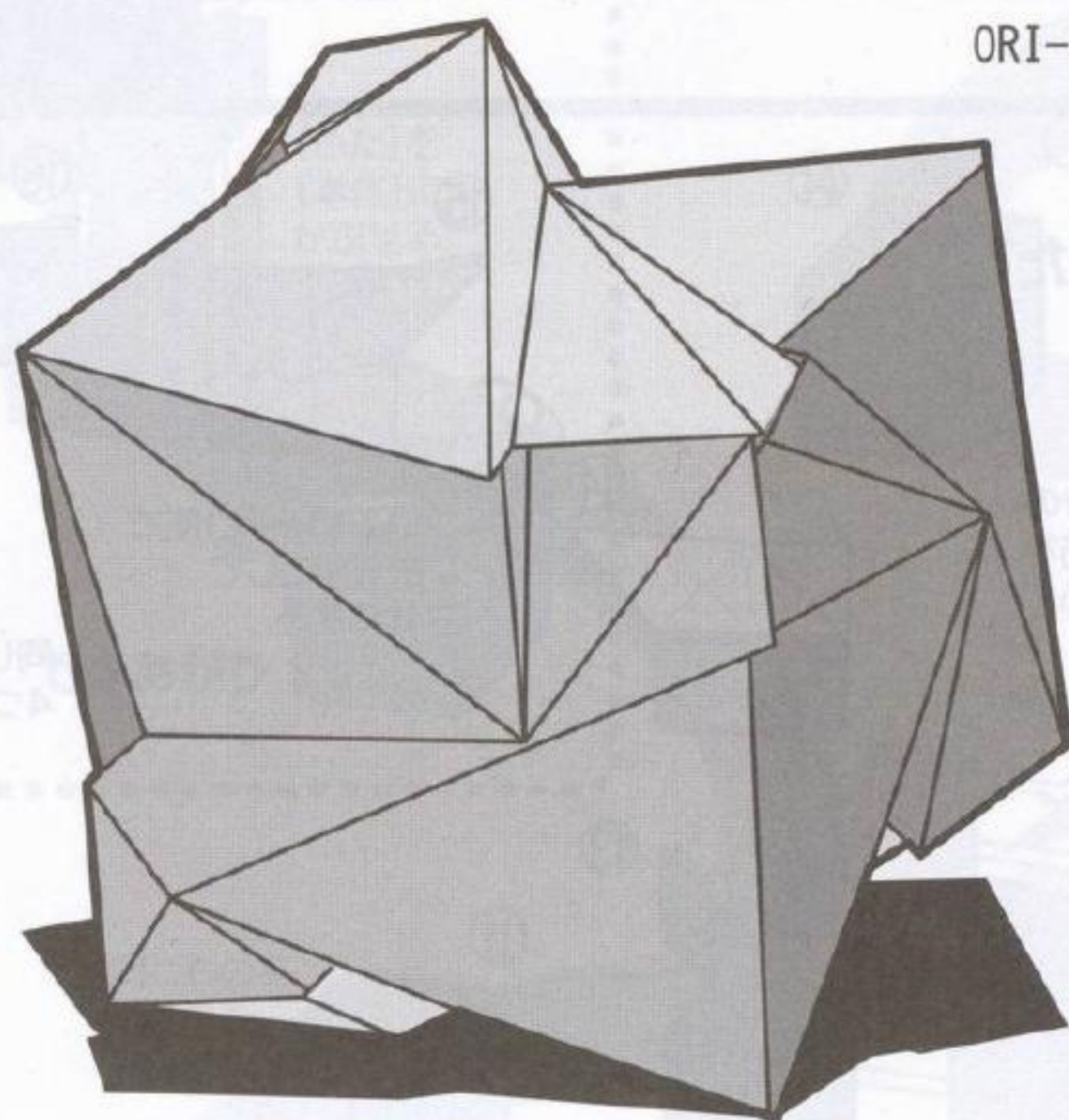
ORI-CUBE的展開図



【6枚組】



ORI-CUBE的展開図



折り紙の 周辺

Origami and
Its Neighbors

布施知子 Fuse Tomoko

第40回

足跡
Tracks

春の雪が降っている。同じ雪景色でも初雪とちがって見る側にゆとりがある。ひとたび日が射せばあわあわとすぐに融けてしまうだろう。冬の散歩のたのしみに動物の足跡を見ることがある。雪の上に刻された足跡は、普段伺い知れない動物の動きをたどることができる。このあたりは人が少なくなった分野生動物が押して来て、足跡は

にぎやかになった。偶蹄類のシカ、カモシカ、イノシシは足跡を発見すると「あっタビックス。あっ源氏パイ!」とその時の気分で呼ぶ。蛇足ながら『タビックス』は足袋とソックスのいいとこ取りをしたもの。『源氏パイ』は相当昔からあるお菓子のこと。三種の足跡のちがいを私は判別できたりできなかったりする。今年も静かな冬の日が続き、人より動物の気配に囲まれて暮らした。冬期オリンピックのリュージュをみながら、動物のリュージュ大会をやったらイノシシが一番だろう。タヌキは失神するだろう。などと暢気なことを言って笑った。

昨年スペインのサラゴサで開催された折り紙展のカatalogueが送られてきた。力作ぞろいの作品をみながら、個性と紙の扱いについて考えた。対

象の選び方から個性は始まる。折り紙は幅広い作風があり、すべてに精通しているわけではないので、技巧や設計のオリジナル性などとはして対象物で鑑賞してしまうことがある。腕に覚えのある方は、今までだれも折ったことのない新鮮な対象を探して、見るものを驚かせてください。紙の扱い方では、紙の柔らかさを操って膨らみやカーブを生かしたもの、もんだりねじったりしたもの、きっぱりと直線で表したもの、いろいろあった。世界中に折り紙に情熱を注いでいる人がいる。

久しぶりにやってきた友人が仕事場を見て言う。「それ展覧会用? また本にするの?」「何のあてもない。ただ面白いからやっている」と答えた。

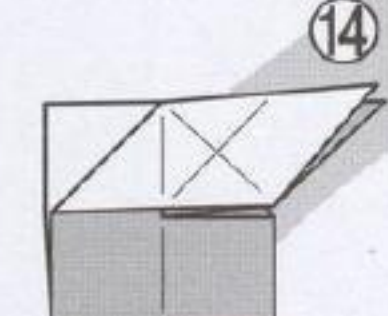
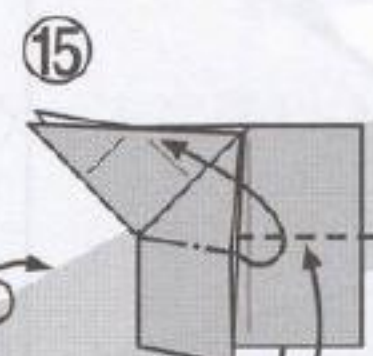
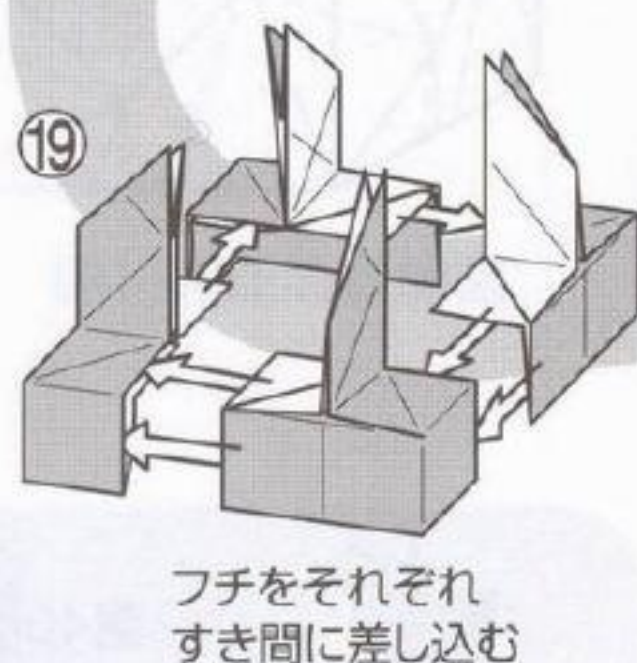
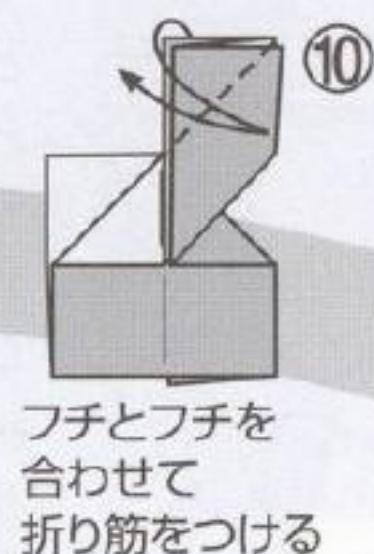
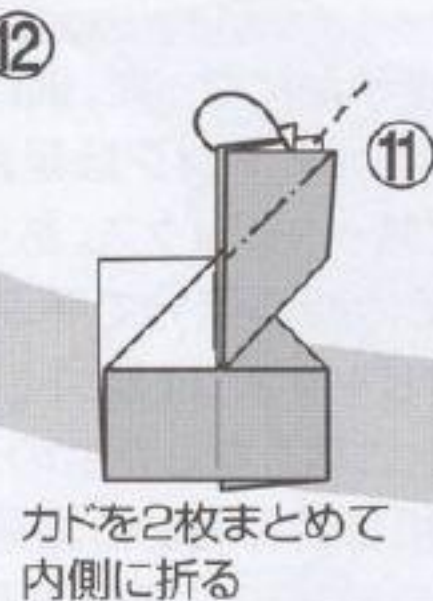
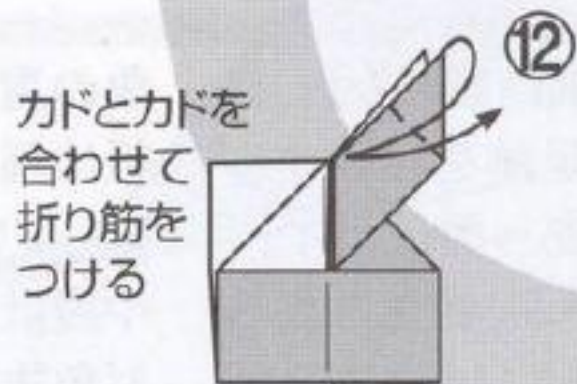
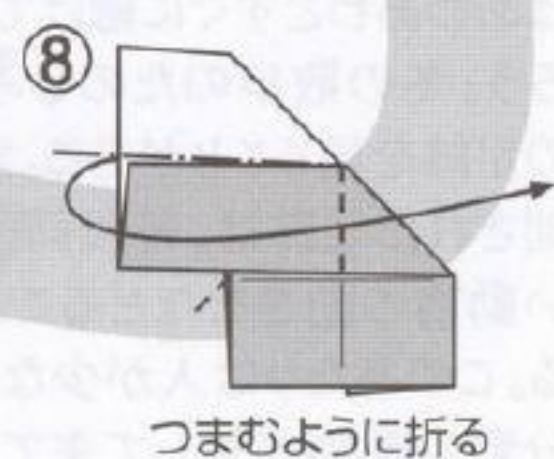
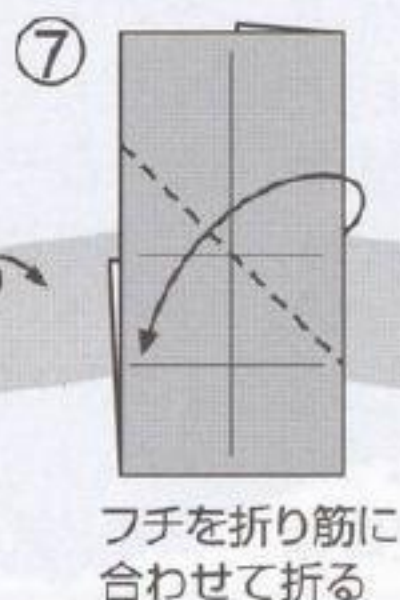
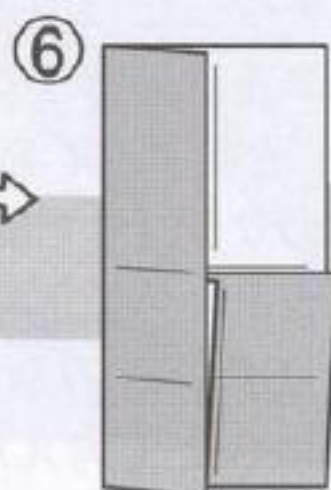
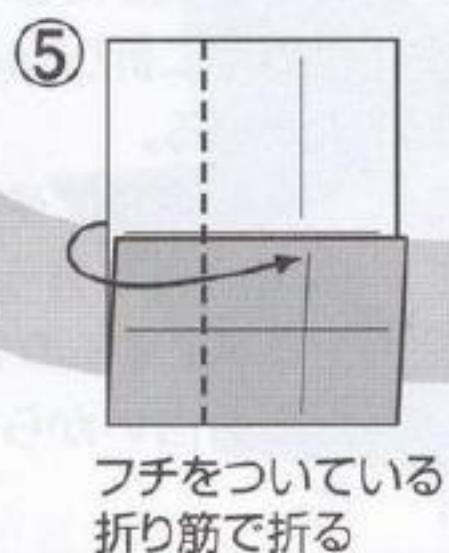
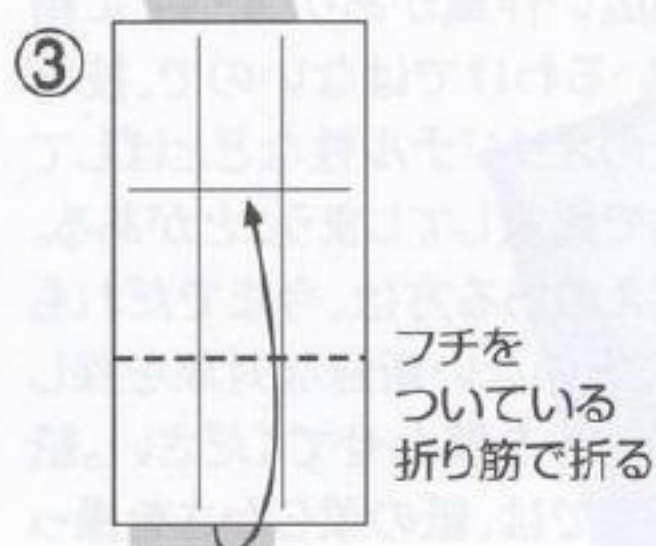
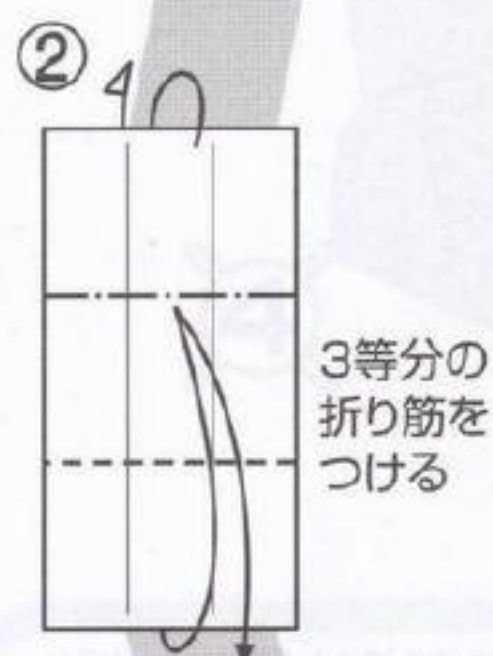
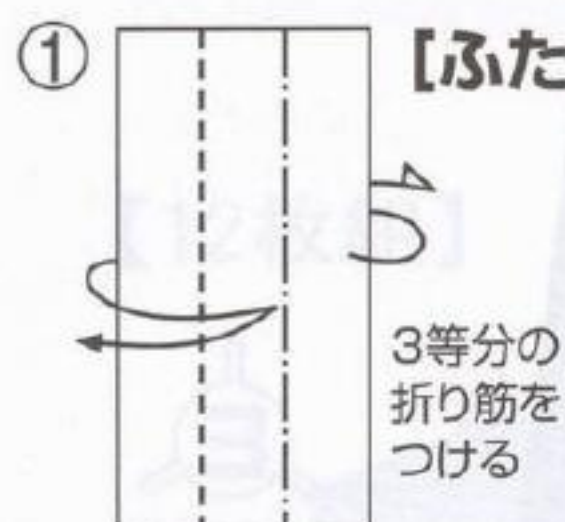
第41回 四角箱 風車・手裏剣 Square Box: Windmill, Ninja Throwing Knife

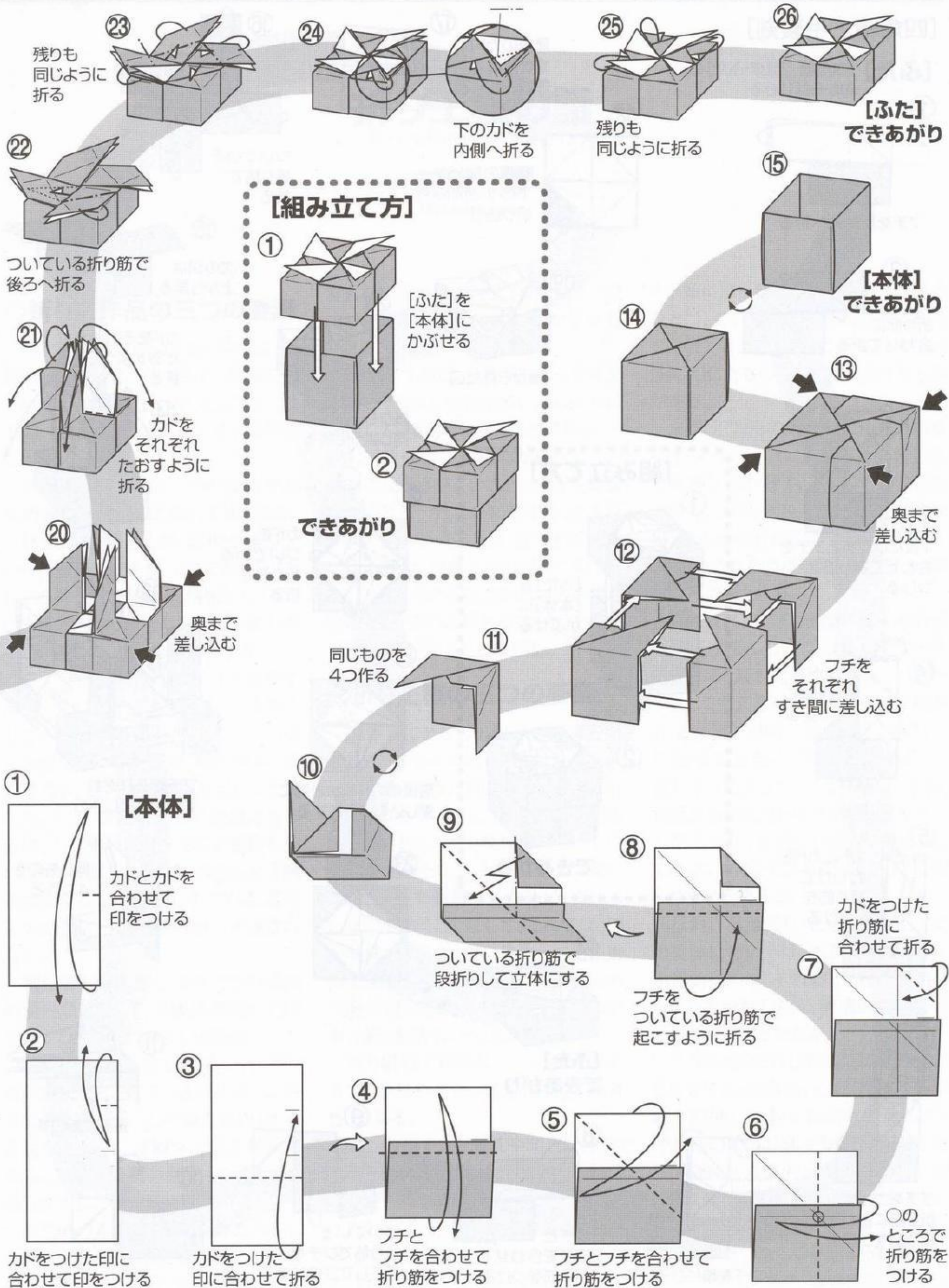
今回紹介する箱は、ふたの上の部分のカドの折り方を変える事で、いろいろな飾りや模様をつくる事ができます。たくさんのバリエーションのなかから、2種類を紹介합니다。



[四角箱 風車]

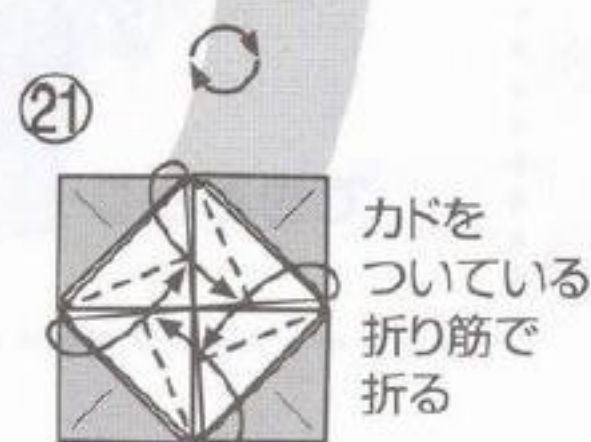
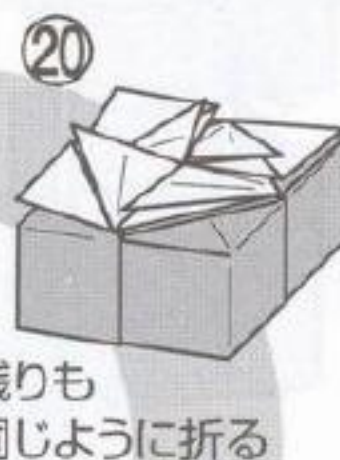
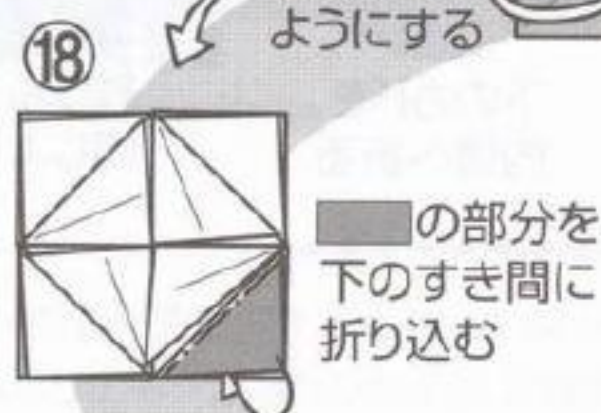
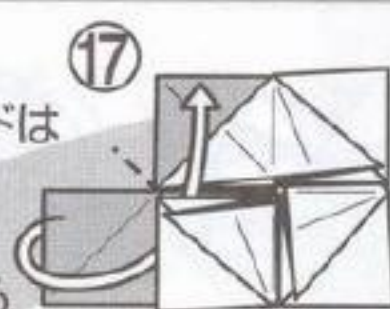
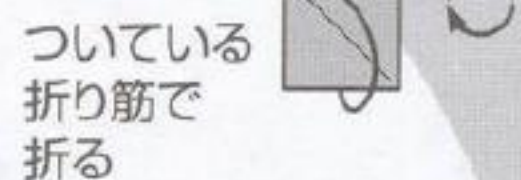
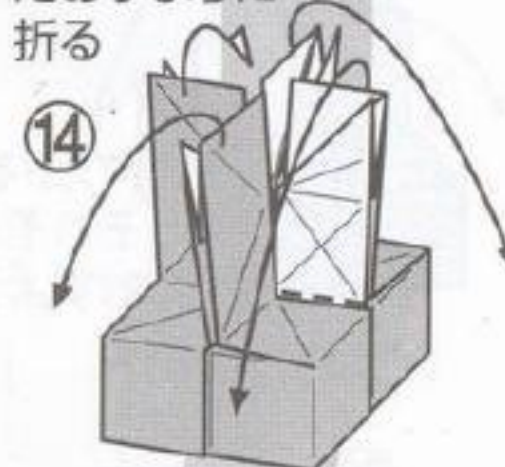
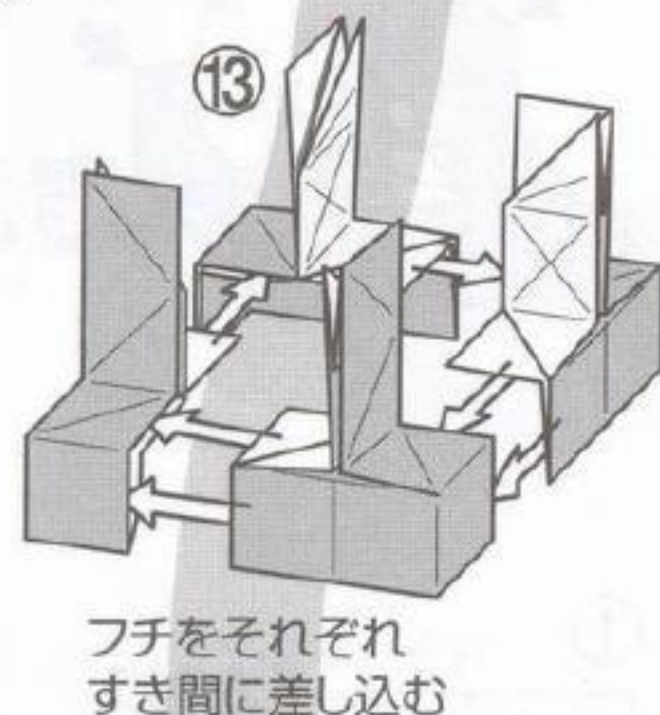
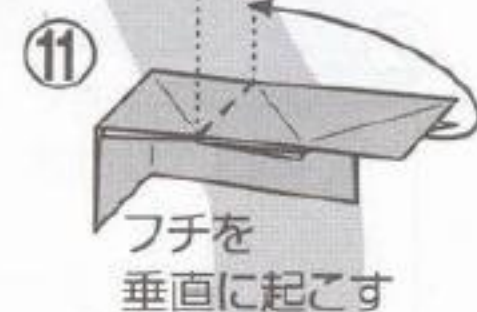
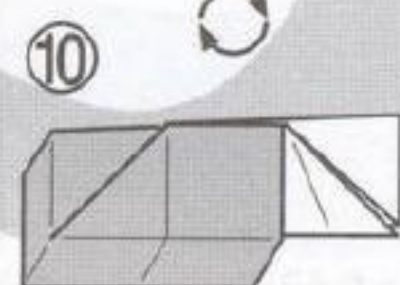
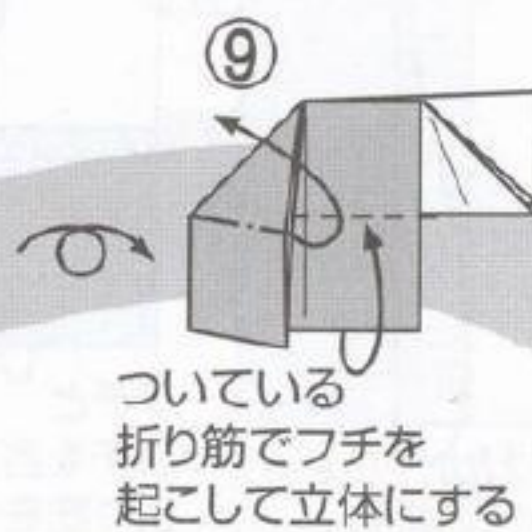
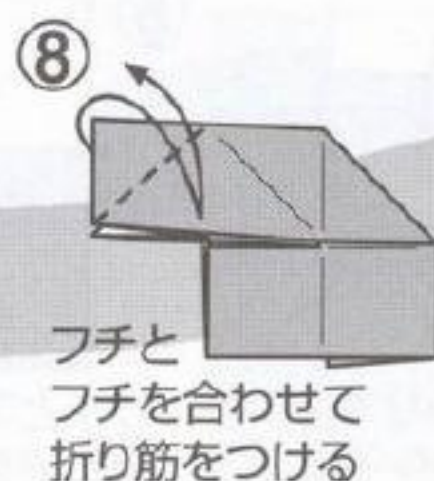
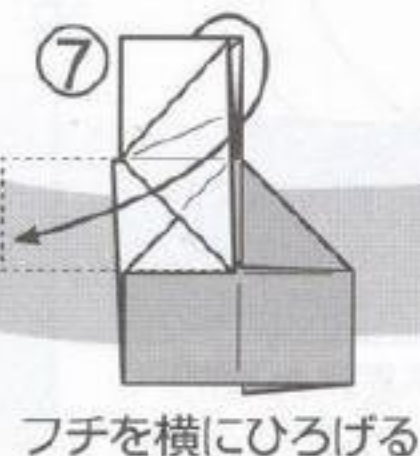
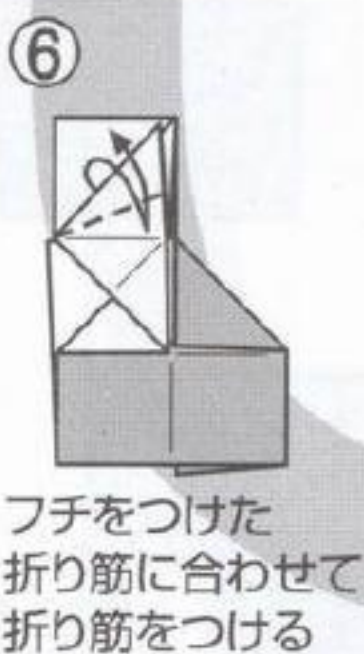
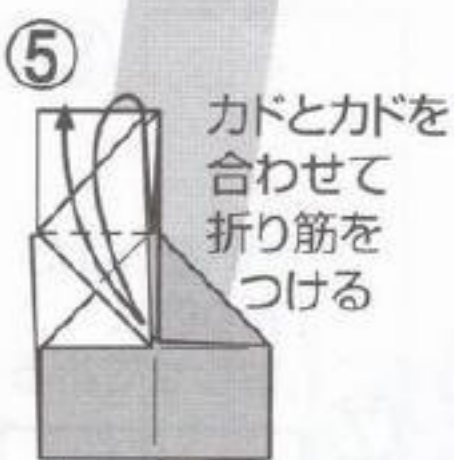
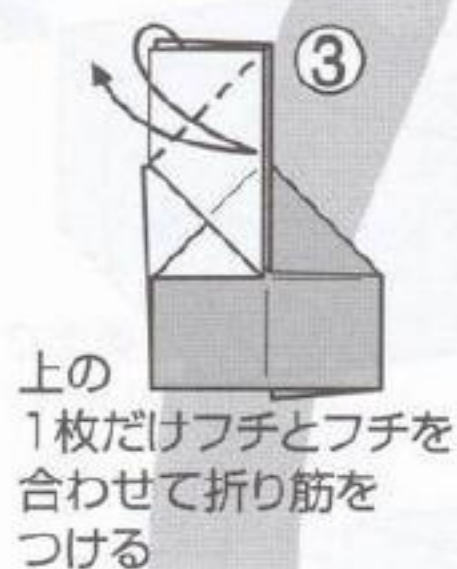
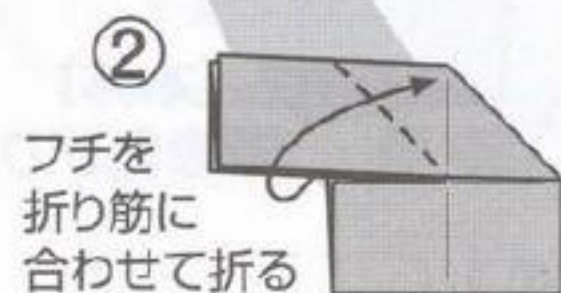
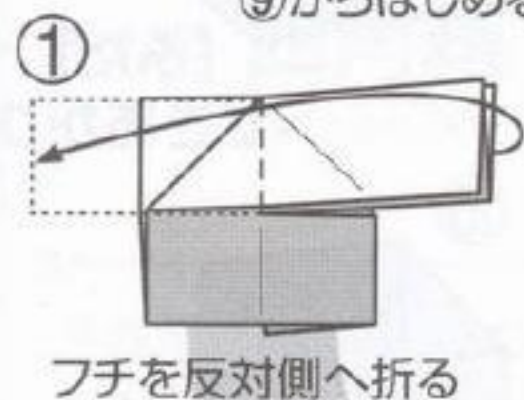
① [ふた]





[四角箱 手裏剣]

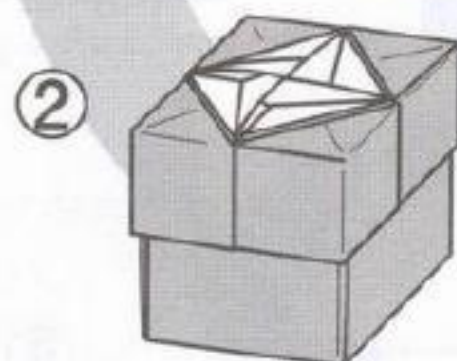
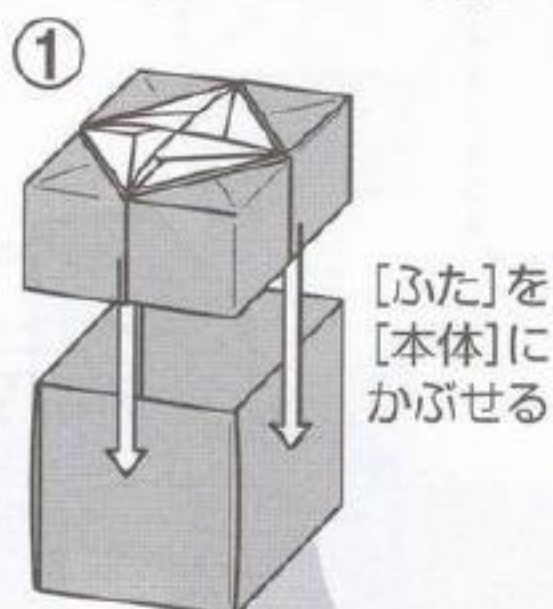
[ふた] [四角箱 風車・ふた]の⑨からはじめる



[ふた] できあがり

できあがり

[組み立て方]



できあがり

折り工程の話

On the Folding Procedure

前川 淳

Maekawa Jun

◇折り紙作品の三つの要素

「三つの要素がある」というのは、演説の基本テクニックである。演説をしているわけではないが、ここでも、以下の一文から、このエッセイを始めることにしよう。

折り紙の作品には三つの要素がある。外観(かたち)と、構造と、工程である。

ほかにも、たとえば、表現や素材といった要素もあるが、ここでは、モノとしての折り紙ではなく、情報としての、つまりソフトウェアとしての折り紙を考えているので、それらは除外する。

まずは、外観。これに多言を費やすスペースはここにはないので、省略させてもらう。次の構造というのは、ハサミを使っているか否か、紙の枚数、紙の重なり、展開図の構成などのことである。今日、作家の間で話題になるのは、この構造に関することが最も多い。創作理論というの、ほとんどが構造に関することである。そこでは、どのような順番で折るかにはあまり考慮されない。

創作者も鑑賞者も、この三つの要素の優先順位として、外観>構造>工程となっている場合が多いだろう。

しかし、書籍を見て、あるいは、折り紙教室に参加してじっさいに折ってみる愛好家の場合、この優先順位は、また違う。たぶん、外観>工程>構造である。工程>外観>構造ということもあるはずだ。

折り紙の本質は、単純なかたちをした紙が、ひと折りひと折りごとにその姿を変えていくことにある、という捉え

方もあり、むしろ、そちらのほうが一般的とも言える。そこでは工程が最重要となる。

しかし、工程は、創作者にとって前面にはでてこないことが多い。あるいは、意図して、後回しにすることがある。一般的に言って、工程はわかりやすく、スムーズなほうがよいことにあまり異論はないだろうが、これに反することを行う場合もある。たとえば、完成形の中には不要な、無駄な折り目をつけたくないときなどである。これは、もっともな思いだが、それに拘わるあまり、工程が格段に難しくなることがある。

◇折り工程の三つの要素

創作者にとって工程の優先度が下がることのあるのは、それが、主に、作品の伝達という段階になって意識されるためである。これに関しては、工程と大きく関わる、図や映像の表現という問題設定もある。しかし、これらに関しては、論点を整理するために、深入りしないでおくことにして、ここでは、図や映像をつくることに先立っての工程の工夫を、考察の対象としたい。この文脈に沿って、もういちど、「三つの要素」論法を使うことにしよう。

折り紙の工程には三つの要素がある。わかりやすさ、覚えやすさ、意外性、である。

わかりやすさと覚えやすさは、同じように思えるかもしれないが、これは異なるものである。

たとえば、鶴の基本形を折ることを考えてみよう。ひとつは、三角に折って、もう一度折って、袋をひろげてとい

う手順に沿ったものである。そしてもうひとつ、これは、数学遊戯の本に載っていた「羽ばたく鳥」の折りかたの記述に即したもののだが、次のようなものがある。

まず、正方形の対角線に山折りの折り目をつける。次に各頂点から各辺を対角線に合わせて、谷折りの折り目をつける。このとき各々の折り目は、それらの8本の線分が交差する点までとする。(略)これらの折り目を使って、一気に菱形にまとめる。

これは、いわば、折鶴の基本形の展開図折りである。ここには、いくつか特徴がある。最も大きい特徴は、一読ややこしく思えるが、言葉だけで工程がほぼ完全に説明できていることだ。これと同じことを、「三角形に折って」で、果たそうとすると、かなり難しくなる。電話で折り紙の折りかたを伝えるゲームがあるが、後者のほうが、情報としてはコンパクトにまとまっていて、理解しやすいと言える。

なお、「言葉だけ」ということは、この文脈においては、本質的ではない。本質的なのは、それが、工程の説明でもあるにかかわらず、構造の説明に近づいていることである。

これらのことは、次のように考えることもできる。前者は、心理学でいう「手続き記憶」、つまり、自転車の乗りかたや水泳のように「体で覚える」記憶であり、後者は「宣言的記憶」、おおざっぱに言えば、知識としての記憶であるということだ。折り紙の作品を覚えるとき、ひとつふたつなら手続き記憶でもよいが、そうでない場合、宣言的記憶のほう



折り工程の話

On the Folding Procedure

前川 淳

Maekawa Jun

が効率的である。多くを覚えやすいのは、宣言的記憶の要素が多いほうである。また、いわゆる展開図折りにすこしでも慣れたひとなら、展開図折りの要素のある工程のほうが、そうでない工程よりも覚えやすいと言える。

わかりにくい話になってきていると思うので、例を挙げよう。

わたしの「人形」という作品がある。この作品は、もともと展開図折りに向いた作品である。そして、『折紙探偵団98号』(2006)に載った、宮島登さんが描いてくれた図は、展開図折りの手法を取り入れた工程になっていたと言える。いくつか折り目をつけたのちに、折り畳み始める。「いったん開く」という工程がその象徴だ。この工程は覚えにくくはない。いっぽう、拙著『本格折り紙』(2007)に載ったものは、工程がまったく異なっている。ここで考えたのは、宮島さんの図と違うものにすることもあったが、次のようなことだった。

「展開図」のなんたるかを説明するために使った作品でもあったので、逆

に工程のほうでは、遊びどころを出して、展開図折りの「折り目をつけておく」という手法を、なるべく排除しようとしたのだ。立体的な「途中の図」も使わないようにして、かぶせ折りもやめることにした。できあがったのは、面白い工程であった。しかし、これは覚えるのは難しい。わたし自身もちゃんと覚えていないぐらいである。

この工程で折ると、いわゆる余計な折り目もつく。余計な折り目もつくし、覚えるのが難しい。よいところはあるのか、と訊きたくなると思うが、それはある。図を見て折るぶんには折りやすいのだ。これは、まさに、わかりやすさと覚えやすさの不一致の一例なのである。これに関連する話題としては、絵に描きやすい工程と、そうでない工程ということもあるが、それに関しては、ここではやはり、そういう問題もあると触れるだけにしておく。もうひとつ、この工程には意外性がある。これも重要である。

◇意外性と伏線、立体化

工程を考えるときのキーワードのひとつが、この意外性である。「折り目をつけて一気にまとめる」は、折り紙をあまり知らないひとには、意外性のある技法かもしれないが、推理小説に例えると、つぎのようなことになるのではないか。

様々な伏線が散りばめられた物語の終章、容疑者を集めた前で、名探偵がパイプをくわえて「さて」と言い、説明を始める。こういう物語にも面白さはある。しかし、ストーリーの起伏に翻弄される楽しみはすくない。意外性も探偵の言葉に集約されてしまう。折り紙の工程でも、ときには、うねりのあるストーリーをたのしみたい。

ストーリー構成の一例として、いま例えにつかった「伏線」の話をしよう。折り紙の工程における伏線とは、つまり、目安になる折り目やあとで使う折り目のことである。これは、なるべく「自然に」つけたい。これは、「余計な折り目問題」と

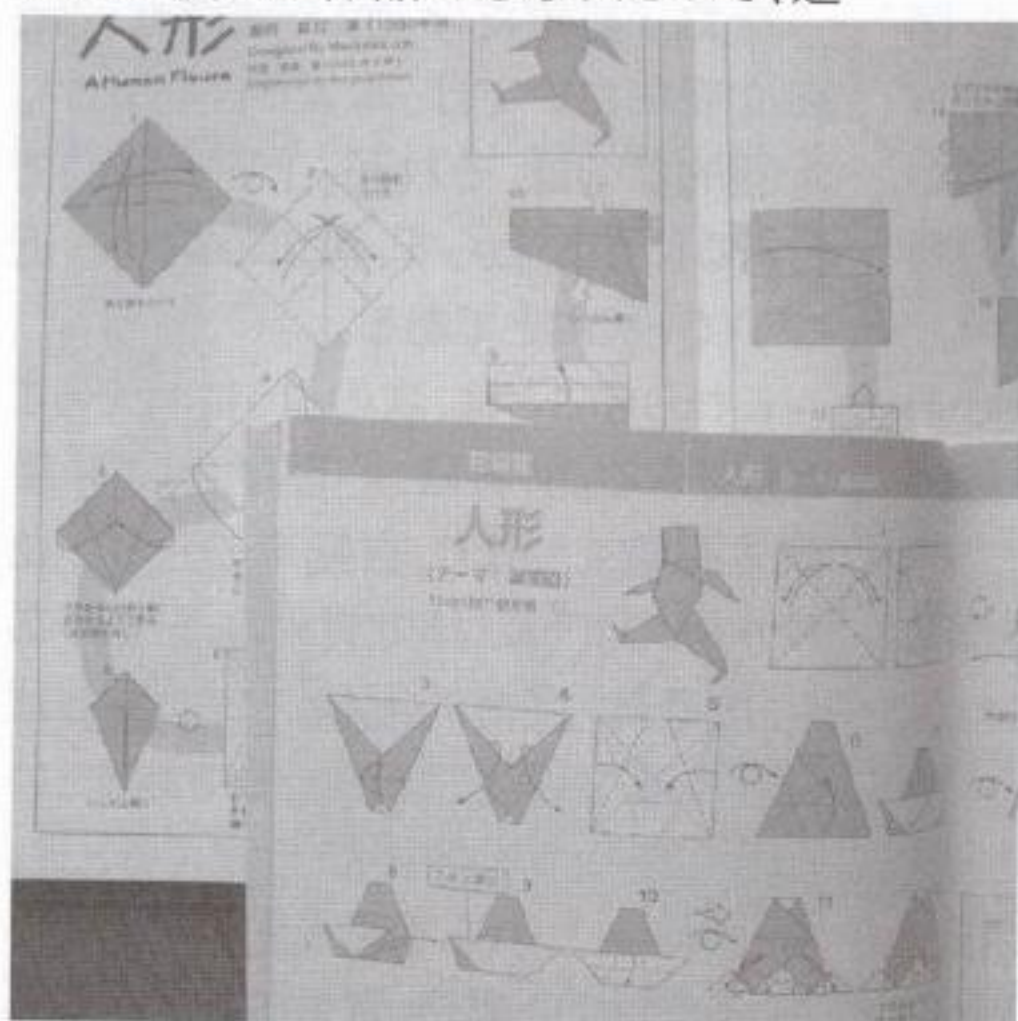


図1…「人形」…宮島登さんの図と、前川の図。大きく異なっている

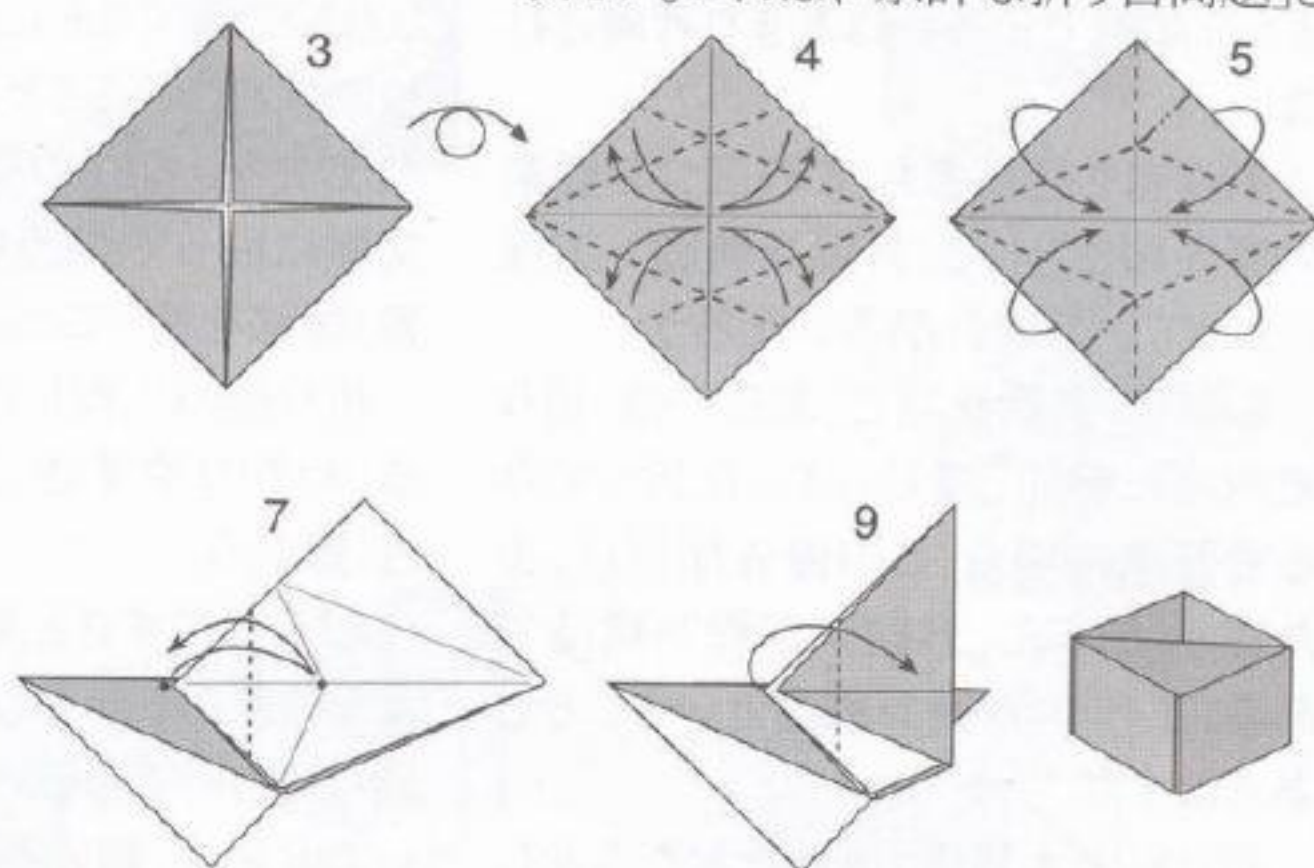
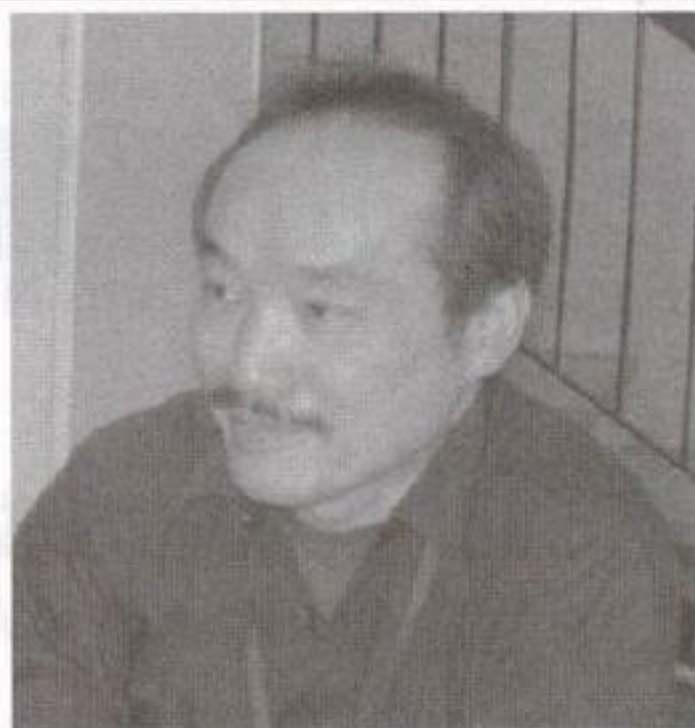


図2:「仕切りのある升」(桃谷好英さんの作品のアレンジ):工程7の折り目の目安は、意外なところでつけられる

○前川淳(まえかわ・じゅん)=折紙創作・研究家。折鶴モノのコレクター。
ひさしぶりに「折り紙の周辺」ではなく、折り紙の記事を書かせてもらった。



も関わってくるのだが、余計と思っていた折り目が余計ではなかったとき、その工程は、作者会心、あるいは、天に祝福されたもの(大仰だけれど)になる。

例として、桃谷好英さんの作品である「仕切りのある升」の、わたしのアレンジ作品(未発表)を見てみよう。桃谷作品の丈を高くしたものである。この作品は、まず座布団折りしたサカナの基本形から始まる。これだけでも意外性があるが、ここでの要点は次のことだ。このサカナの基本形を折るとき、慣れたひとほど、図2の工程4のような余計な折り目をつけない折りかたをするはずである。しかし、この、中央をすぎた斜めの折り目は、あとで重要になる。工程7で、点を合わせる基準になるのだ。気を利かせて、「余計な」折り目をつけないつまみ折りとすると、基準になる折り目がなくなってしまう。

余計な折り目をなるべくつけないの思いは、よくわかる。とくに曲線の造形や、広い面などがある場合にはそうなる。しかし、できれば、流れのある工程の中でつくべくしてついた折り目は、作品の一部であると考えたいし、むしろ、積極的に生かしたい。それは、完成作品のなかに表現された工程の軌跡でもある。

なお、一見造形にはなんの寄与もしていない折り目にも、注意が必要なことがある。それは、純粹幾何学的には、平面についた線にすぎないが、じっさいはそうではないからだ。つまり、山折りを開いたものか、谷折りを開いたものかは、大きな違いがある。

『トッポりがみ』(笠原邦彦・高濱

利恵)に載った、6枚組の「正12面体ユニット」というわたしの作品がある。じつは、これは、工程がひとつ抜けていると言える。どこかで、外に出る面の中央の折り目が山折りになるような工程をいれておくべきなのである。そうすることで、意識しなくても、というか、細かいところを意識しないひとが折っても、格段にきれいに組める。うまく折るひとは、こうした工程がなくても、折りの技術によりうまく折る。しかし、こうしたことの配慮は、工程上の大きな工夫となる。

折り紙の工程の理想のひとつは、その通りに折っていけば、特別な注意がなくても、きれいに完成形まで行けるということであろう。そのときに、山折りを開いた折り目か、谷折りを開いた折り目かということは、見落とされがちであるが、重要なのである。これには、個人的に反省点も多い。正面を向いた動物の顔の正中線がへこんでいるのはよくないが、過去、そうになっているものもあったからだ。

工程におけるハイライト、最も意外性のある工程として、一気の立体化ということがあるので、最後にこれに触れておきたい。かつて伏見康治氏は、折り紙の条件に「完成直前まで平面に折り畳まれている」ということを挙げていた。たしかに、伝承作品はそうだ。それまで平面的だったものが、最後に立体化する。典型的なものは、なまずや宝船で、折鶴もそうである。なまずなど、破れるのではないかと思いながら引っ張ると、見事に立体化する。その工程は、ほんとうにここちよい意外性に満ちている。一度完成形になると、前の工程に

は簡単に戻れないところもまたよい。こうしたストーリーに成功した作品は、わたしもほんの数点しかない。

◇終わりに

以上、つれづれに、折り紙作品の三大要素のひとつである「工程」について書いてきた。この問題に意識的な作家はすくなくないが、そのことがとりあげられるのは稀である。とりあげられても、「わかりやすい図」という問題に集約されることが多いが、それとこれは完全に重なることではない。

このエッセイが、完成形や、構造に比べて、後回しになりがちな「工程」のことを考えるきっかけのひとつになればと思う。工程を考えることはたのしい。それは、余計な折り目の排除や、わかりやすさ、意外性など、さまざまな項目の天秤でもあるが、それらがうまく具合に合致・併存することもある。そうになったときの達成感は、作品が完成したときより大きいことがある。いや、むしろ、工程の完成が作品の完成と言えるのだろう。

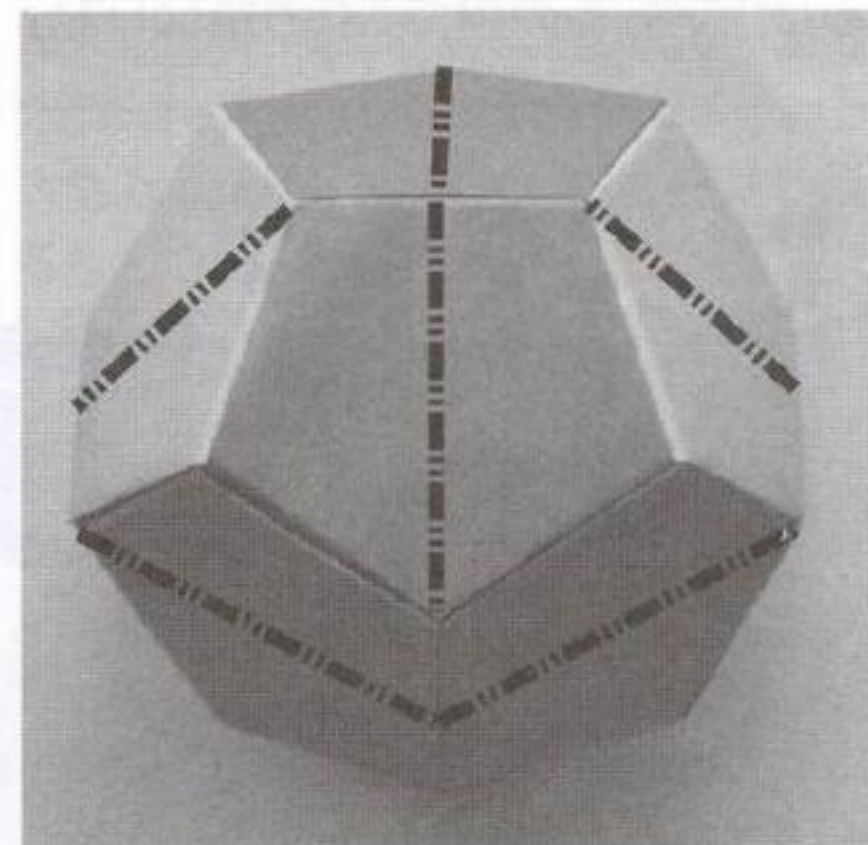


図3:「正12面体ユニット」:中心線は山折り気味のほうがよい

第5回 折り紙の教育的価値を高めようとした人 大橋皓也さん

Ohashi Koya: A Man Who Tries to Raise the Academic and Pedagogical Value of Origami

大橋さんは、1928年生まれの82歳。日本折紙協会（NOA）の3代目理事長であり、前回ご紹介した長野耕平さんと共に、NOAの立ち上げに尽力した人だ。東京芸術大学を卒業。美術・造形教育の専門家として、福島大学教授、上越教育大学教授を歴任した、美術的・教育的折り紙のスペシャリストである。過去の月刊『おりがみ』や『季刊をる』を購読された人には、「オリガミツリー」の提唱者としてもなじみ深いであろう。

●折り紙普及への思い

戦後の「自由」な教育思想の中で、戦前の模倣を主体とした造形教育は否定され、折り紙も創造性に欠くとして教育現場から排除されたという。そこに大橋さんは大きな疑問を抱き、もっと折り紙の良さを広める必要性を感じ、そのための拠点としての「協会」の存在意義を、『おりがみ』準備号 vol.1における対談で、熱く語っている。教材として折り紙が使われるようになることは、大橋さんの悲願であり、NOAの目標の一つでもあった。

当時の日本は既に大量消費社会に突入しており、大橋さんは対談の中で、与えられたものの中から選ぶ自由しかなくなっている現状では、受け身の人間しか育たないのではないかと、教育者的立場からの警鐘を鳴らしている。そして「いま教育界では手の作業を再評価しようという動きがある」と述べ、その中でも折り紙は「自分

で創作できて、自分のイメージを具現できる」主体的表現方法であると、将来性に大きな期待を寄せている。

●オリガミツリー

個人が主体的に物を作るにも、何も無しに自由にさせては、逆に限界がある、というのが大橋さんの持論であった。「正しい伝統の継承」がなされた後に、創造性・創造力を導き出し、正しく評価することが教育の場で求められており、それが文化の発展にも繋がる。その継承の為には、折り紙作品をひとつずつバラバラに捉えるのではなく、少数の基本形（基本折り）から発展して、枝分かれした先に存在するという、発展のプロセスを踏まえた全体像を把握することが重要であると考えた。これがオリガミツリーの発端である。オリガミツリーは、『おりがみ』初期の「折り紙セミナー」という連載の中で発表され、創刊号（1974年）の鳳形基本折りを始めとして、折り本基本折り、

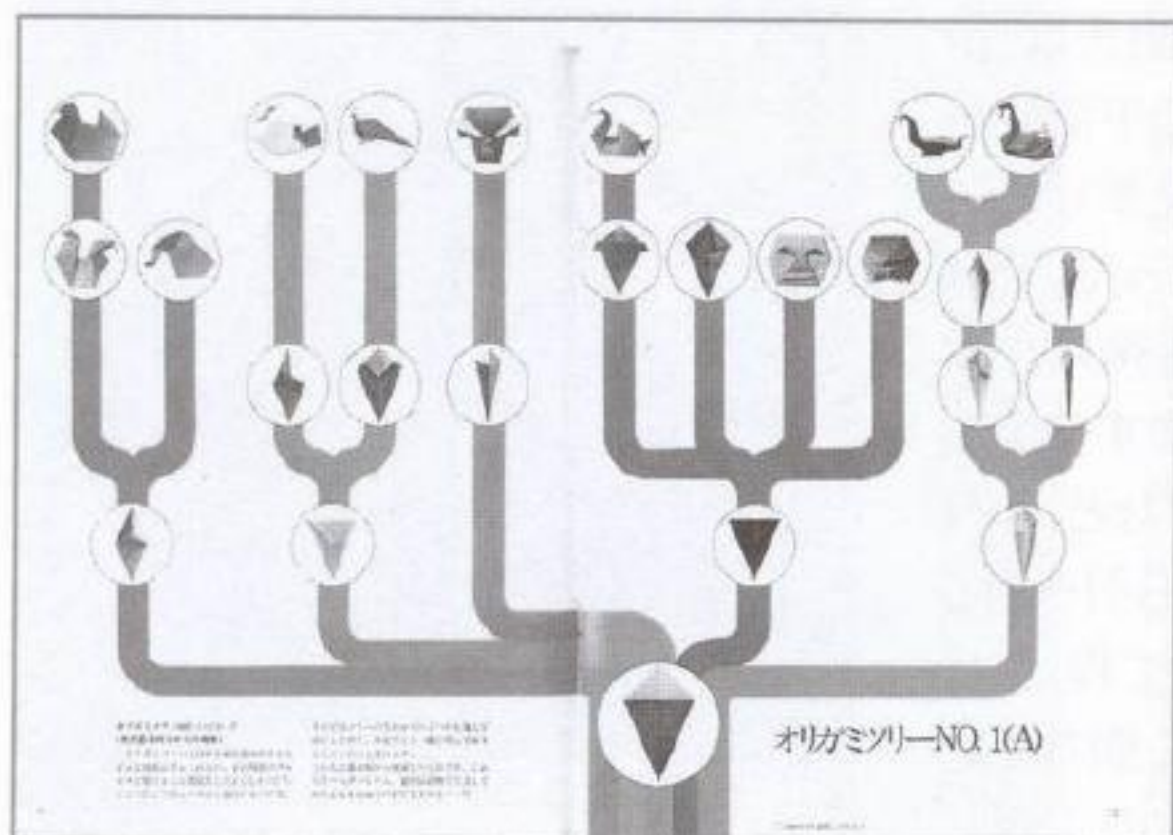
風船基本折り、正方基本折り……と8回に分けて紹介された。後の月刊『おりがみ』にも再掲載され、読者には大きな影響を与えたことと思う。

●折り紙評論家としての活動

初期の機関誌編集にも携わっていた大橋さんは、美術専門家として、NOAでは評論家的なポジションにあった。「折り紙セミナー」では、基本形と発展手法を紹介すると共に、その基本形を用いた創作作品の募集や批評も行っていた。通巻2号（1974年）からは、読者投稿コーナーにおいても、作品選出と批評を担当していた。このコーナーの常連であり、期待すべき若手ナンバーワンとして評価されていたのが、何を隠そう、我が折紙探偵団（現日本折紙学会）の発足メンバーである、初代団長の木村良寿さんである。なかなか目新しい作品が出て来ず、近い将来、創作作品は出尽くすのではないか、という不安もあった当時、木村さんのユニークな題材選びと造形センスは、大橋さんの目に瑞々しく映ったに違いない。

●メキシコ派遣

当時の日本は、高度経済成長期を経て、戦後の驚異的な復活をした国として世界の注目を集めていた。その



▲『おりがみ』創刊号に掲載されたオリガミツリーNO.1



▲最初の評論ページ。3点が木村作品



▲高濱さんの連載で紹介された木村さん

大橋皓也
福島大学助教授といういかめしい肩書はしらすの時代だけ、一杯、はいれば、折り紙に憑かれた万年青年。
或る時は冷静沈着、老成のおもむきありと思えば一転して義憤を覚し、ベスピアスの噴火もかくやと思うばかり。折り紙に無理難題の輩は、ポンペイの甕をまぬがれず。

◀前回に続き、会誌Vol.2に掲載された「NOAサロン常連プロフィール」より、大橋さんの紹介文

○やまぐち真(ヤマグチ・マコト)
=1944年東京生まれ。NOA事務局を経て、おりがみはうすを設立。海外交流を積極的に行うと共に若手育成に努力。NOA理事、JOAS事務局長兼顧問。趣味は競馬。



▲2008年OUSAのNYコンベンションでスピーチする大橋さん

理由は、日本人は箸を使い、子どもの頃から折り紙やお手玉で手先の器用さを養ったからである、というところから、国際文化交流の一環として、NOAへ折り紙講師の派遣依頼が来るようになる。その最初は「メキシコ折り紙展」だった。これは、日本で開催された第1回世界折紙展の作品ブースを持って行って展示したもので、1979年9月25日から10月9日までの15日間、メキシコシティのシケイロス美術館で開催された。この時にNOAはメキシコツアーを企画して、20人程の団体にメキシコシティを訪問した。この時の団長が大橋さんである。私は、この時すでにNOA事務局を辞めており、大阪支部の支援でツアーに参加することができた。

◎折り紙作家としての顔

大橋皓也さんは、造形教育専門家としての折り紙の著書が何冊かあるが、中でも『創作おりがみ』(美術出版社1977年)は、一般折り紙愛好家にも知られている1冊である。また代表的な

創作作品といえば、「おしゃべりカラス(初出タイトル「くちばしの開くトリ」1975年)」であろう。これは前述のオリガミツリーにおいて、鳳の基本形の発展として紹介された。しかし初期には、主に「大羽志功」というペンネームを使って作品を発表している。その理由は不明だが、大羽志功名義の作品は、1974年準備号vol.3の「変形三角翼ヒコーキ」に始まり、1976年3月号(第2巻第1号通巻4号)の「ソンプレロ」、6月号(第2巻第2号通巻5号)の「兜」など意外に多い。初期の『おりがみ』を見る機会がある人は、探してみるのも一興かもしれない。余談だが、この頃にNOA事務局に入ったばかりの私も、母方の旧姓を用いた「折山慎」や「磯海一彦」という甥の名前を使って「コックピットつきヒコーキ」や「スヌーピー(くびふりワンワン)」を発表している。私の場合は、若輩かつ編集者側であることから、先達の人達を差し置いて折り方を発表するのは好ましくないという理由からだった。NOAの設立目的の一つには家元制の廃止もあったが、まだまだ難しいところも残っていた。

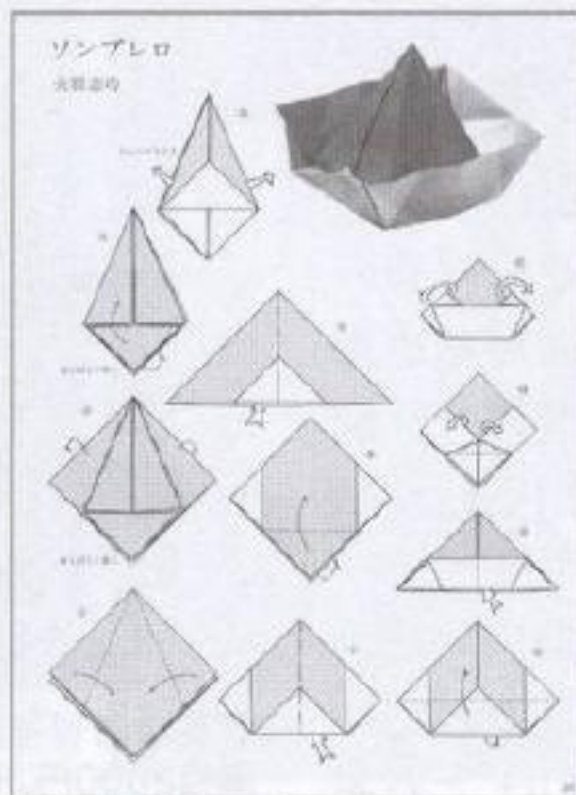
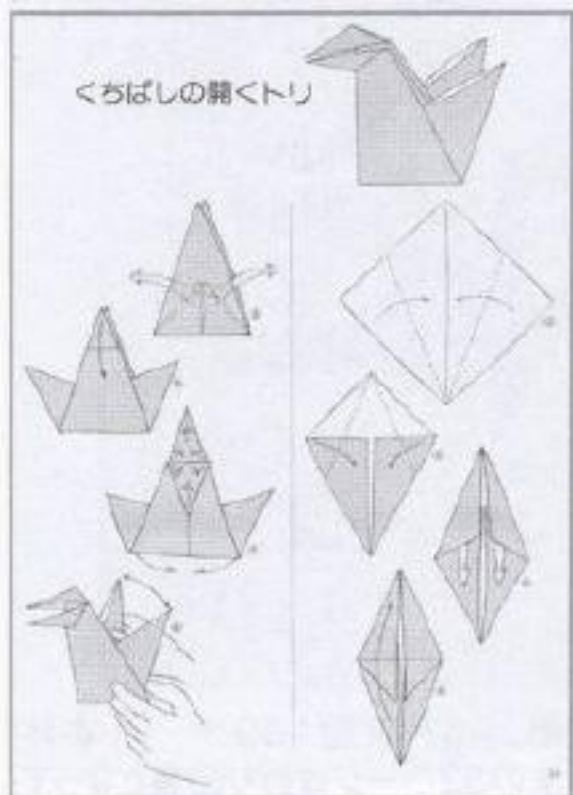
◎もうひとつの顔

大橋さんと言えば、NOAシンポジウムや総会での懇親会仕切り役としての顔も有名である。この役目は第1回目から35年、譲られた事は無いら

しい。お酒の力も手伝い、このときばかりは陽気なMCになって、場を盛り上げ続けている。また、折り紙の普及活動に頑張っている人達の名前を呼んで、壇上にあげて紹介するのは、もう長年の恒例となっている。そこに未だ私が呼ばれたことがないのは、あまり好かれていないからのようだ。

大橋さんと私は、NOA以外での付き合いもある。『季刊をる』では、創刊号から4号までの1年間、「折り紙を伝える」をテーマに、私との対談形式による連載を持っていたし、テレビ東京の「TVチャンピオン」では、審査員を務めてもらったこともある。どちらの企画も、実は私のプロデュースによるものだ。好かれていなくても、その人の実力を認めて起用するのは、自分の長所であると自負している。

NOA初期メンバーの現役としては、私は未だに「若手」であるが、世間一般では高齢者の域に入った。日本折紙学会では、実力ある後継者を育てることができたが、NOAではまだそれが実現されていない。大橋さんの目指した、教育における折り紙の価値を伝え、次世代を担う人材を今からでも育てて欲しいと思う。それこそが、大橋さんの功績を讃える事にもなる。今までの実績を託して世代交代をするという大きな役割は、大橋さんにこそ成し得るものであると思っている。



▲初出の「おしゃべりカラス」と大羽志功名義の「ソンプレロ」



▲20年程前の懇親会。「日本全国酒飲み音頭」の替え歌は定番。右から2人目が大橋さん

折紙図書館の本棚から

From the Bookshelves of the JOAS Library

小松英夫

Komatsu Hideo

18 冊目『季刊をる』 双樹舎・刊

"Quarterly ORU" Published by Sojusha

「折り紙と『折る文化』を考える」のキャッチコピーの下、「大人のための折り紙雑誌」を標榜した『季刊をる』は、折り紙団体ではない一般の出版社が定期刊行するという、過去から現在にいたるまで他に例のない折り紙専門誌でした。1993年5月の創刊から1997年3月に休刊するまでの約4年間に、本誌16号と別冊の折り図集が2号、計18号が刊行されています(写真1)。

創刊当時、筆者は高校2年生でした。創刊号が届いた日のことは今でもよく覚えています。学校から帰ってくると、在宅しているはずの母が近所にでかけているのか家に入れません。しかたないので縁側に座って待っていたところ、宅配便が来ました。それは予約注文していた『季刊をる』の創刊号でした(写真2)。雑誌をぱらぱらとめくってすぐに、全身に電気が走るような衝撃を覚えました。見たことがないほどリアルな吉野一生氏の「ウルトラ具象鶴」にロバート・ラング氏の「鳩時計」……(写真3、4)。それまで『ビバ!おりがみ』シリーズを通してしかコンプレックス系折り紙を知らなかった筆者には青天の霹靂のごとき体験でした。母が帰宅したことに気づかないまま縁側で読みふけてしまっ、後であきれたのも懐かしい思い出です。

読むうちに、登場している“凄い人々”がごとごとく「折紙探偵団(現・日本折紙学

会)」のメンバーばかりであるように感じて、ほどなくして筆者も「探偵団員」になったのでした。

スペースの都合上、全号の内容を記すことはできませんので、ここでは創刊号の内容に代表させて、『をる』の誌面を紹介することにします。

■特集「古今東西折り鶴絵巻」

インダストリアルデザイナー榮久庵憲司氏のエッセイに始まって、外国人に折り鶴を見せて感想を聞いたアンケート、羽に折り筋の入らない折り鶴の折り方、岡村昌夫氏が紐解く折り鶴の歴史、吉野氏の「ウルトラ具象造形で鶴に挑む」、内藤晃氏の極小折り鶴、作家による創作折り鶴といった記事で構成されています。

■小特集「現代に生きる『折る心』」

禅宗の畳紙と、静岡・三嶋大社の「折紙神像」を取り上げています。

■インタビュー・対談記事

折り紙を趣味とする橋本大二郎高知県知事(当時)へのインタビューは創刊号にふさわしいインパクトのある人選です。「作家探訪」は、日本折紙協会理事長であった佐野康博氏へのロング・インタビュー。折り紙作家に紙について尋ねる連載「紙談義」の第1回に布施知子氏。大橋皓也氏と山口真氏の4号連続対談の第1回目。新進作家を取り上げる定番のコーナーとして最終号まで続いた「創作の現在形」は、山田勝久氏と代表作「動物の基本形」を紹介しています。

■グラビアをメインとした記事

折り紙作家が和紙の産地を訪ねて作品制作する「和紙街道折歩記」は、これぞ

この連載では、折紙学会図書館に所蔵されている資料の中から、興味深いものを選んでご紹介しています。折紙図書館の蔵書は、折紙探偵団ホームページから検索できます。詳しくは、<http://origami.gr.jp/Library/>にアクセスしてください。

○小松英夫(こまつ・ひでお)＝1977年生まれ。図書館担当。『をる』の企画を主導した石川光則編集長はその後いくつかの出版社を経て、株式会社ヒトリシャを設立。文房具本などの編集で活躍していらっしゃるようです。

折り紙雑誌と言うべき企画でしょう。その第1回は吉野氏が富山の和紙工房・桂樹舎を訪れ「馬」「兜」を折っています。折り紙作品に焦点を当てた「誌上作品展」では、ロバート・J・ラング氏のコンプレックス作品をインタビューとともに掲載(筆者は「ティッシュホイル」をこの記事で初めて知りました)。「くらしを飾る夏の折り紙」は、シンプルな折り紙とフラワーアーティスト・川崎景太氏のコラボレーション企画。田中具子氏による色紙シリーズ「折り紙花図鑑」。「山口真のカミからの逃走」は、紙以外の素材で折るというこれまた雑誌らしい連載企画で、この回ではアイロン名人を迎えて布を折っています。

■連載記事

岡村昌夫、笠原邦彦、川畑文昭、木村良寿、中野獨王亭、西川誠司、伏見康治各氏と豪華な顔ぶれが、歴史・数学・創作などさまざまな切り口で折り紙を語ってくれます。筆者は、これらのセミナー記事で多くのことを学ばせていただきました。

■その他

他に、小説家の橋本治氏、映像作家の萩原朔美氏による折り紙を題材にし

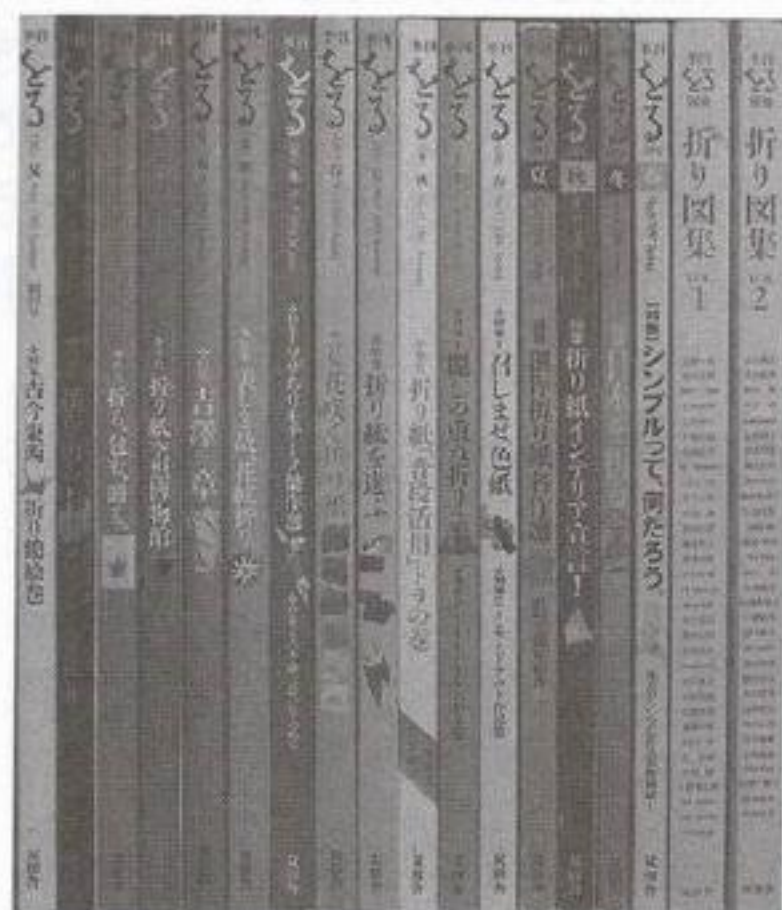


写真1: 全号の背表紙。一部大型書店で小売りされていましたが、基本的には直接版元に購読申込をする通信販売形式でした



写真2: 創刊号表紙。A4判変型160ページ、本体価格2000円。巻末の32ページは折り図集となっています

たエッセイや、江戸扇子、獅子頭、韓国シャーマンの紙細工など、紙と縁のある工芸も扱っています。そして、巻末には折り図17作品。

以上のとおり、160ページぎっしりと情報が詰め込まれていて、3ヶ月かけて読みふけるに十分すぎるほどのボリュームでした。創作技術の旧式化という観点を除けば、17年経った今の目から見ても読み応えのある内容だと思います。実際に、『をる』創刊号は折り紙愛好家から好評を持って迎えられ、予想以上の売れ行きのために雑誌にも関わらず増刷までされたとのこと。

その『をる』の編集には、おりがみはうすの山口真氏が大きく関わっていました(クレジットでは「企画協力/折り図製作」)。作品提供・執筆などで折紙探偵団が全面的に協力しているのも、その影響のためです。

1990年代の日本折り紙シーンを大局的に捉えるならば、折紙探偵団と『をる』がタッグを組んで、コンプレックス系折り紙の分野が大きく発展・普及した時期とまとめてもいいかと思います。簡単に振り返ってみましょう。

先立つ1980年代、折り紙作家が集まって直接交流する場は、日本折紙協会が開催する年1度のシンポジウムくらいしかありませんでした。そのような中、1989年に山口氏が常設ギャラリー・おりがみはうすを開いたことで、東京近辺の作家が頻繁に交流する拠点となり、翌年には「折紙探偵団」が結成されます。その活動は化学反応を起こし、新しいアイデアによる折り紙作品が次々に生まれました。その象徴が、1993~4年の「昆虫戦争」(不切正方形による飛

翔昆虫の創作合戦)です。目黒俊幸氏が提案した「折り紙分子」による新しい設計法の登場も後押しして、コンプレックス系折り紙の表現が一気に広がり、その成果はマスメディアでも取り上げられて一般に知られるようになっていきました。“大人のホビー”としての折り紙が認知されていく中で、『をる』は“静かな折り紙ブーム”を代表する存在だったと言えます。第4号の「折り紙空想博物館」、第7号の「ワザありモチーフ傑作選」などの特集記事は、折り紙愛好家に「折り紙でなんでも折れるんだ」という意識とともに、コンプレックス系折り紙のイメージを浸透させるものでした。

とは言え、『をる』は決してコンプレックス系だけに偏っていたわけではありません。コンプレックス系折り紙の新しさを押し出しながらも、幅広いジャンル・考え方をまんべんなく取りあげようとする編集方針を誌面から見てとることができます。特に、60年代、70年代に活躍した大御所作家たちへのインタビュー記事では、それぞれの作家が長い時間をかけて辿り着いた境地が語られていて、そのなかには現在進行形のコンプレックス系折り紙に対する問いかけと取れるものがあります。内山興正氏(4号)、吉澤章氏(5号)、中野獨王亭氏(6号)、桃谷好英氏(8号)といった先人たちの言葉は、読者だけでなく、同じ誌面に掲載された新進の作家たちにも重い響きをもって受け止められたに違いありません。

このように、『をる』は、さまざまな折り紙観が横断・交差する場としても、他に代わりを見つけれない存在であり、『をる』愛読者というアイデンティティが成立するほどに濃密でした。これは筆者自身が

感じたことですが、折り紙が“孤独な趣味”だった人にとっては、『をる』を入手することで、全国の見知らぬ同好の士を意識することができたのではないのでしょうか。特に、暗い趣味との烙印を押されがちな男性愛好家は勇気づけられたことでしょう。

しかし、やはり折り紙者はまだまだマイナー

な存在だったのかもしれませんが。第4期に入り、届いた13号を見て筆者は「あれっ」と思いました。12号までは表紙にPP加工がされていたのに、そうでなくなっていたのです。15号になると折り図ページがそれまでより薄い印刷用紙に変わり、コスト削減のためだろうかと気にかかりました(真相はうかがいしれませんが)。初期にあった有名文化人・芸能人の寄稿も目に見えて少なくなっていて、もっとも折り紙マニアとしては文化人・芸能人が登場せずとも構わなかったのですが、これもまた不安要素のように思えました。

はたしてその予感どおり、第4期最終の16号で突然に「休刊」の告知がされました。編集後記には「慢性的な不況下、商業誌として刊行を続けることが困難になった」と書かれています。改めて見ると、創刊号では30あった広告枠が13号で4枠まで減っていることなど、当時の出版不況が垣間見えます。

休刊の告知文には「本誌のこれまでの4年間で、折り紙が変貌を遂げつつ広がっていく大きな流れに沿ったものであったことは、大変幸運なことでした」との言葉があります。『をる』の総括にふさわしいものですが、その幸運は『をる』にとってというだけではなく、折り紙シーンにとってもそうだった、と言えるのではないかと思います。山口氏も、「おりがみはうすできて、折紙探偵団ができて、『をる』ができた。すべてにおいてタイミングがよかった。どれか一つ欠けても今はなかったと思う」と振り返っています(1997年4月『折紙探偵団新聞』43号「ありがとう『季刊をる』より」)。

『をる』が大きな足跡を残した90年代の最後の年、1999年に、折紙探偵団は組織を一新して日本折紙学会となります。同時に、折紙探偵団新聞も『折紙探偵団』へと新装しましたが、これには『をる』の成果を少しでも引き継ぎたいとの想いがあり、『折紙探偵団』新装の案内ハガキは『をる』読者にも送付されました。読者の中には、それが『折紙探偵団』購読のきっかけだった方もいることでしょう。

[2010年3月現在、『をる』は6~9、11、12号と折り図集2冊がバックナンバーで入手可能です。双樹舎ウェブサイト:<http://www.sojusha.co.jp/woru/>]



写真3、4吉野一生作「ウルトラ具象鶴」とラング作「鳩時計」

折線雑考

A Long Excursus on Crease Lines

目黒俊幸 Meguro Toshiyuki

第6回

若い女性の顔を折るための核心技法

The Crucial Matters on Folding Details of a Young Woman's Face

これまで「若い女性の顔を折るためのコツは、鼻から口にかけての部位を男臭さを感じさせないで折るということ」と書いてきた。では鼻から口をどう折るかというと前回は「具体的には顔全体の展開図と折り上がりの写真を見て適宜折る」と書いた。全然具体的になっていないので今回は若い女性の鼻から口の折り方を詳しく見ていきたい。

鼻から口を折ろうとした場合、鼻の両脇から唇の両端にハの字型に伸びる2本の法令線(図1参照)をどう処理するかが気になる。実際の女性の顔では法令線は加齢的特徴として認識される。したがって折り紙の顔でもなるべく法令線は出たくない。しかし、平面的な折り紙の場合「部分的なパーツを折っても必ずそのパーツの端から何らかの折りヒダが意図した部分の外側に出てしまう」ということがあって、鼻や口を折ることによって必然的に発生する不要なヒダは法令線として処理するのが一番自然という事情がある。法令線を出たくないからといって鼻や口から発生する不要ヒダを法令線以外の方向に向けてしまうと異常な雰囲気顔になってしまうので、結局のところは法令線を折るしかないわけだ。そこで、この法令線がどの程度まで折り紙の若い女性の顔に悪影響を与えるか考えてみよう。個人的な見解であるが、法令線の悪影響はほとんどない。そもそもリアル少女にも法令線はある。ここで

ちょっと折り紙の顔での目立つ折りヒダと目立ちにくい折りヒダとについて考えてみたい。といったって目立つ目立たないなんて主観的な問題だし、科学的な根拠があるわけでもないの、これから書くことは「自分がこう思うからこうなんだ」という話である。それであっても、若い女性の顔のような把握しづらいものを折ろうとする場合、でっち上げでもいいから基本的な考え方に基づいた合理性のある理由付けで創作の方向付けをしていかないと、折るものが発散してわけがわからなくなることが多々ある。個人的な思い込みでも発展性のある考え方はそれなりに有用である。で、顔の折りヒダの目立つ目立たないの話であるが、以下の仮説を提案したい。「顔の中心から放射状に伸びる折りヒダは目立ちにくく、それに直交する折りヒダは目立つ」。図2は顔の各パーツとそれらを接続する折り線を描いた図だが、この図中で二重丸をつけたところがここで言う顔の中心である。

図2の法令線に対応する折り線を

見れば、それは顔の中心から放射状に伸びる直線に沿っている。

この法令線は、折り線としてそれほど目立たない(あくまで主観だが)。なぜか理由はともかく「顔の中心から放射状に伸びる折りヒダは目立ちにくい」という仮説が成り立っている。

それはそうとして、法令線が折り線としては目立ちにくいとはいうものの、若い顔の雰囲気を出すにはいっそう目立たなく折ったほうが有利なのだ。それにはどうすればいいだろうか。単純な話だが、口をはっきり折れば、見る人の意識は口に集まるので、その分、口の周囲の法令線は目立たなくなる。口の折り線は顔の中心から放射状に伸びる直線に直交する折り線になるので、もともと目立ちやすい(あくまで主観だってば)。だから口の折り線が法令線と同じ幅の段折りである場合は口の方が目立って法令線は目立たなくなる。ただし、「顔の中心から放射状に伸びる直線に沿った折りは簡単に折れるが、顔の中心から放射状に伸びる直線に直交する折りは折りにくい」という事情があることには注意しないといけない(図3参照)。口をはっきり折ることは、法令線と同じくらいはっきり折ることより折りにくいので、顔を折った後から口を強く折



図1: 法令線

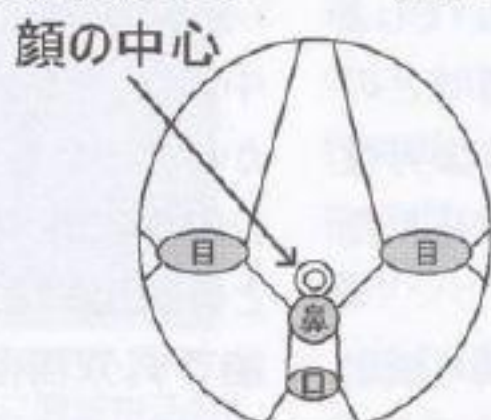


図2: 顔の中心

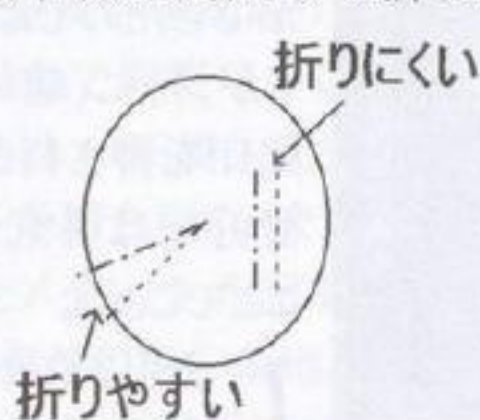


図3: 折りやすさ

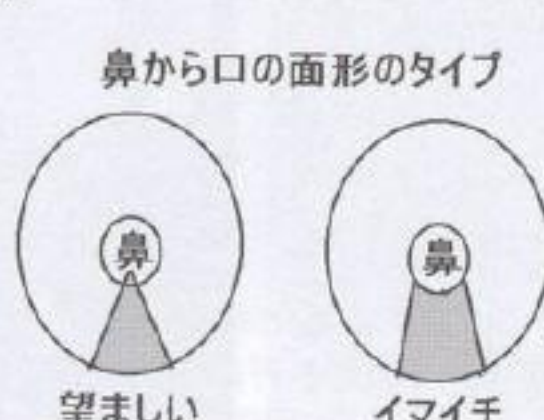


図4: 鼻から口の面形



図5: 鼻から口の面形の変形

目黒俊幸（めぐろ・としゆき）＝1965年生まれ。24才から本格的に折紙を始める。代表作は円領域分子法、横分子蛇腹法、面配置法など。近年のテーマは萌顔の折り方。



ろうと修正をしようと思っても口の周囲がゆがむので結局変な顔になってしまう。というわけで、口は顔を折る初期の段階ではっきり折れるように計画的に折ることが望ましい。

➤ ここで話は少し変わるが、鼻から口にかけてどのような面を出すべきか考えてみよう。

図4は鼻から口にかけての面形のタイプであるが、自分でいろいろ折ってみた感じとして図4左側の三角形の面が鼻の下にあると女性的な雰囲気が出しやすい。しかし普通に鼻から法令線を折っていくと図4右側の台形の面が鼻の下に出やすい。これは女性的な顔には向かない。そこで図5的な折り線を加えて鼻の下の面形を強引でも図4左側の形に近づけることが有効になる。図5の折り方をした場合、口を後から折る紙の余裕もできるので、これは顔の修正をするには有力な技法である。図6

の鼻から口に

かけては図5の折り方を行っているので注目してほしい。

➤ れまでのことをまとめると、女性顔の顔を折る一法としては、まず、図7の様な展開図を折って、ある程度口の折り線も折れている状態で、図5の折り方で鼻の下の面形を長三角形に整える。その後口周辺の紙のたわみを利用して口を深めに折るとよいのだった。この辺のポイントを押さえると鼻から口に関しても比較的容易に整形できるので、興味のある方はいろいろ試してほしい。

口の折り方に関して言えば他にもいろいろな折り方が考えられるところで開発の余地は大きい。例として図7の展開図を図8aのように発展させたものも考えられる。図8aは展開図上は図7とほとんど差がないように感じるが、実際に折った場合は図8aでは鼻筋を出すため奥側の紙を顔の表面に引き出す折りが追加されている。このことにより鼻の下から口にかけての余分な紙がなくなった結果として鼻の下の加工性が大きく向上している。図8aの展開図は図8bのように折る。図8bの折り方は再現性が高く女性的な形状の鼻が比較的楽な

手間で折れるので、個人的に現時点での鼻から口にかけての折り方の最有力パターンだと思う。「若い女性の顔の折り紙の核心は鼻から口にかけていかに男性度の低い鼻を自然に折るかということ」だと繰り返し述べてきた。そんなわけで図8bの折り方こそが若い女性の顔の折り紙を折る上での最重要な核心なのである。図8bまたはそれと同程度以上の女性的な鼻口が折れないと、若い女性の顔はまず折れないので、若い女性の顔を折りたい人はこの辺を意識して開発してほしい。図8cは図8bの鼻口の折り方と前回紹介した目の折り方を組み合わせて折った顔の例である。

なお、顔の中心から放射状に伸びる直線に沿った段折りで顔を整形する技法は口だけでなく目のくぼみやおでこの修正にも使える。図9は口とおでこの両方にこの技法を使った例である。顔の折り方には、いったん折り上がった後の整形の技法が非常に重要なので、その辺を意識してこの技法を試すのも興味深かったりする。図8cの顔もおでこの部分にこの技法を使っている。写真ではわかりにくいですが、図8cの顔では頬のふくらみの稜線も顔の中心から放射状に伸びる直線に沿って丸みをつけている。まあ、主観

に基づく法則にあんまりこだわるとは思いませんけどね。



図6:顔

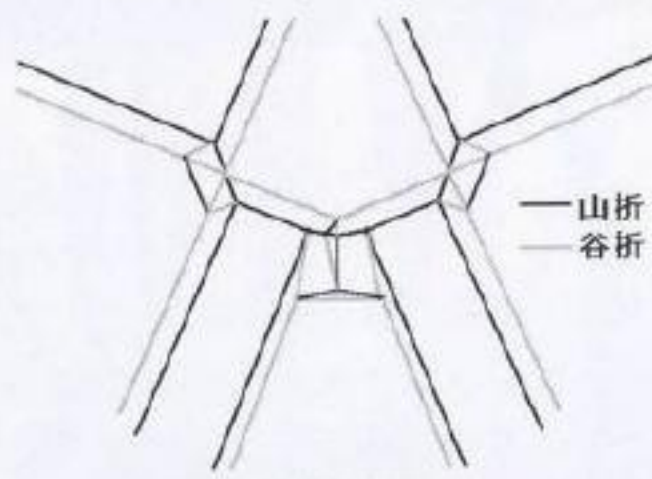


図7:顔展開図



図8a:顔展開図(左)、図8b:鼻口折り方(上)、図8c:顔(右)

鼻筋を立体的に持ち上げつつ鼻の下を潰す



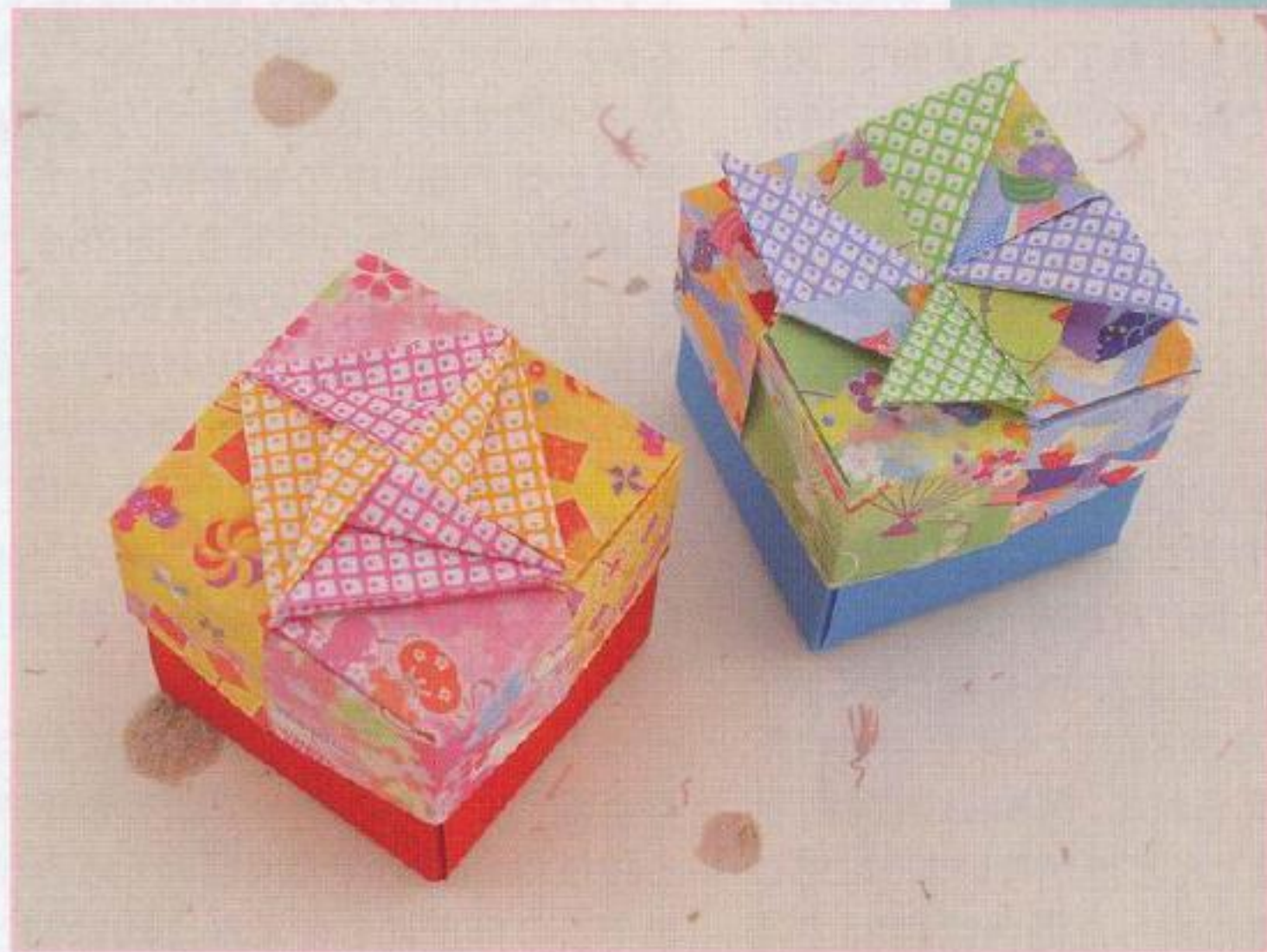
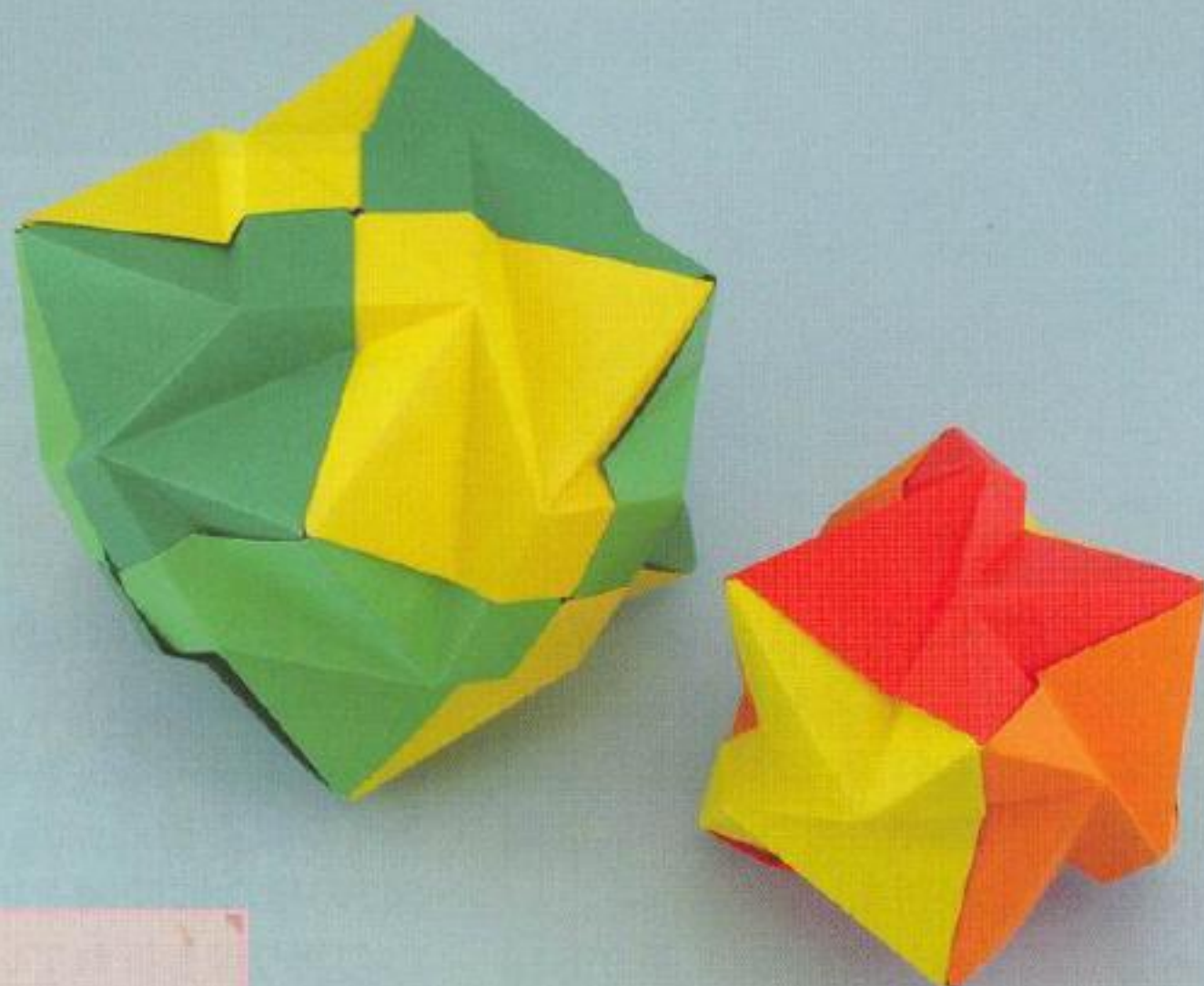
図9:顔

時の経つのは早いもので、今期もこれで最終号。次年度もまず関西から、いつもの流れを地道に着実に。引き続きJOASの活動にご支援をお願いします。

「ORI-CUBE」作：田中将司(P.4)

ORI-CUBE : Tanaka Masashi (P.4)

■折り図に添付された解説の図を見ると、「立方体の各面に折り目をつけて、つぶしたりねじったりすると得られる形」であることがわかります。けれども実際の創作では、試行錯誤と模索をひたすら続けることによって始めてたどり着けるデザインではないでしょうか。作例は3色でカラフルに仕上がっていますが、おちついた1色で大量生産したら、巨大隕石があちこちに転がっているSF的空間が出現しそうです。



「四角箱 手裏剣・風車」作：やまぐち真(P.8)

Square Box : Ninja Throwing Knife, Windmill : Yamaguchi Makoto (P.8)

■ふたの上端に飛び出した部品を使って模様を折り出せる、一粒で二度も三度もおいしい実用作品。いろんな配色でつくっておいて、その日の気分によってふたと箱本体の組み合わせを取り替えるというような楽しみ方もできます。

「虎」作：川畑文昭(P.35)

Tiger: Kawahata Fumiaki (P.35)

■ジョン・モンテローラ氏とともに、「シマシマインサイドアウト動物」の先駆者としてこの分野を切り開いてきた川畑氏。最新作では胴体のみならず、脚や顔面にまで高密度なシマシマが張り巡らされています。技術の粋を結集したような現在形に驚嘆しつつも、「次は一体どこにシマシマが増えるのだろう?」と、すでに次回作にも期待していたりして…。





「ベールテールエンゼルフィッシュ」

作：神谷哲史 (P.22)

Veiltail Angelfish : Kamiya Satoshi (P.22)

■ゆっくり優雅に漂い、神秘的でちょっと現実離れしているようにすら見える熱帯魚。そんなイメージに必須な要素である特徴的なヒレが、十分な面積で折り出されています。ヒレ加工の最終段階で、分量の目安がない工程をいかに繊細にかつよく仕上げるか。題材の徹底的な観察・研究によるイメージ構築と、何度も何度も繰り返し折って感覚をつかむこと、遠回りに見えて実はこれが一番の近道だと思います。



「天狗」作：武田直樹

Tengu (long-nosed goblin) : Takeda Naoki

■コンプレックス作品では常に問題となる「余計な折り目」や「不要な折りひだの線」がほとんど現れない仕上がり。多くのカドを必要とする複雑な輪郭と、着物や額、下駄など個々の部品の主張が、どちらかを犠牲にしたりせずきちんと両立しています。このような作品が出現し得る時代、このような作品を創作する人が出てくる時代になるとは…。

「箱ティッシュ」作：谷田尚之

Kleenex Box : Yada Naoyuki

■14等分蛇腹を基本構造とした立体作品、箱と中身をインサイドアウトで色分け。東京友の会で講習がおこなわれたあと、「同じ題材で、蛇腹分割数をどこまで減らせるか？」という方向性の競争に脱線・発展したらしい…。

「トイレットペーパー」作：森末 圭

Toilet Tissue : Morisue Kei

■これも最近、東京友の会で講習がおこなわれた作品。円柱のような曲面やホイル紙のインサイドアウトなど、必要最低限の要素を洗練して的確に配置し、まさにそれにしか見えない形状をつくりだしています。

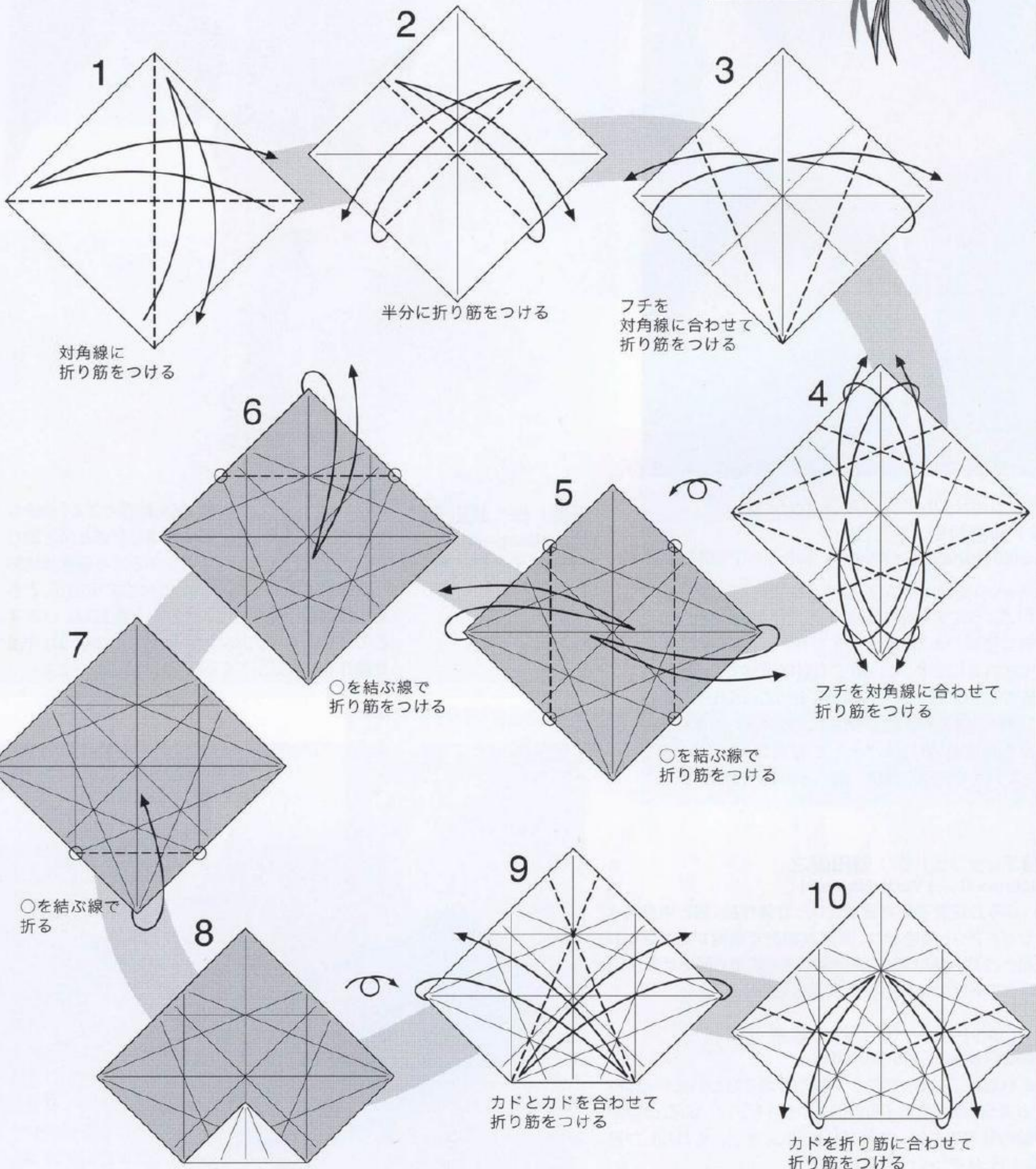
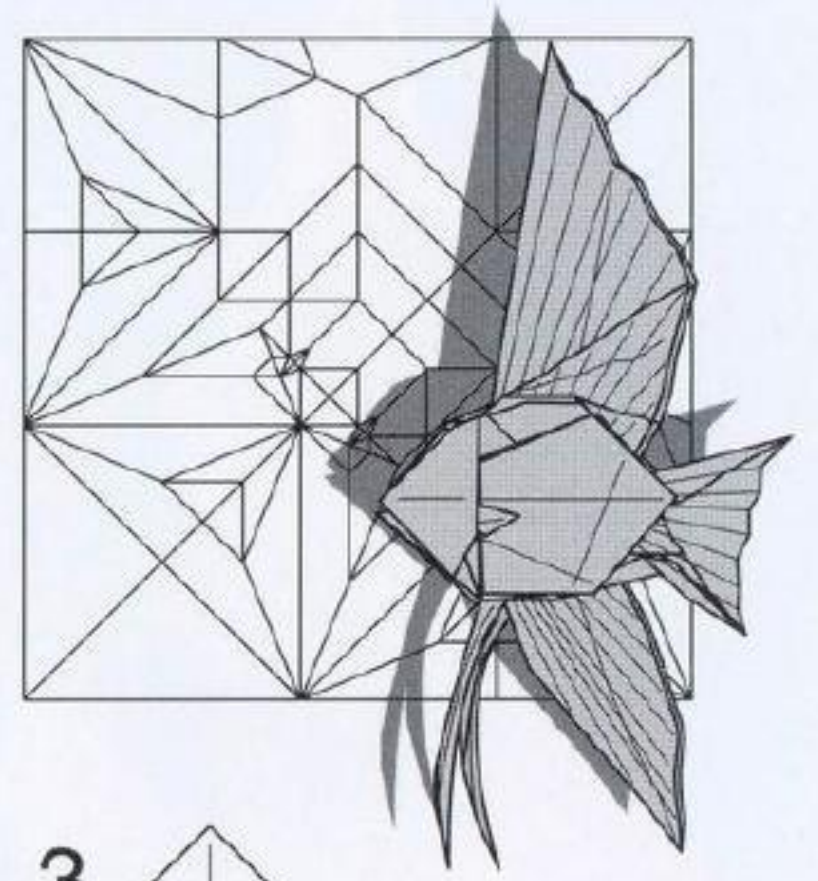


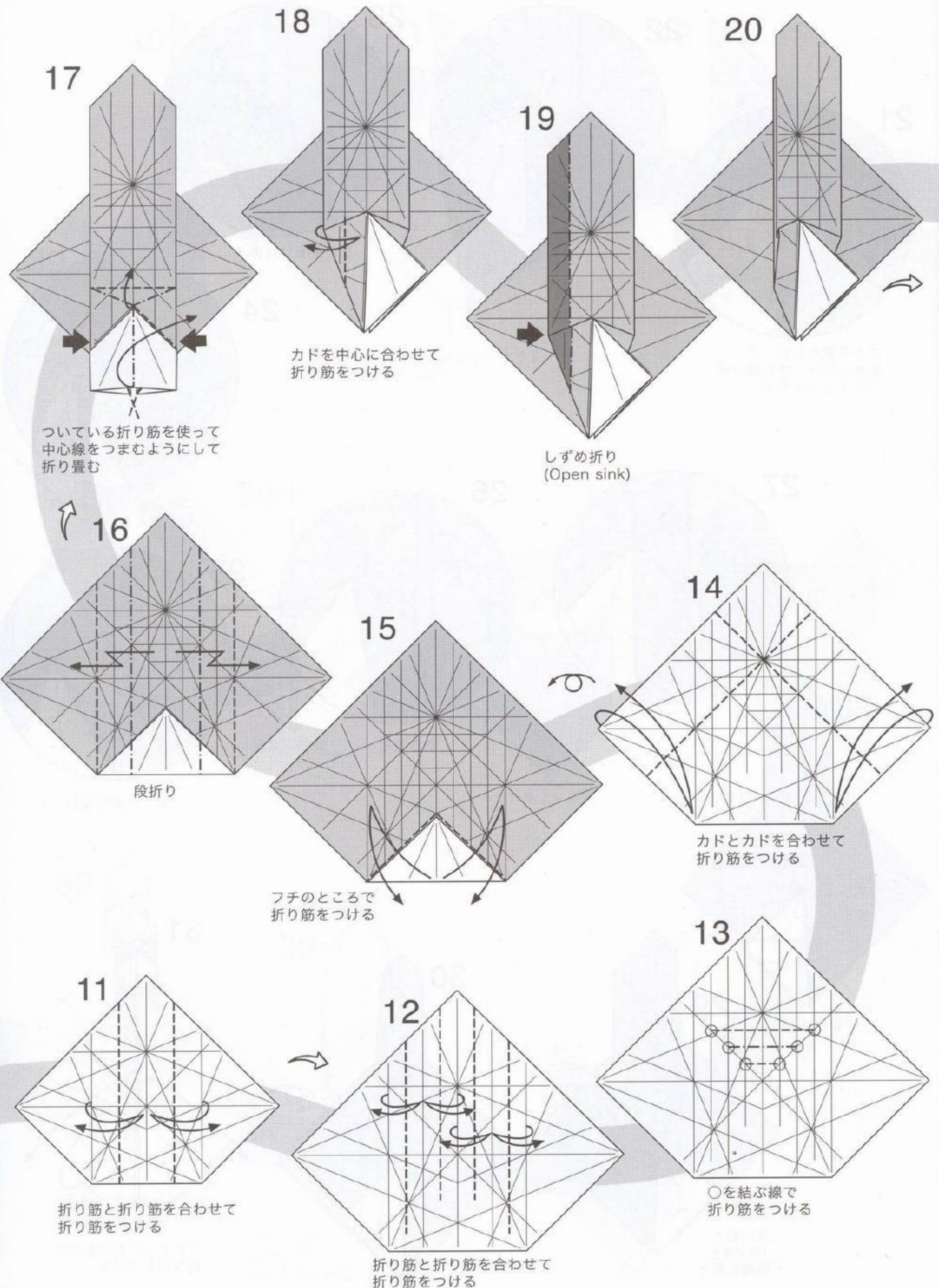
ベールテールエンゼルフィッシュ Veiltail Angelfish

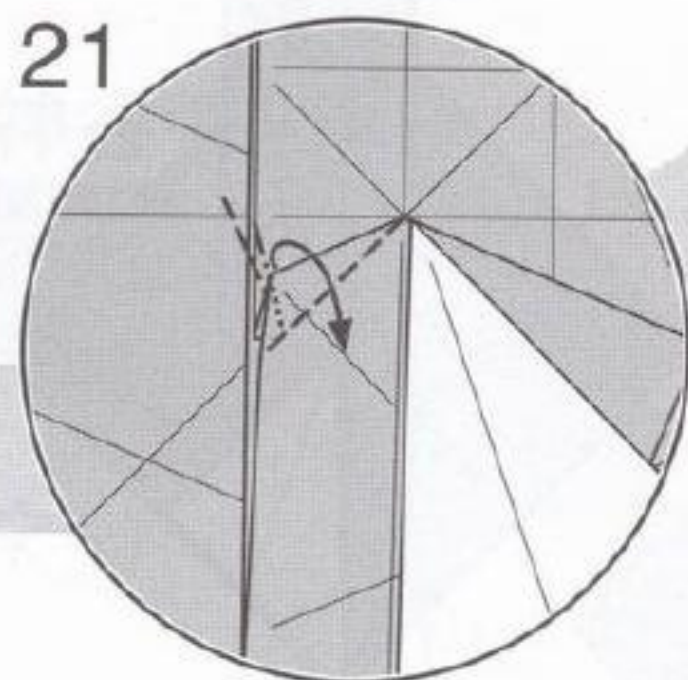
神谷哲史

Model & Diagrams by Kamiya Satoshi

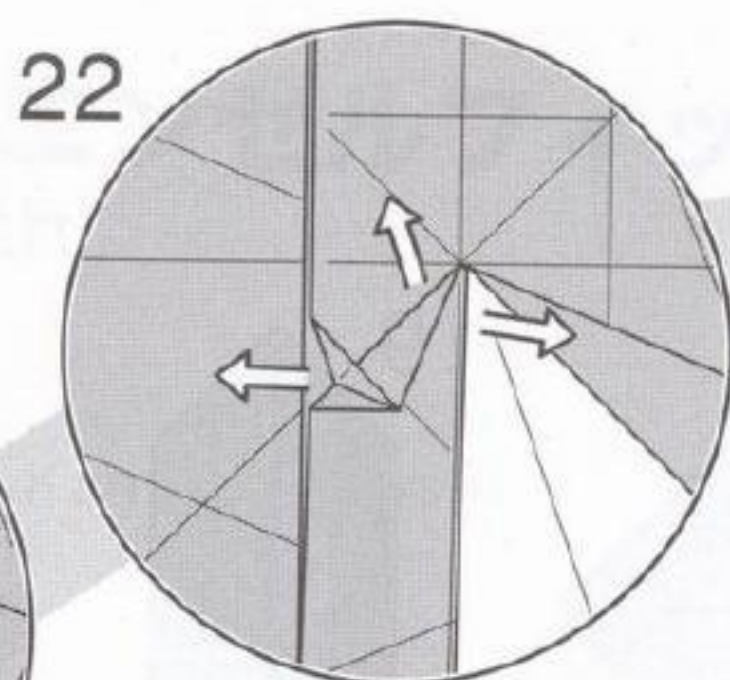
2006/04/22



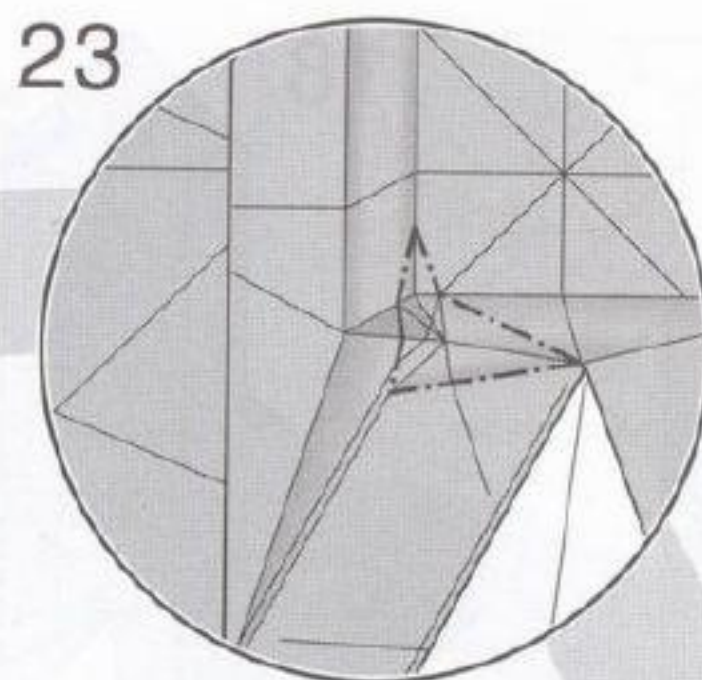




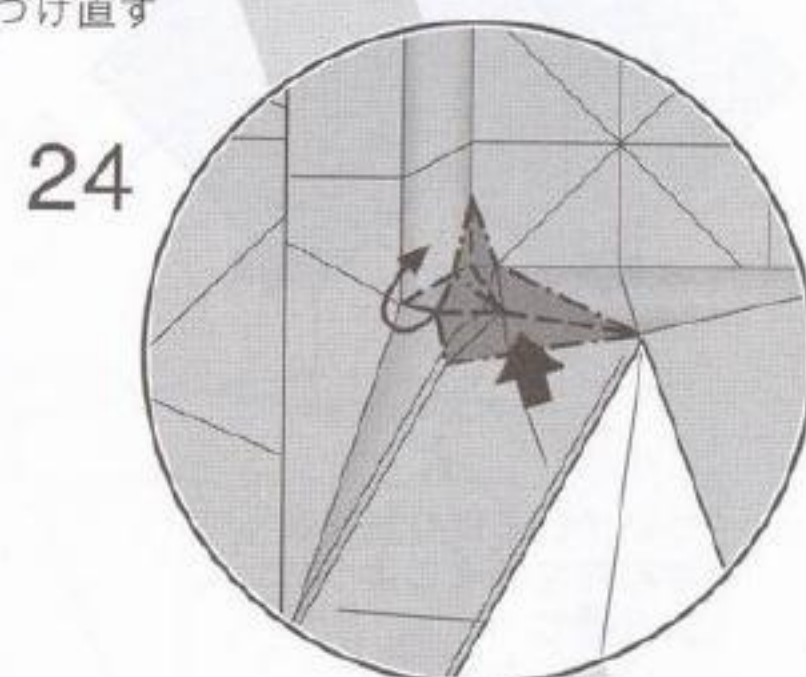
カドを斜めに折って
起き上がってきた部分を
つぶすように折る



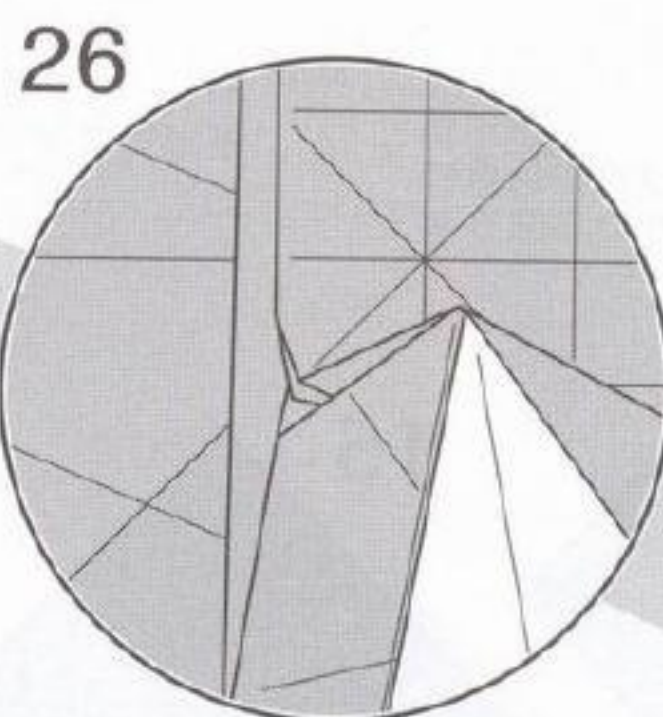
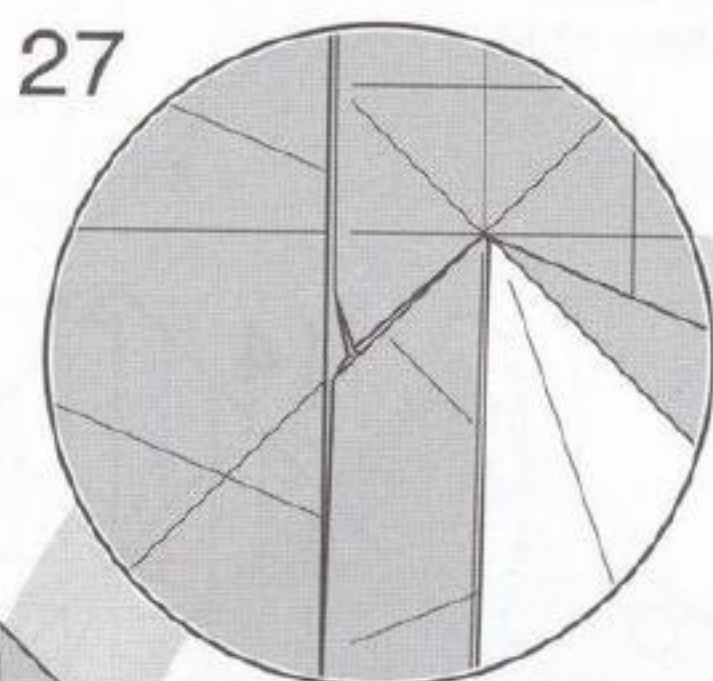
広げる



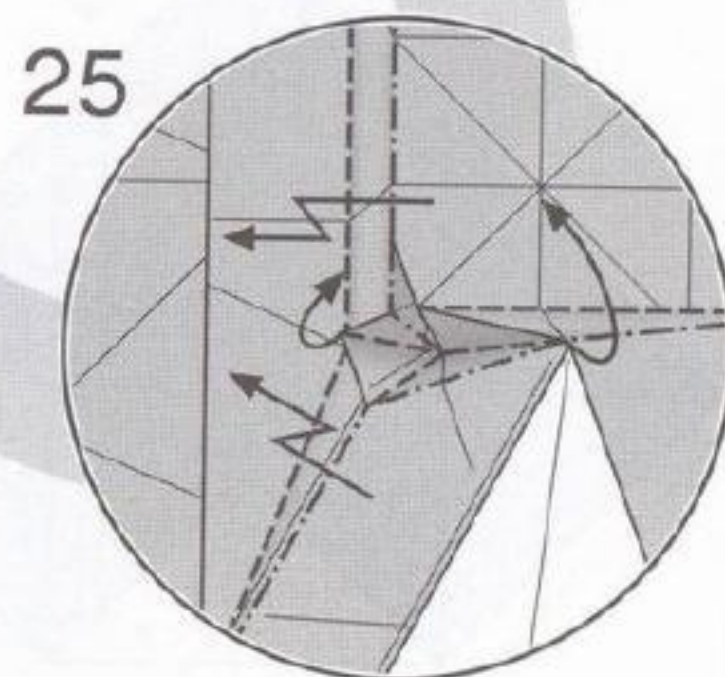
折り筋をつけ直す



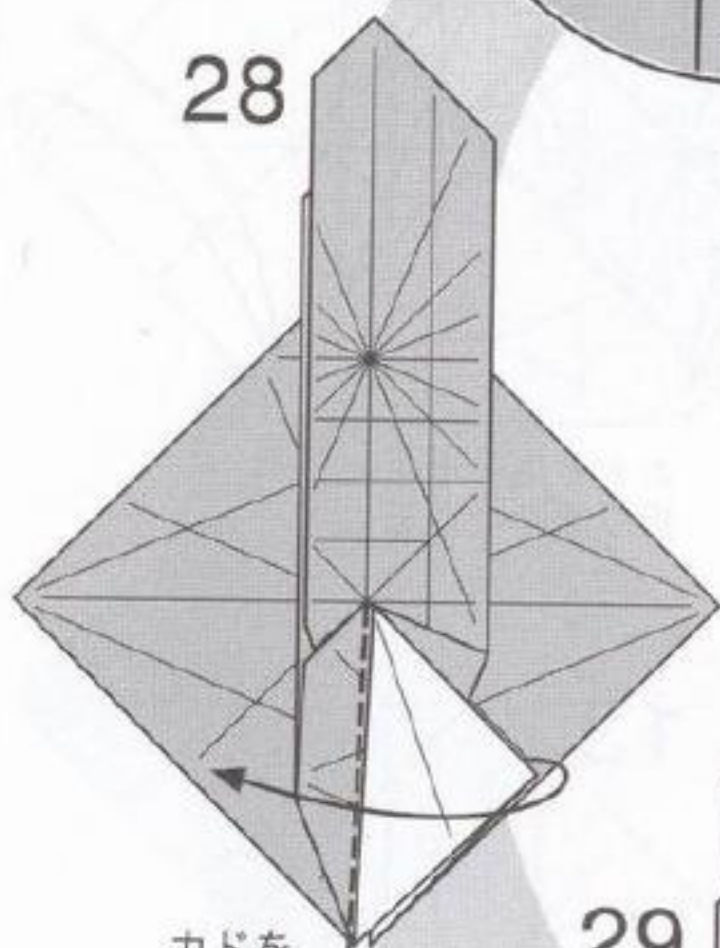
つけた折り筋を使って
折り畳んでいく



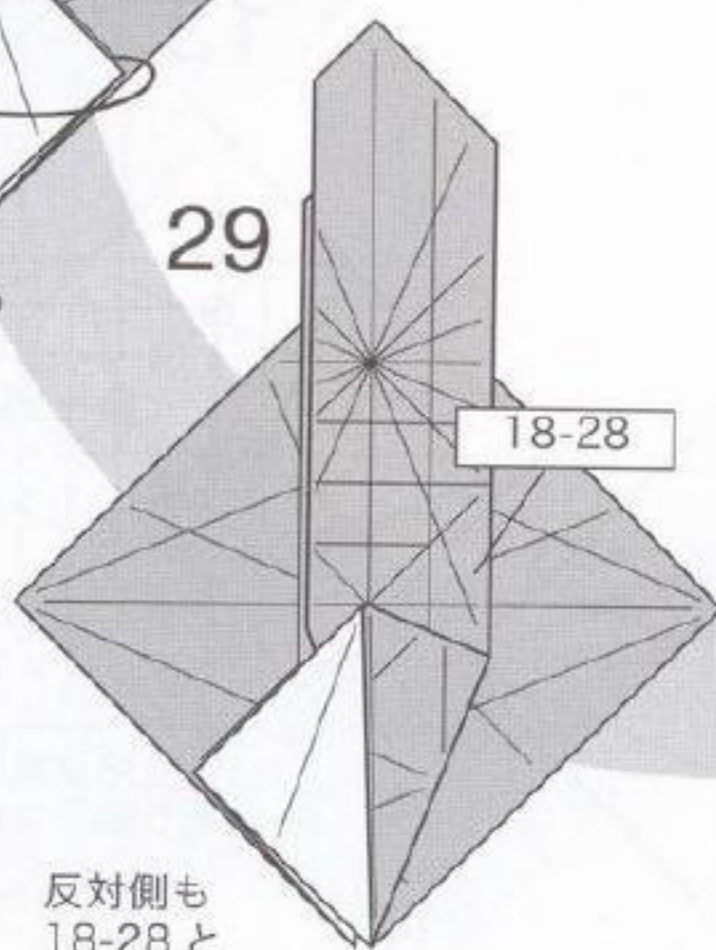
折り畳む……



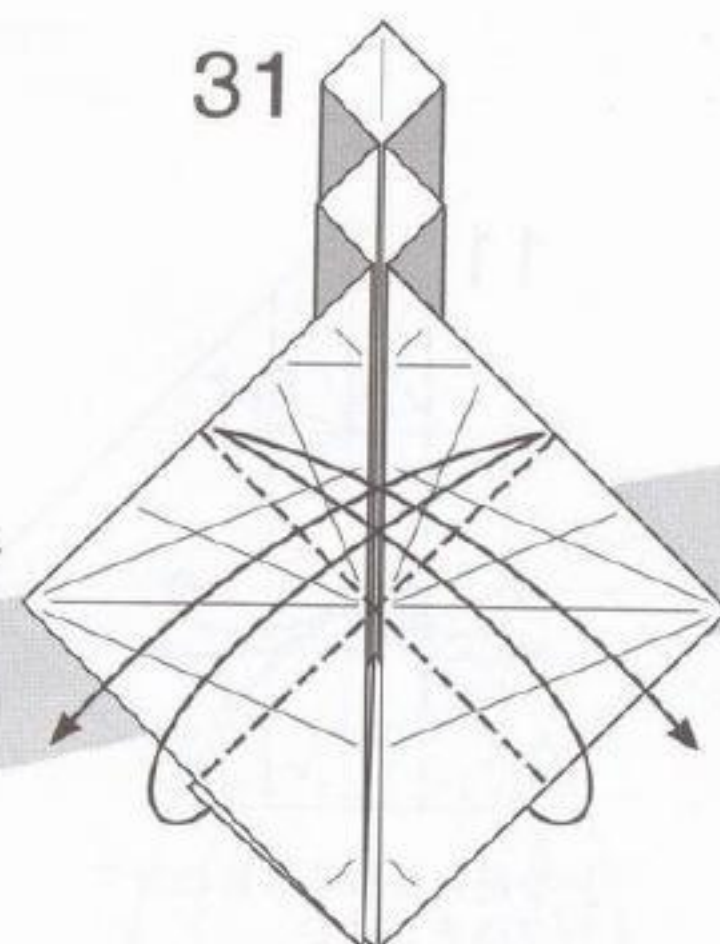
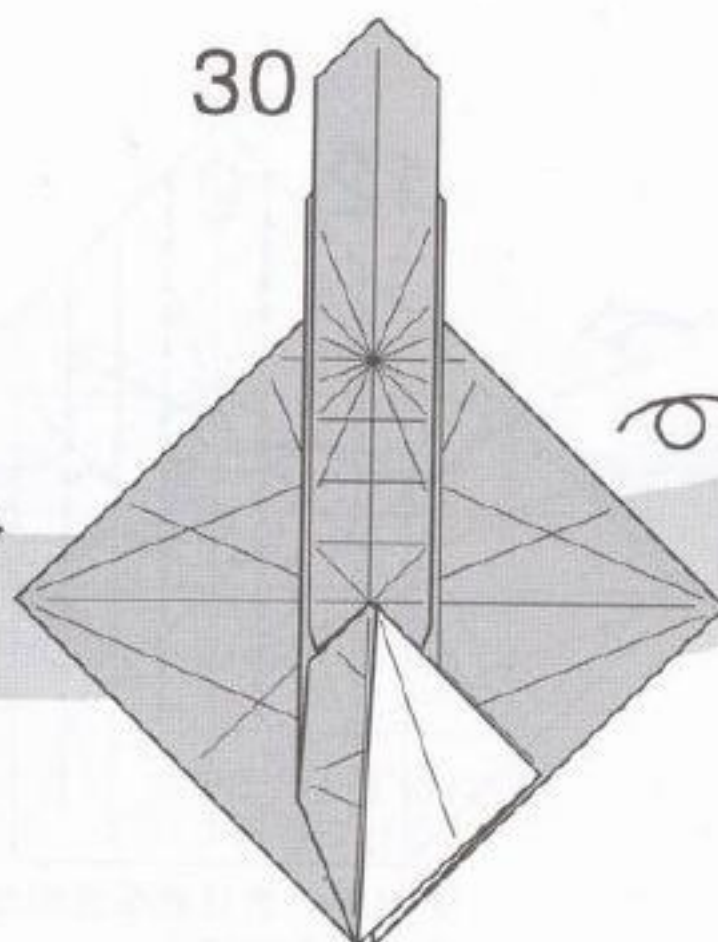
平らに折り畳む



カドを
反対側に折る

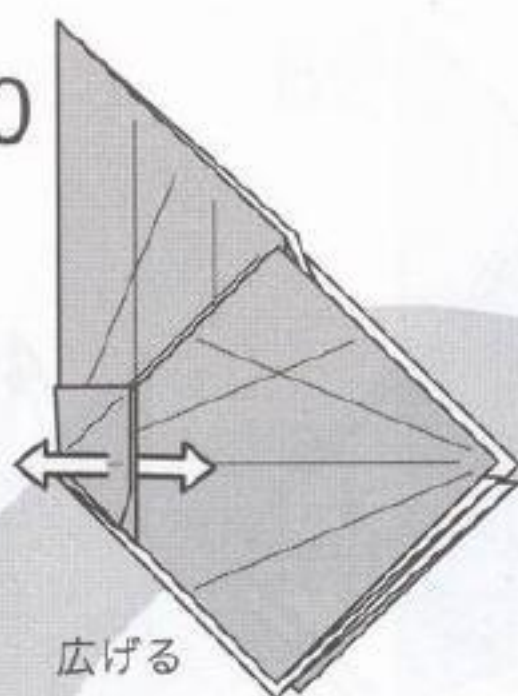


反対側も
18-28と
同様に折る



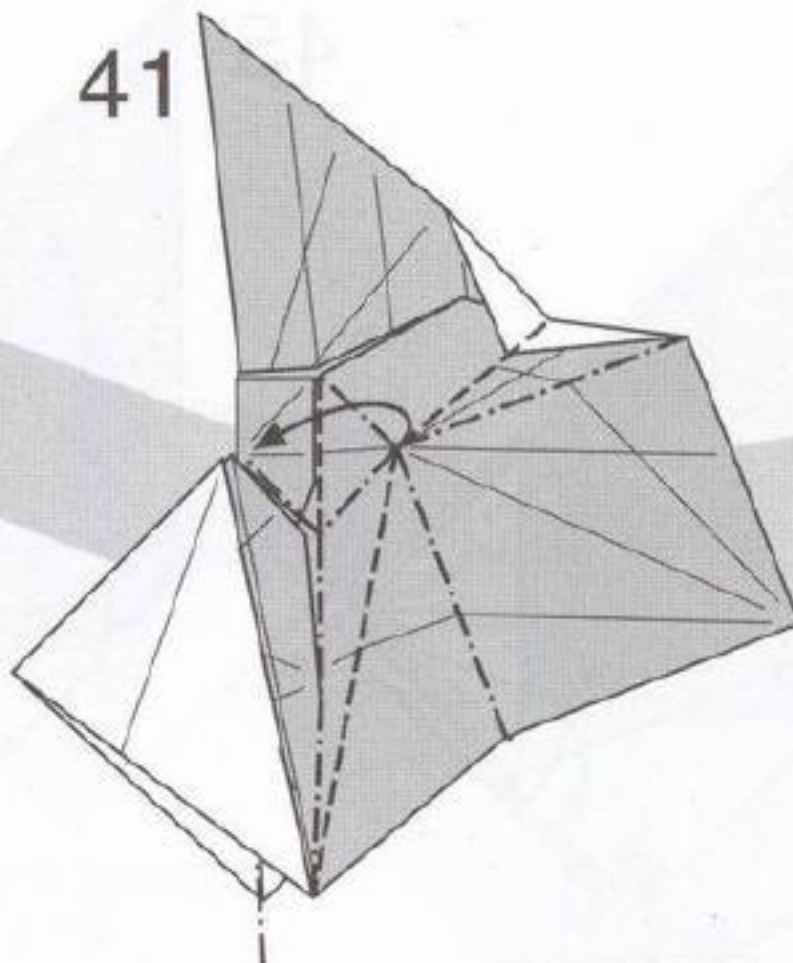
フチとフチを合わせて
折り筋をつける

40

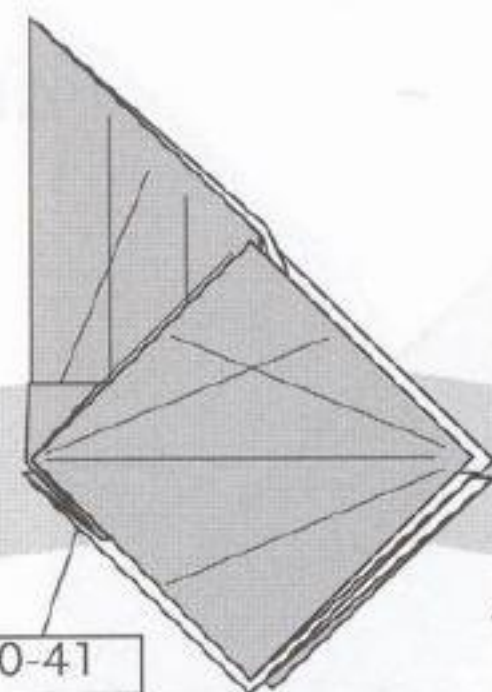


広げる

41

カドを表に出すように
折り畳む

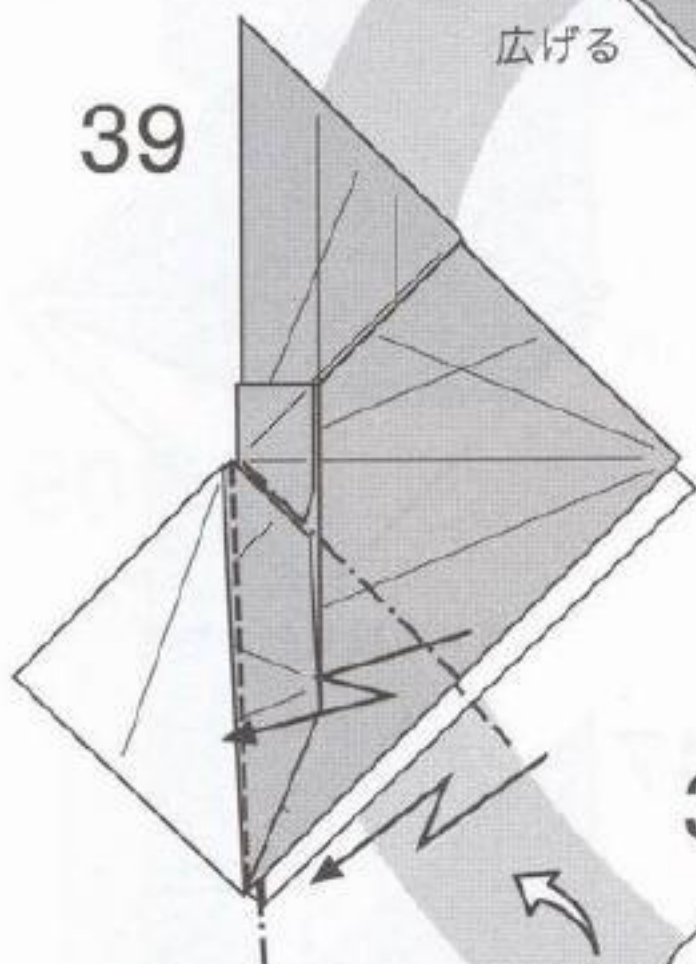
42



40-41

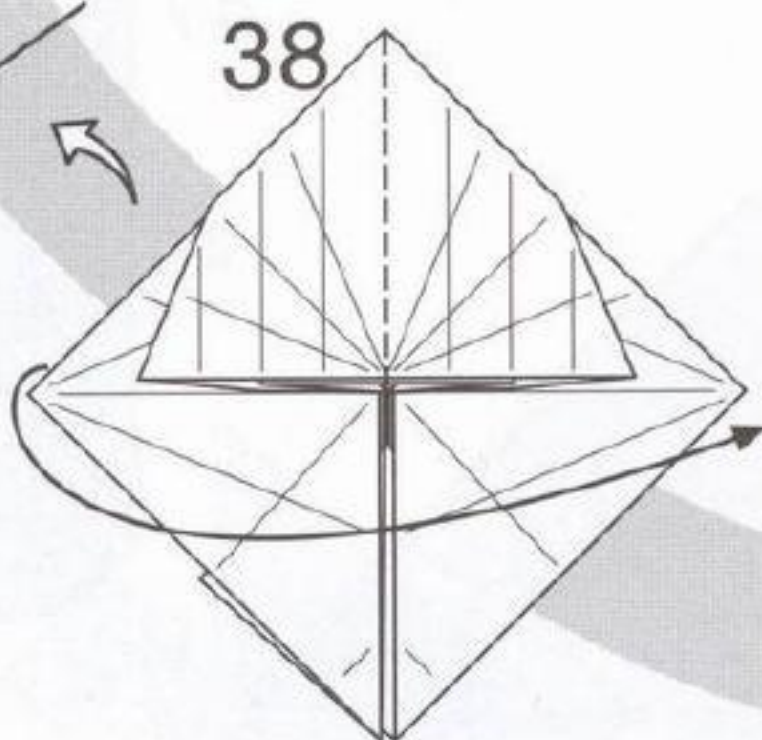
反対側も 40-41 と
同様に折る

39



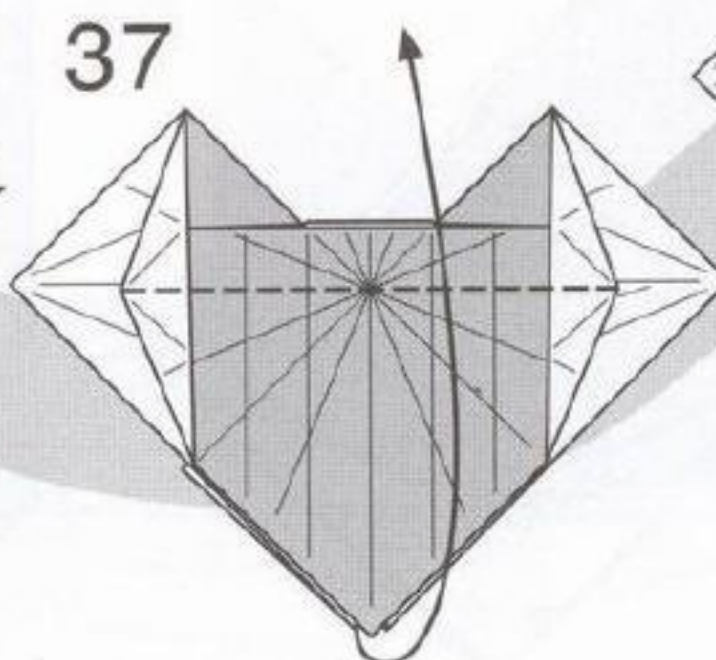
両側で段折り

38



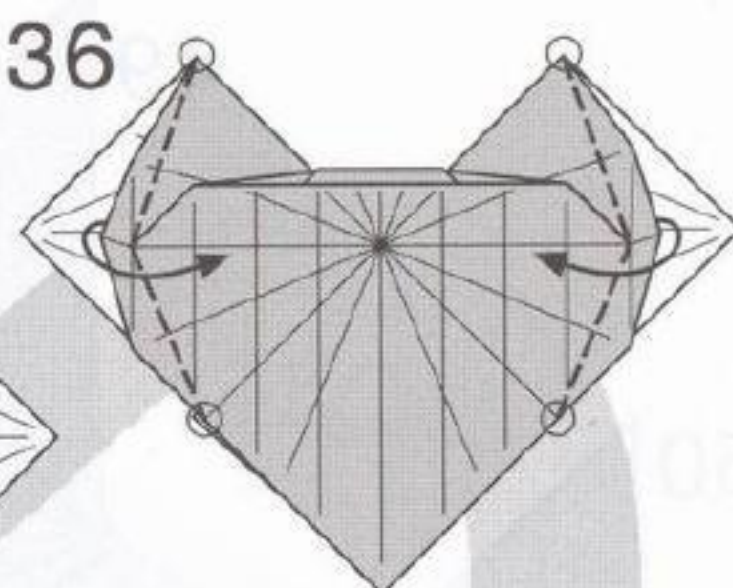
半分に折る

37



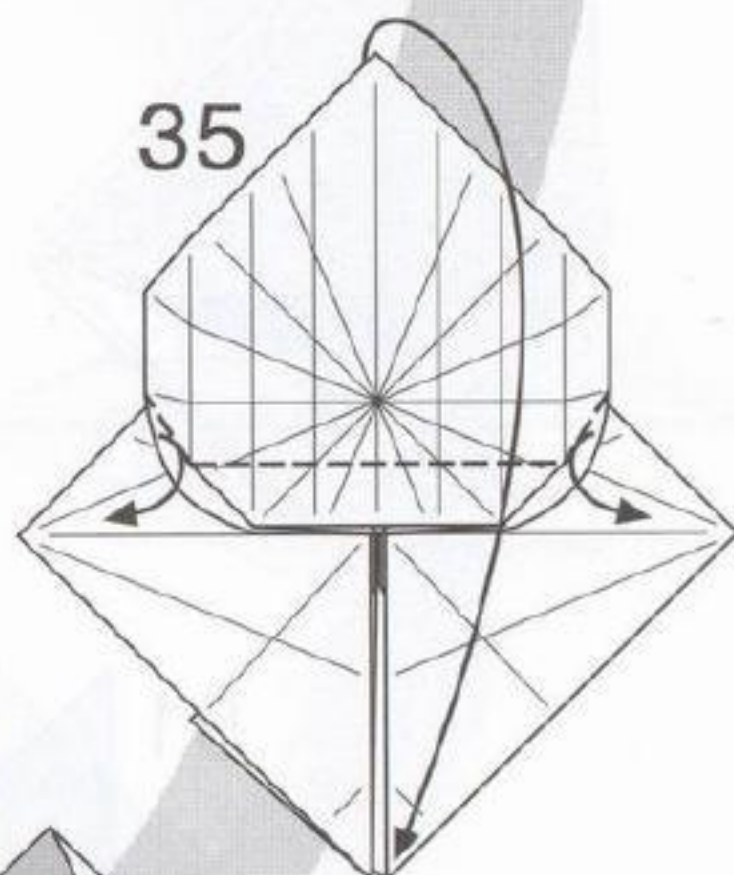
カドを上にも折る

36

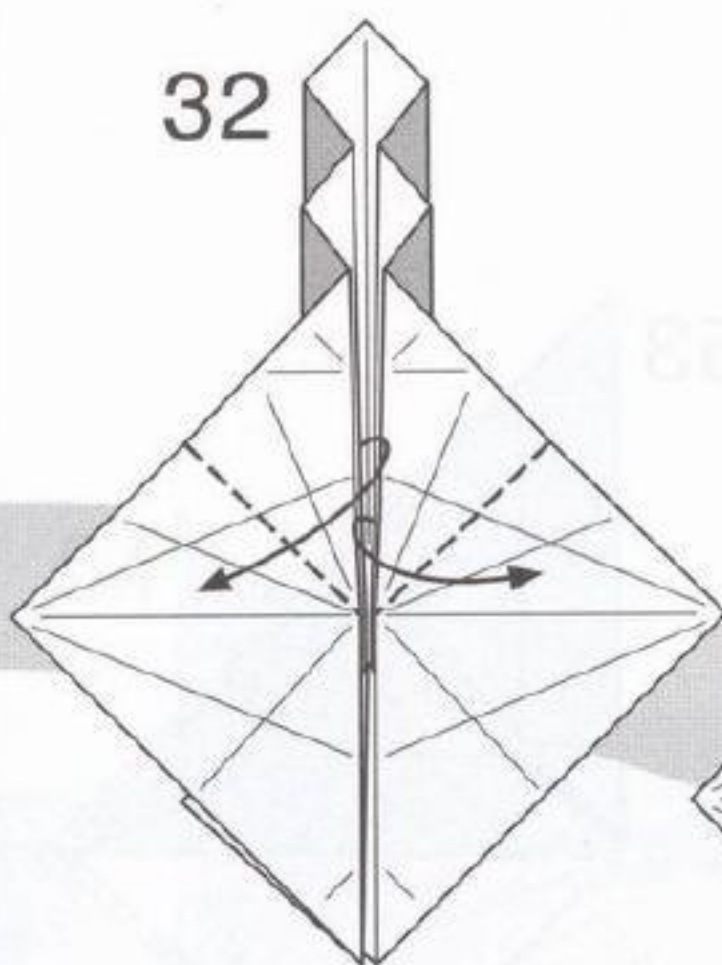


平らに折り畳む

35

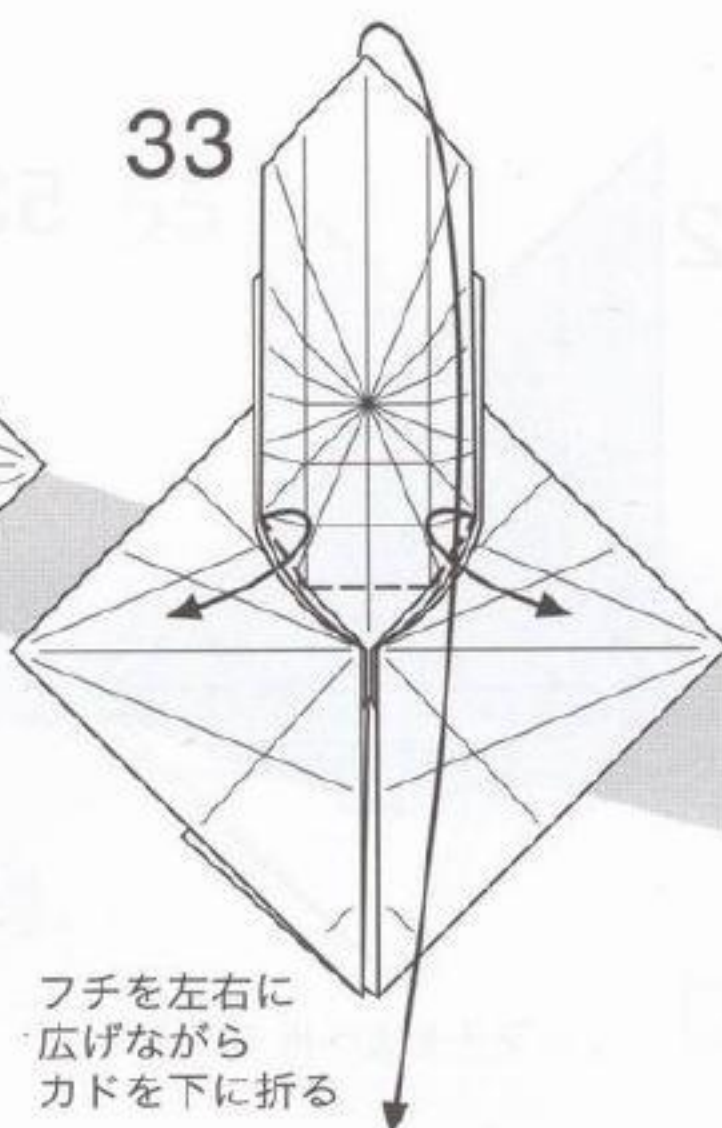
フチを左右に
広げながら
カドを下に折る

32

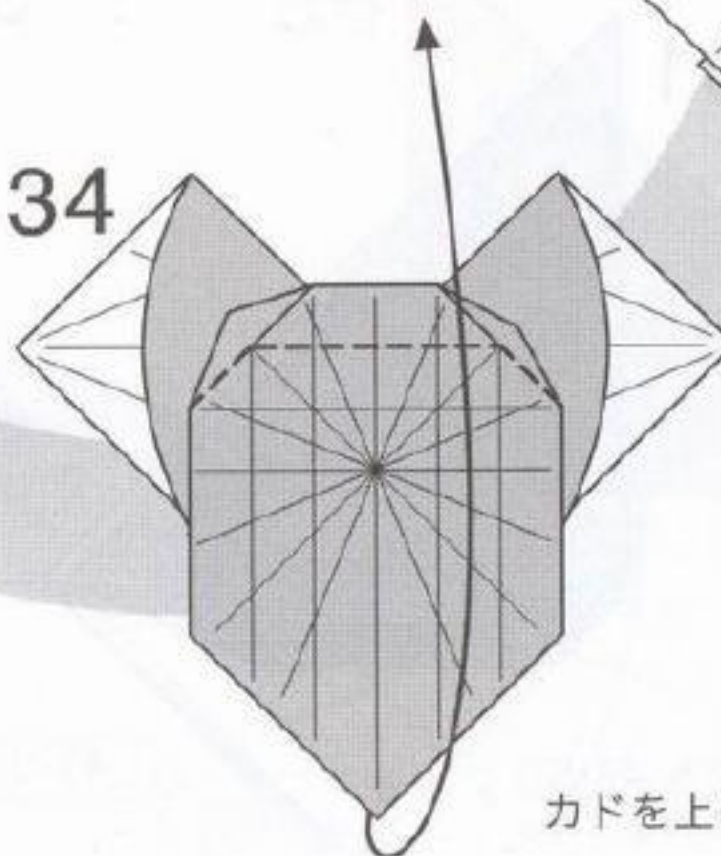


フチを広げるように折る

33

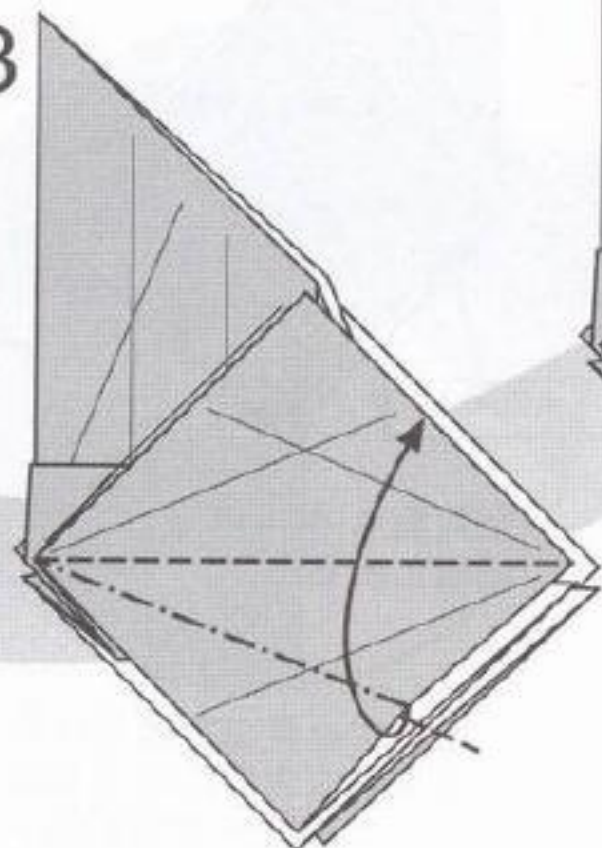
フチを左右に
広げながら
カドを下に折る

34



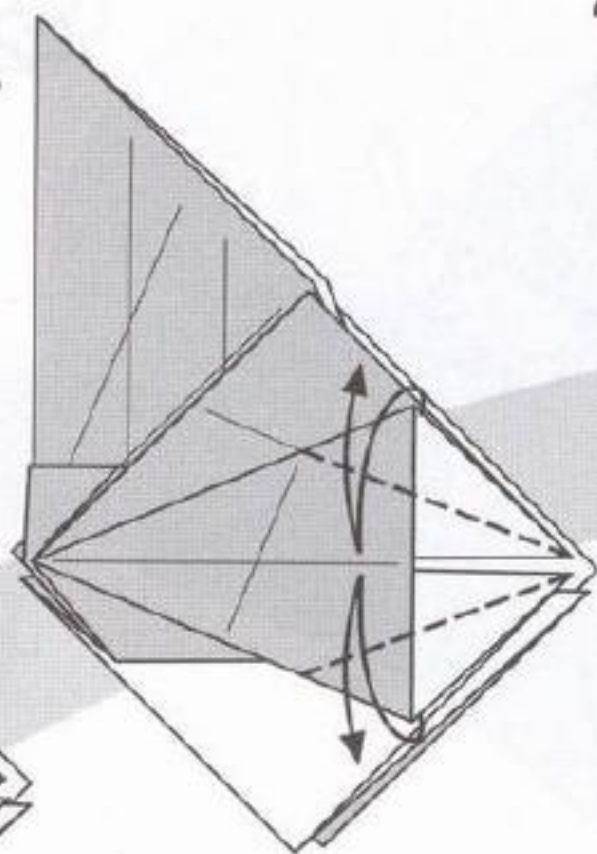
カドを上にも折る

43



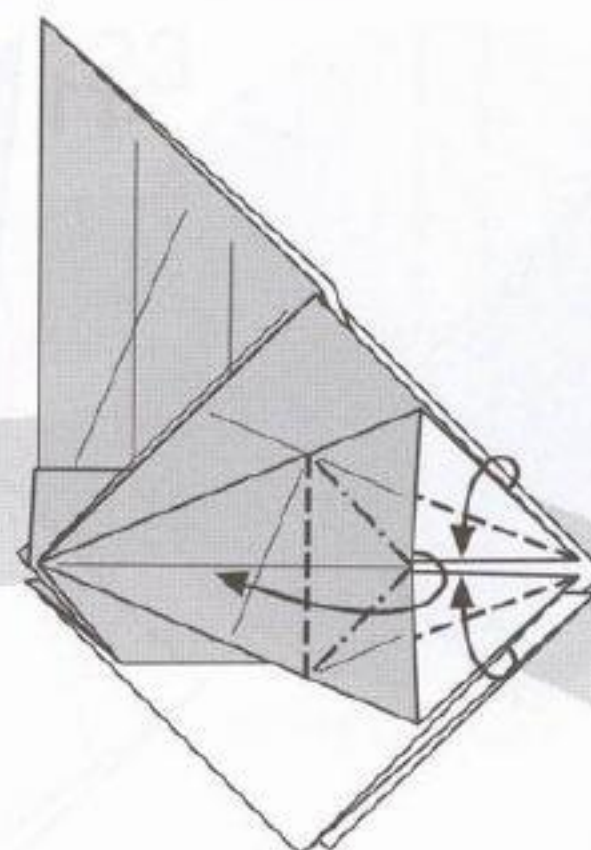
内側をひろげて
つぶすように折る

44



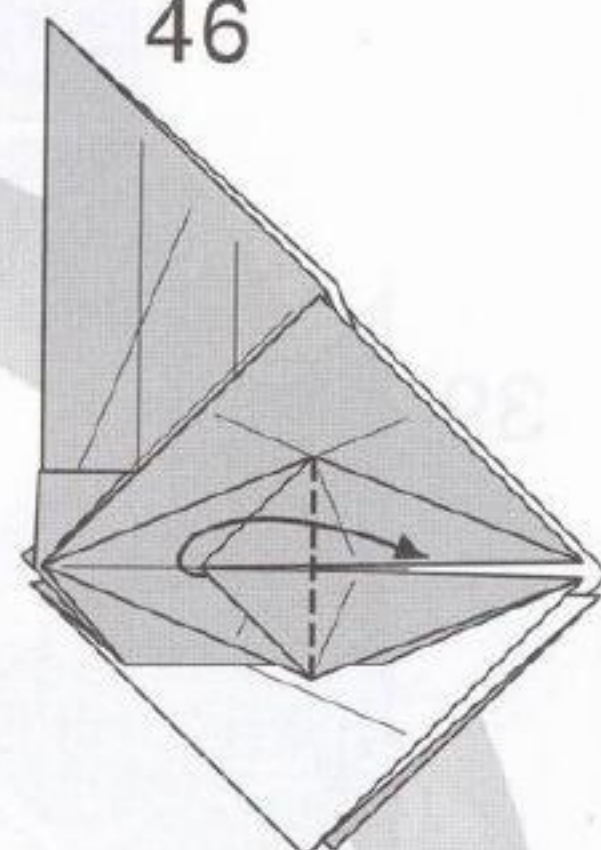
フチを中心に
合わせて折る

45



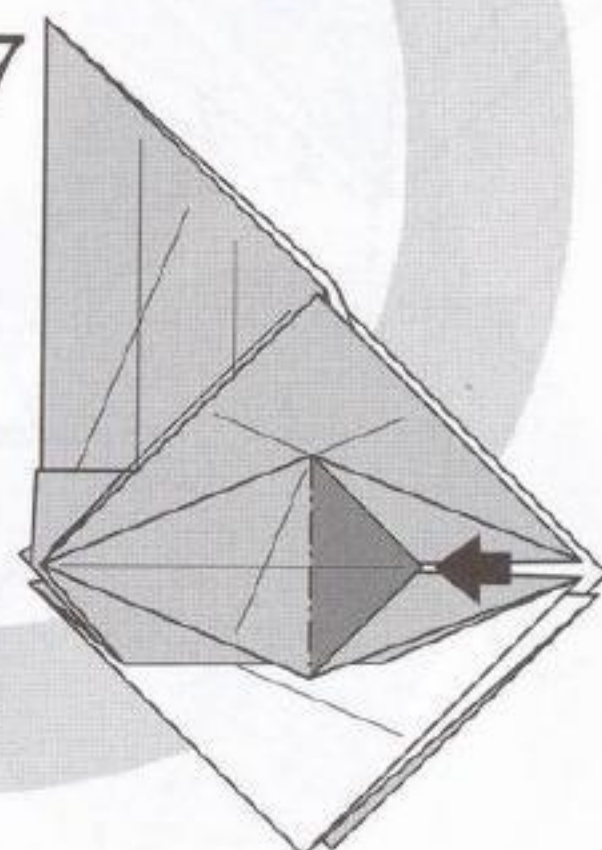
花弁折り

46



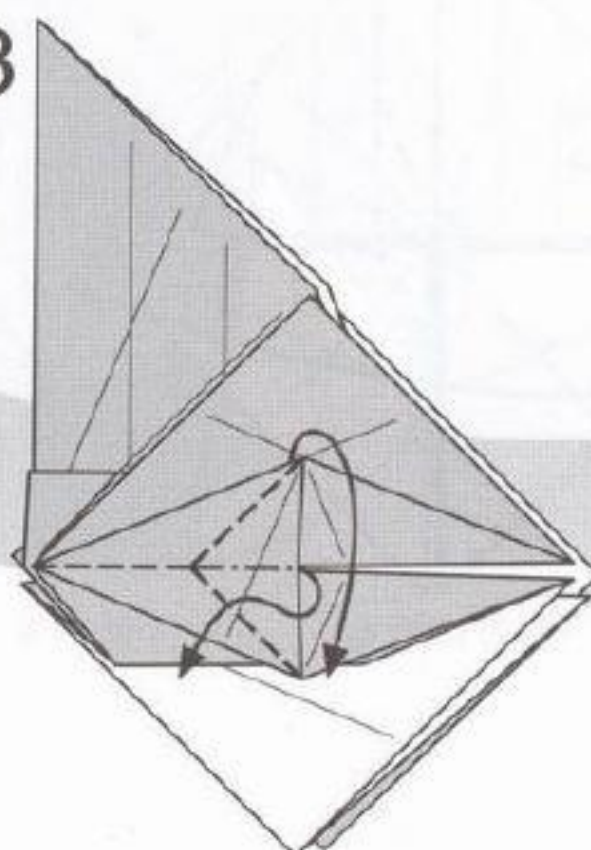
カドを反対側に折る

47



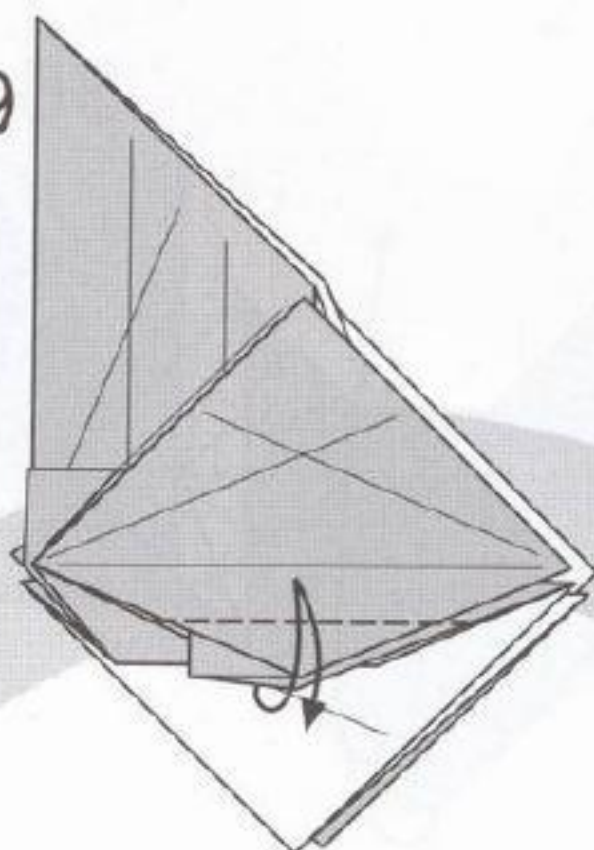
カドを内側に折り込む

48



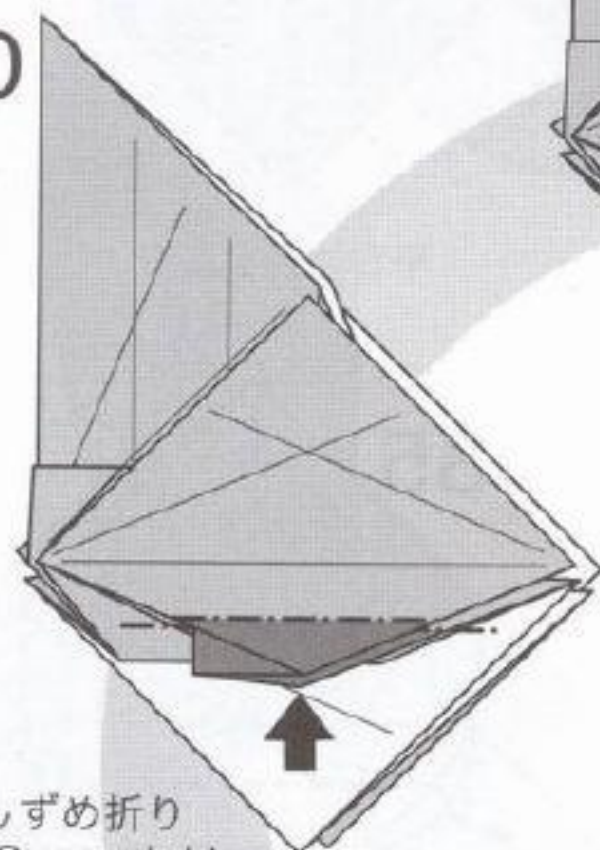
フチを中割り折り
するように折る

49



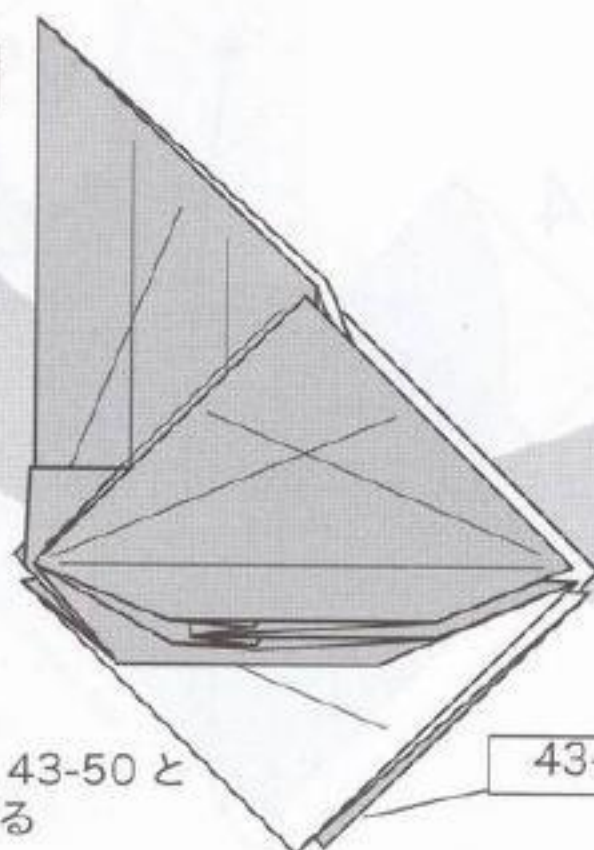
フチを中心に
合わせて
折り筋をつける

50



しずめ折り
(Open sink)

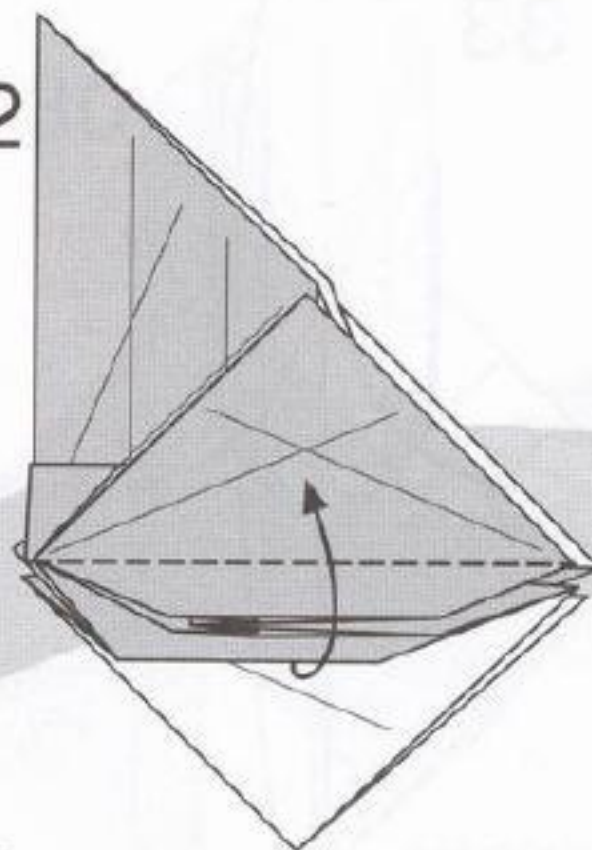
51



反対側も 43-50 と
同様に折る

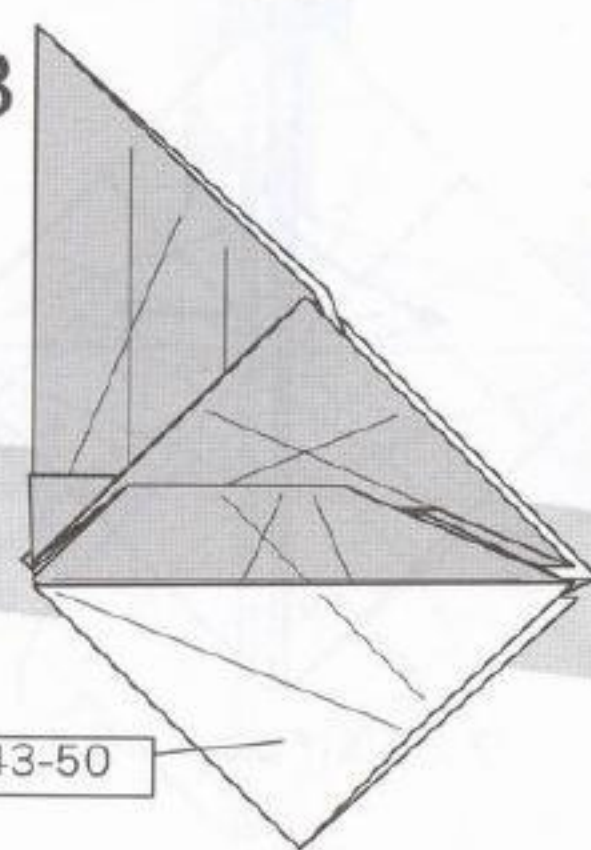
43-50

52



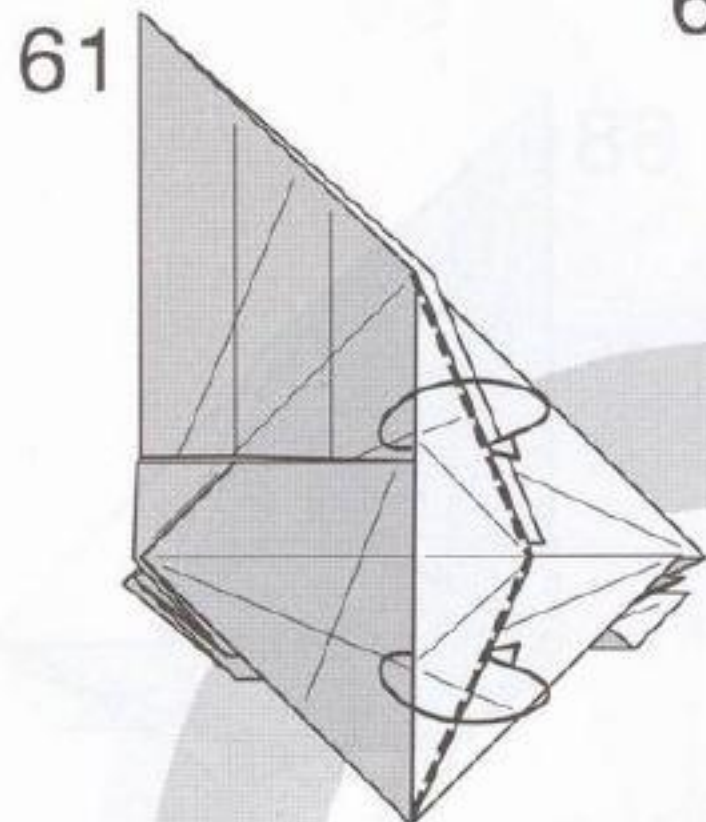
フチを上へ折る

53

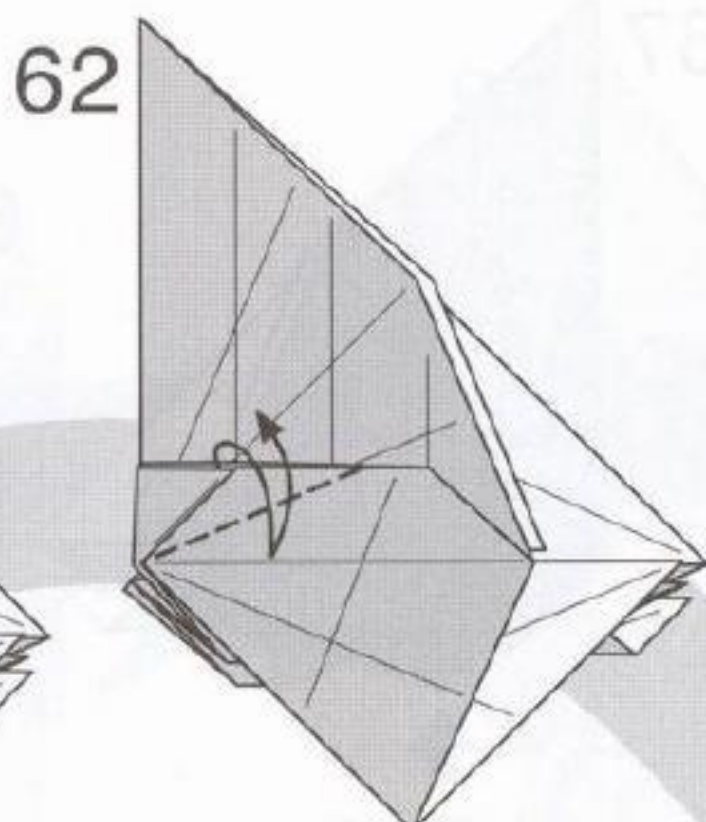


43-50

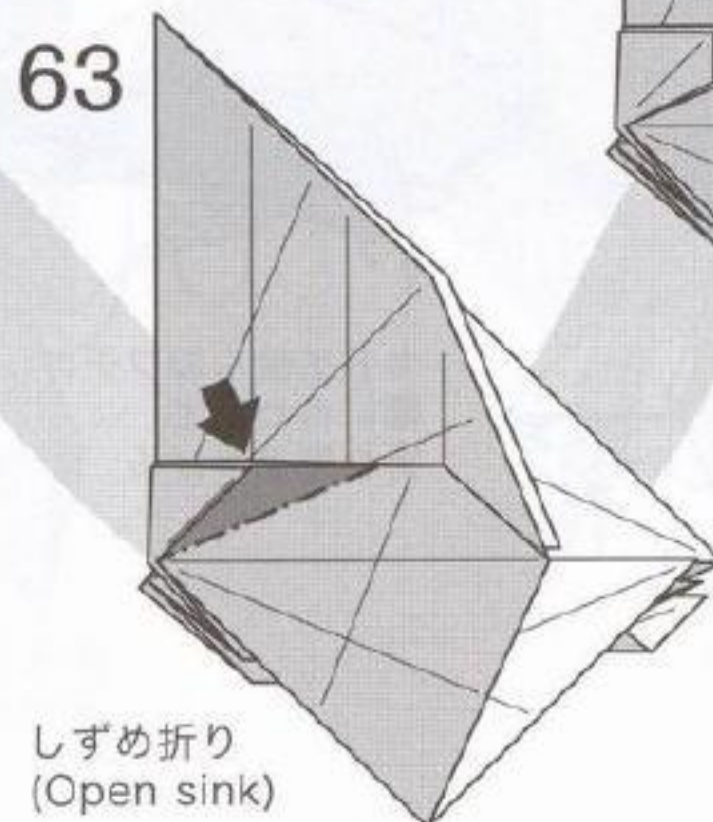
中心のカドも 43-50 と
同様に折る



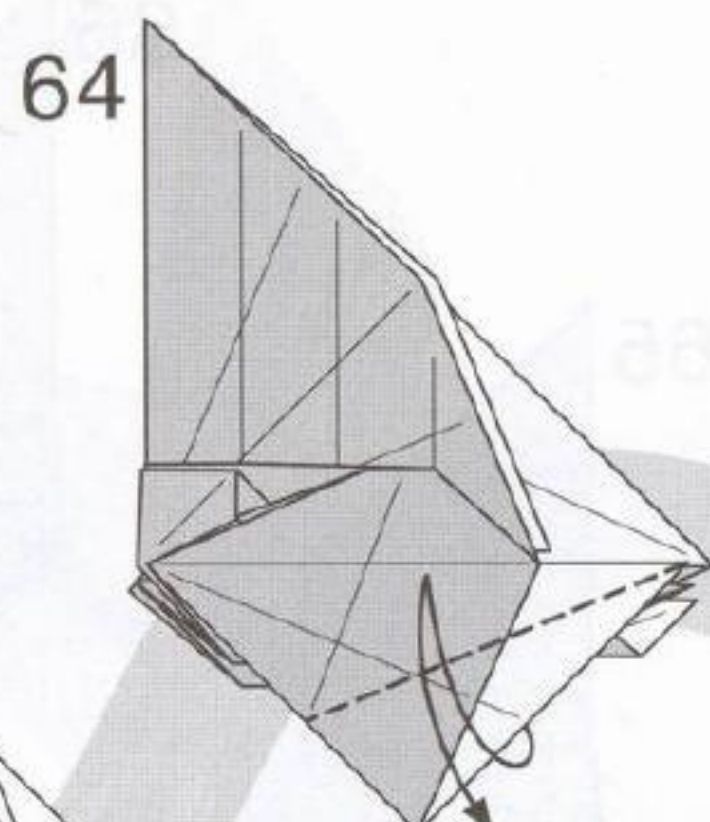
フチをかぶせるように裏側へ折る



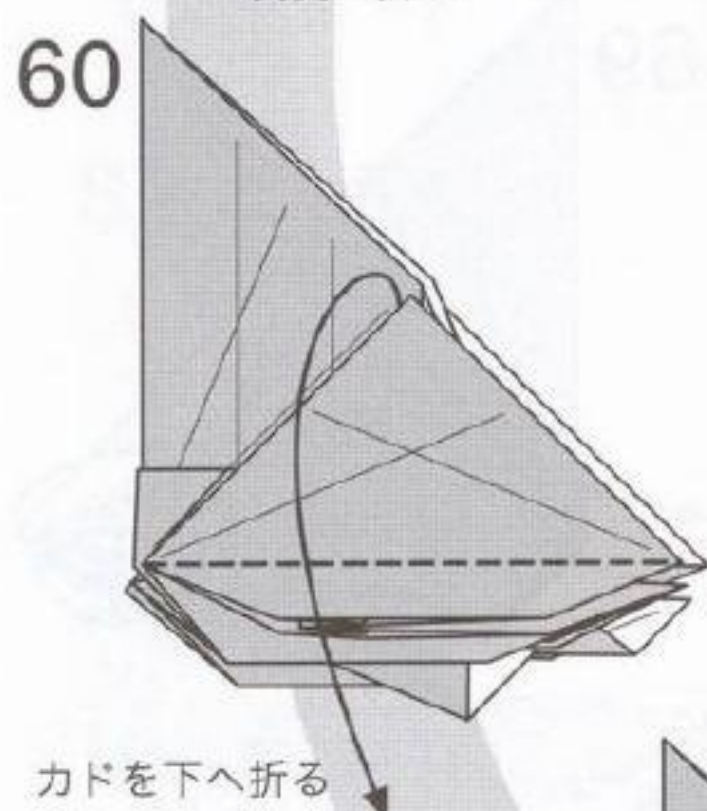
フチとフチを合わせて折り筋をつける



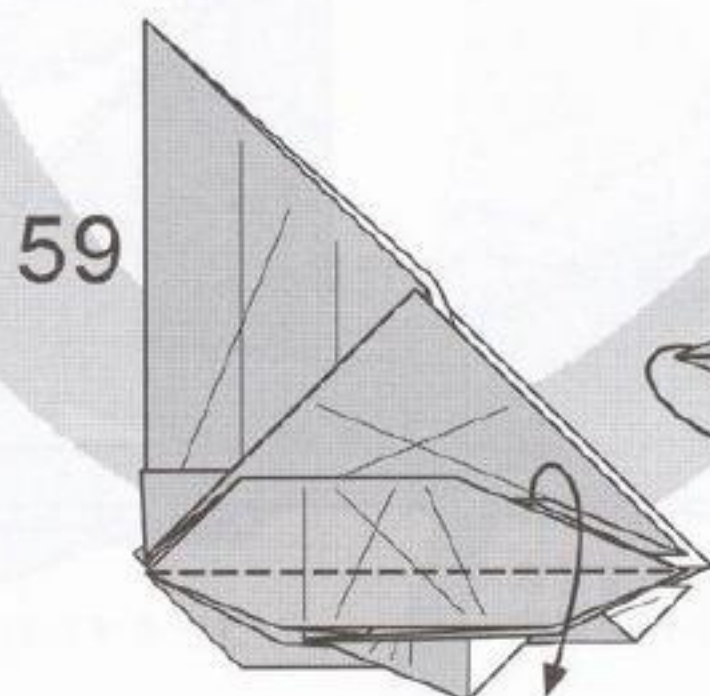
しずめ折り
(Open sink)



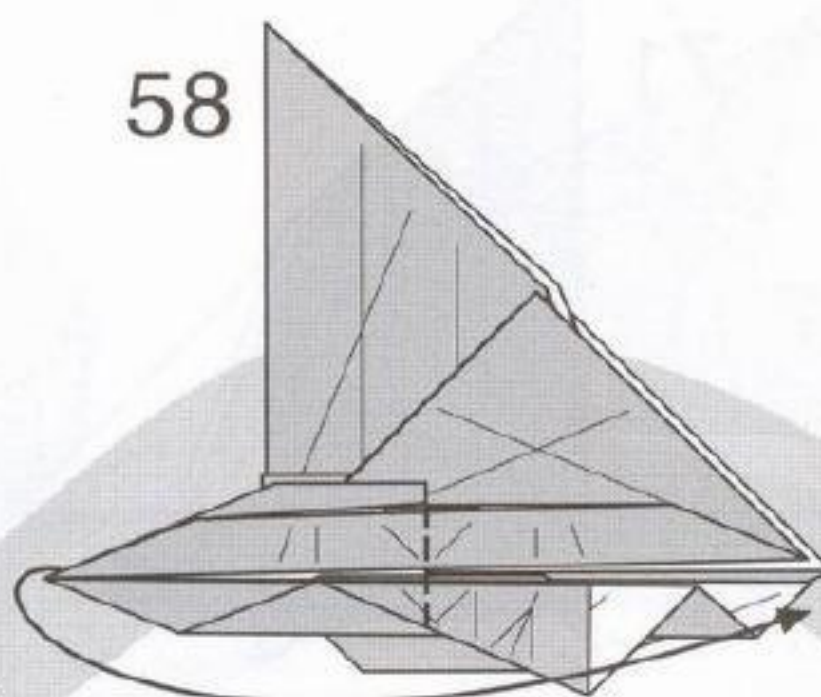
フチを中心に合わせて折り筋をつける



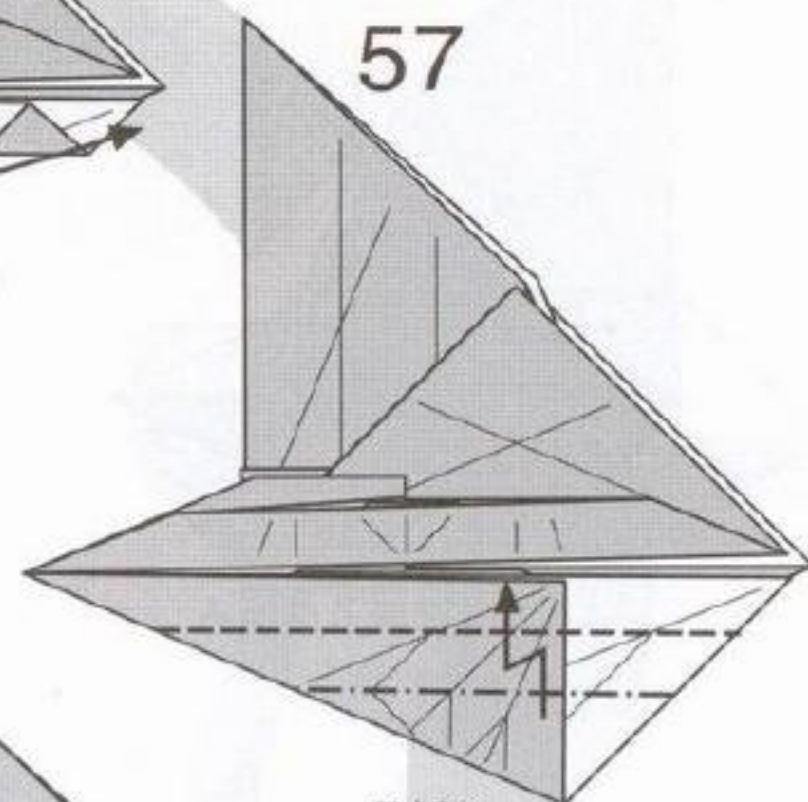
カドを下へ折る



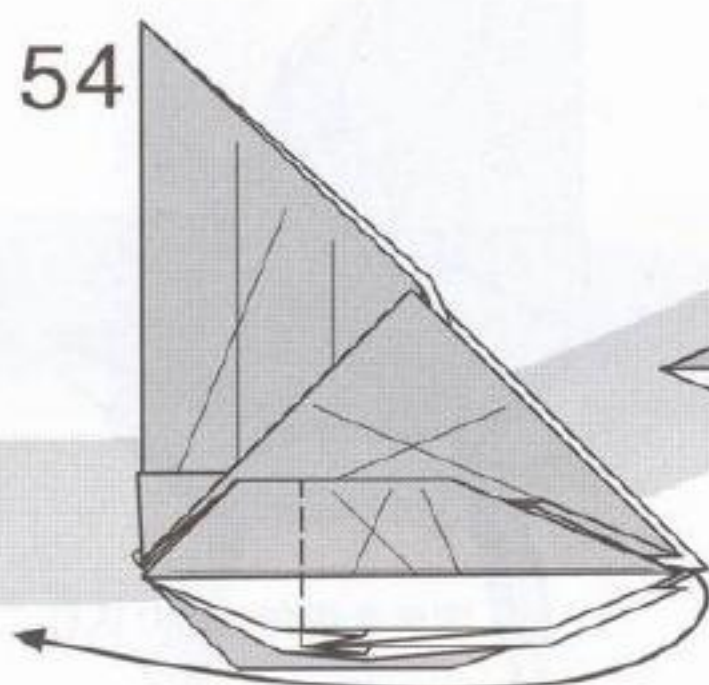
フチを反対側へ折る



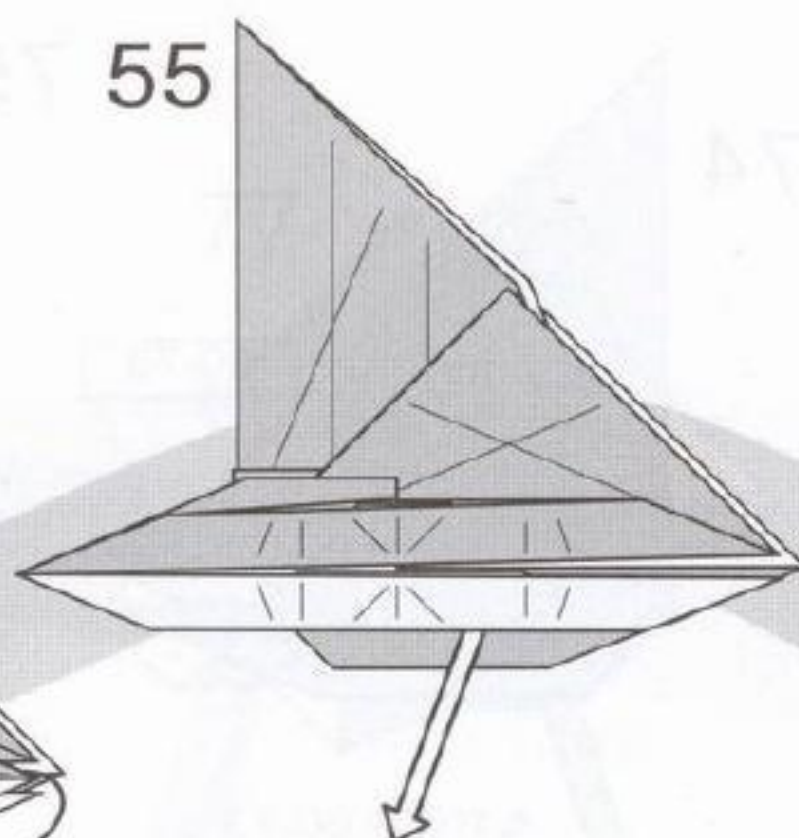
カドを反対側へ折る



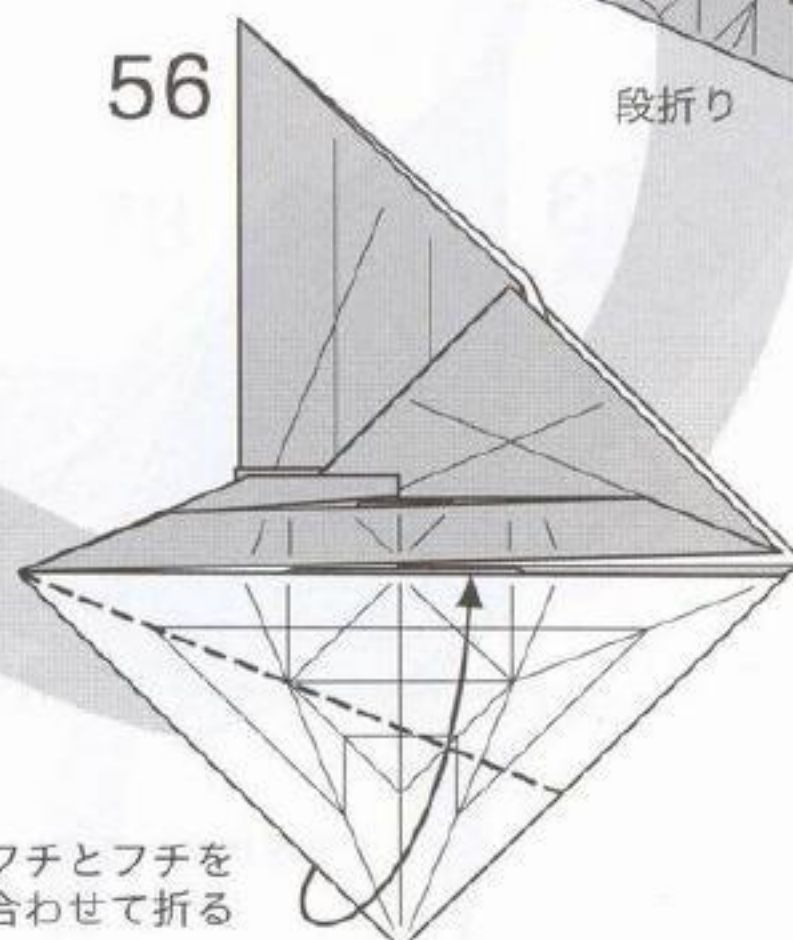
段折り



カドを反対側に折る

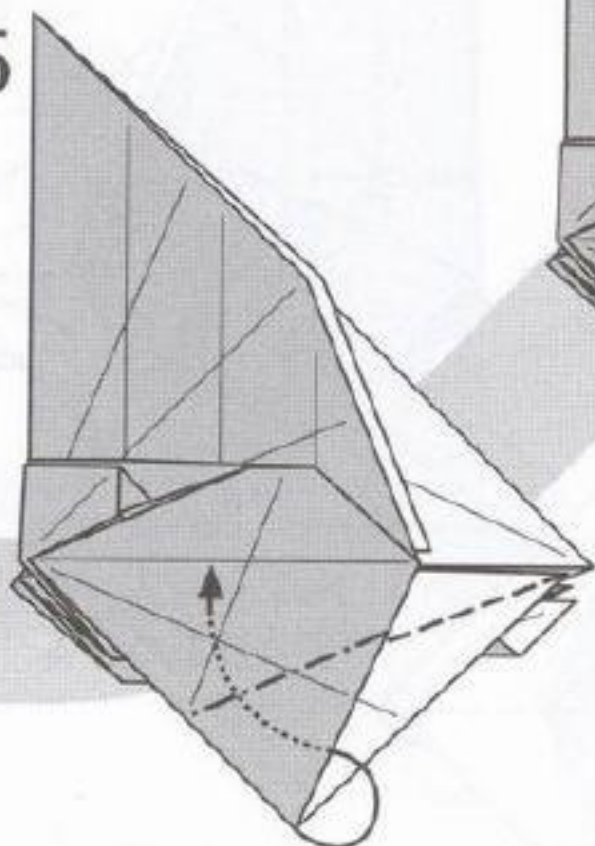


折り畳まれているカドを広げる



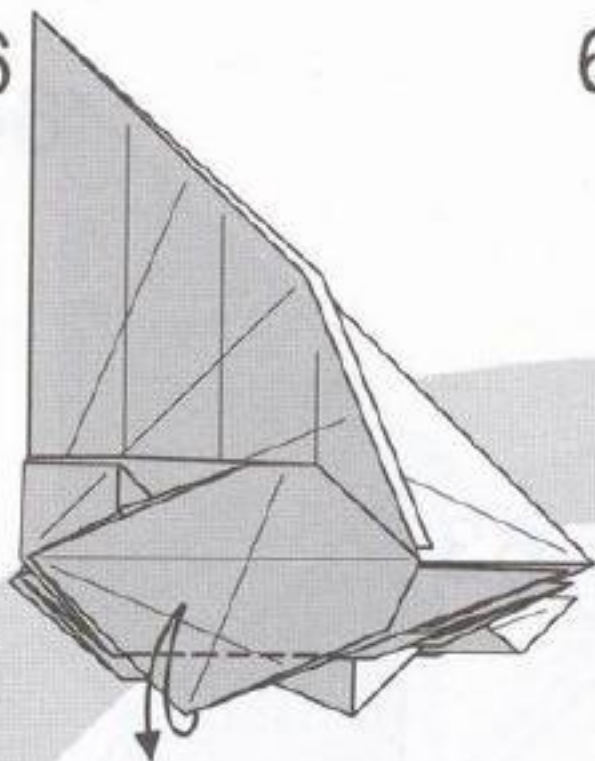
フチとフチを合わせて折る

65

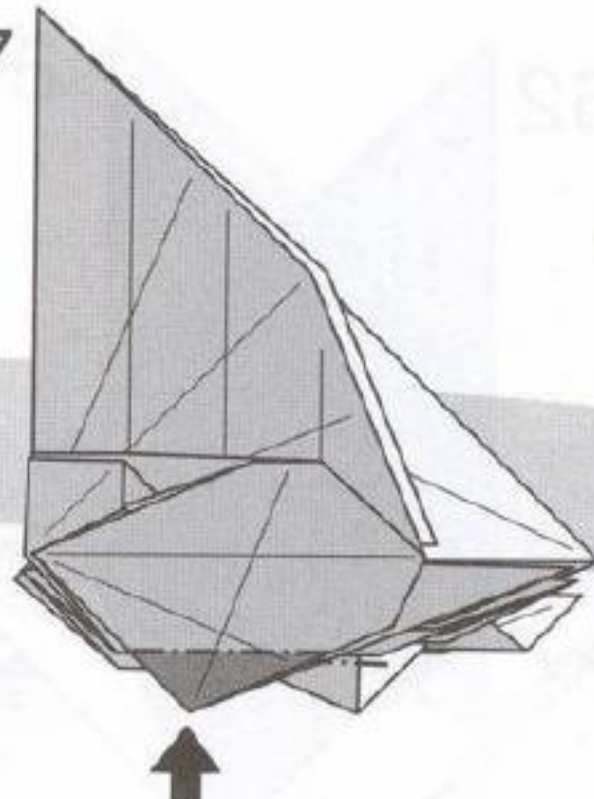


中割り折り

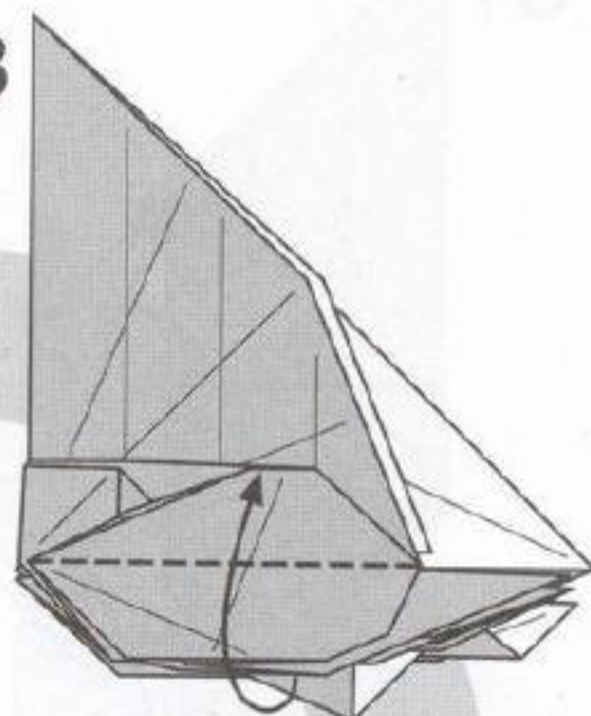
66

カドを後ろのフチの
幅に合わせて
折り筋をつける

67

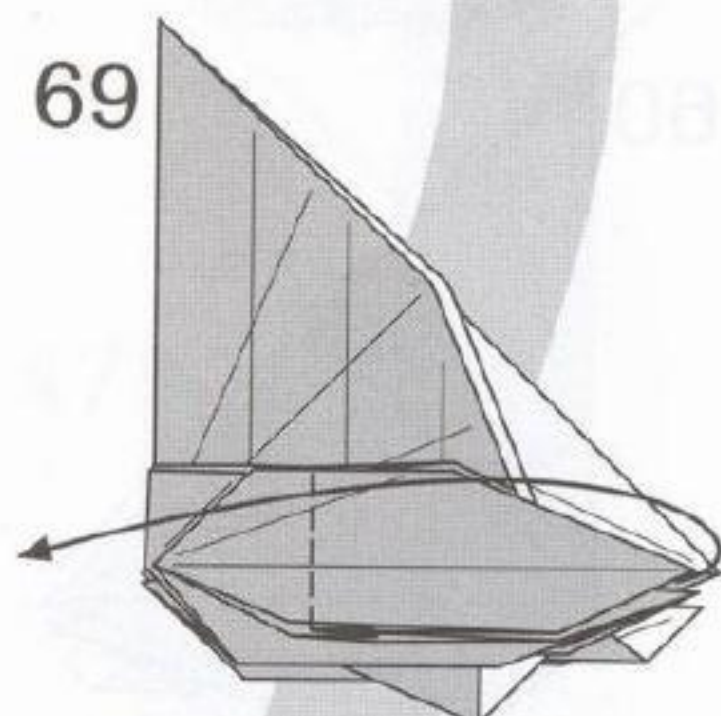
しずめ折り
(Open sink)

68



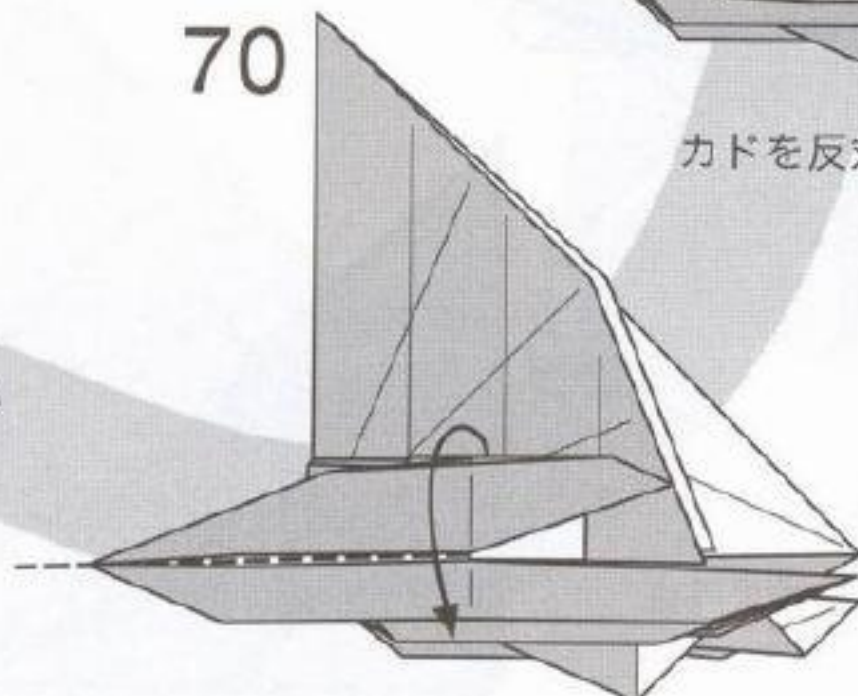
フチを上折る

69



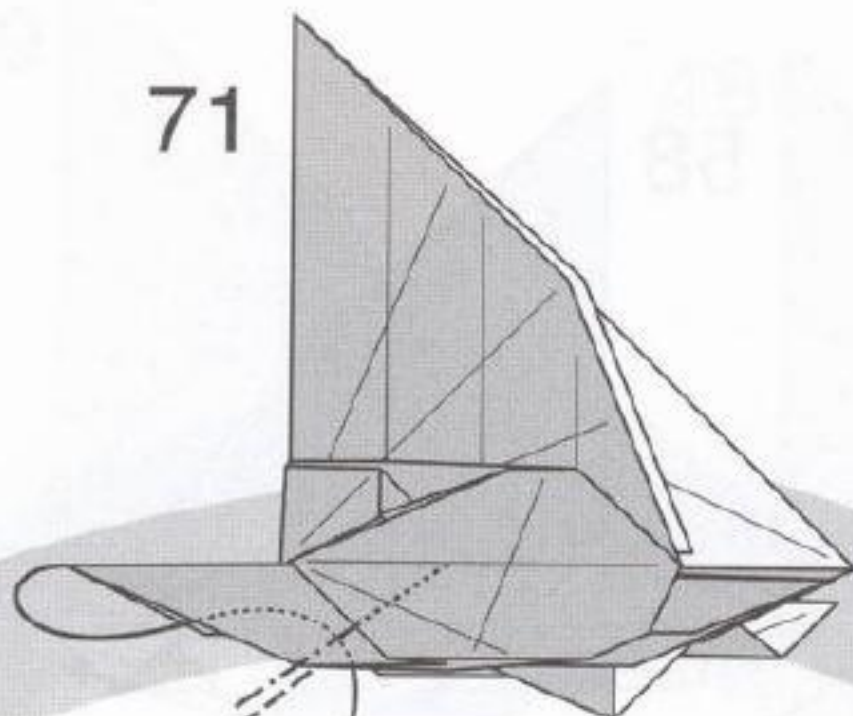
カドを反対側に折る

70



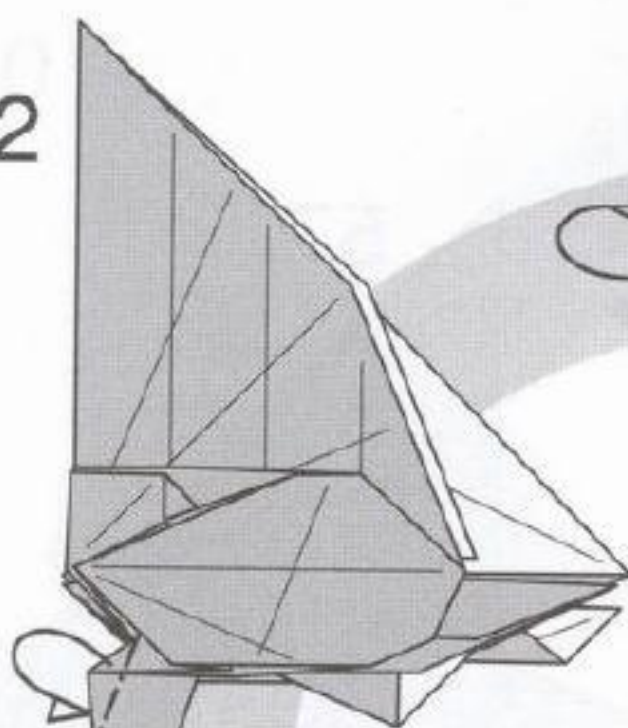
フチを下に折る

71



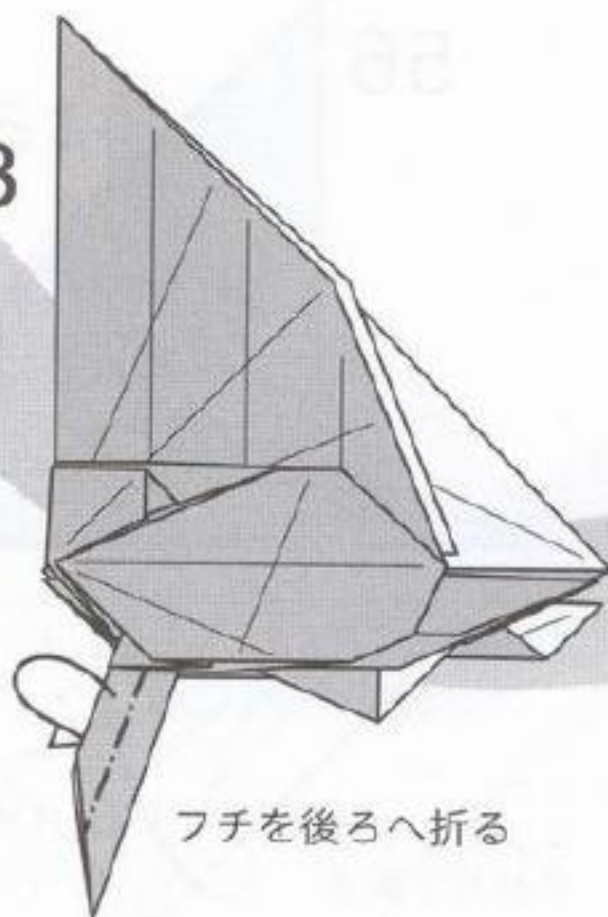
中割り折り

72



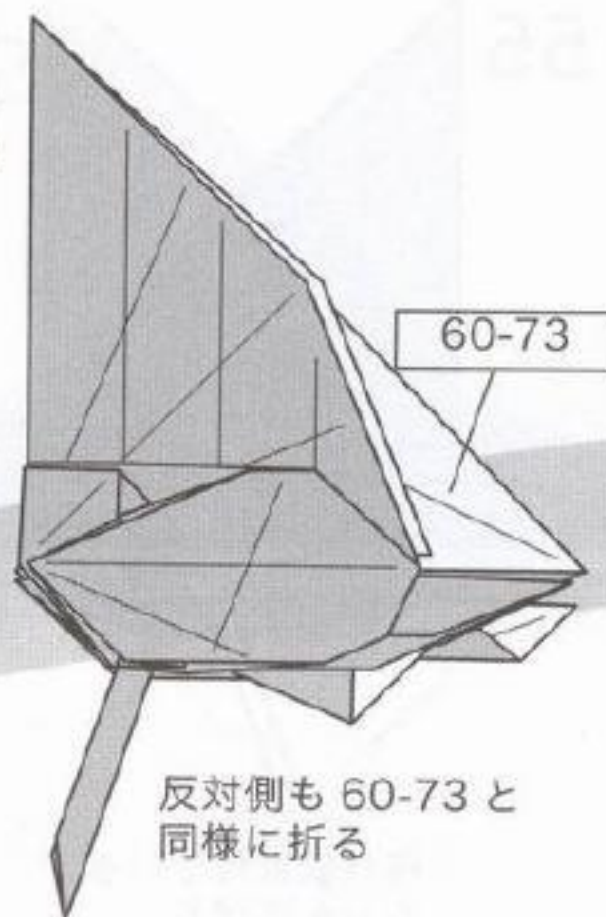
カドを後ろへ折る

73

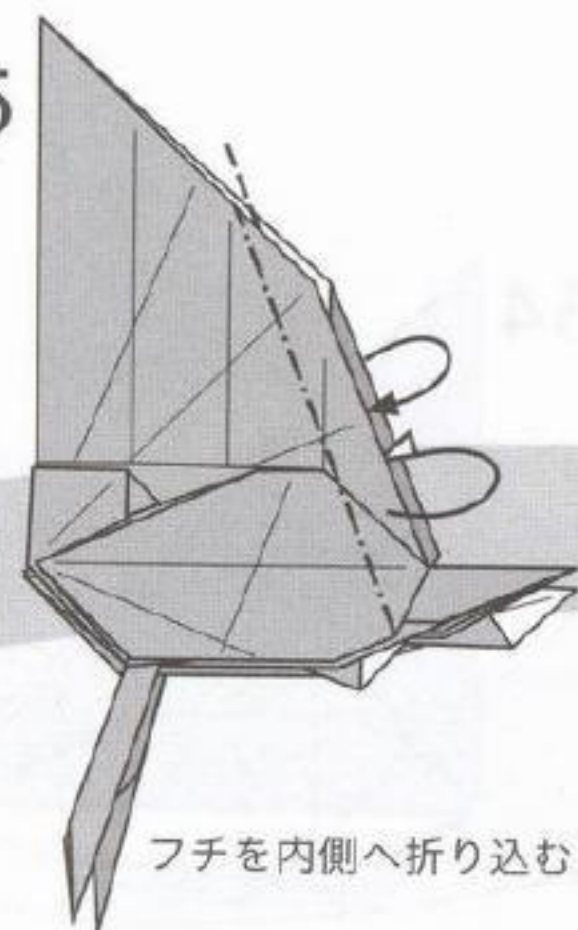


フチを後ろへ折る

74

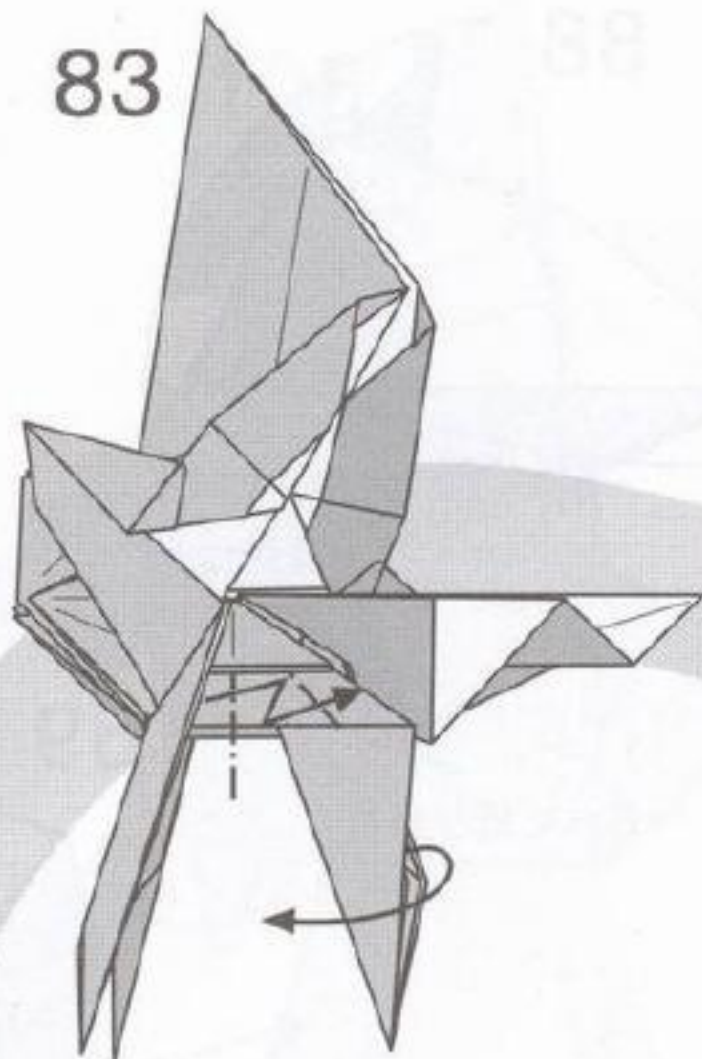
反対側も 60-73 と
同様に折る

75



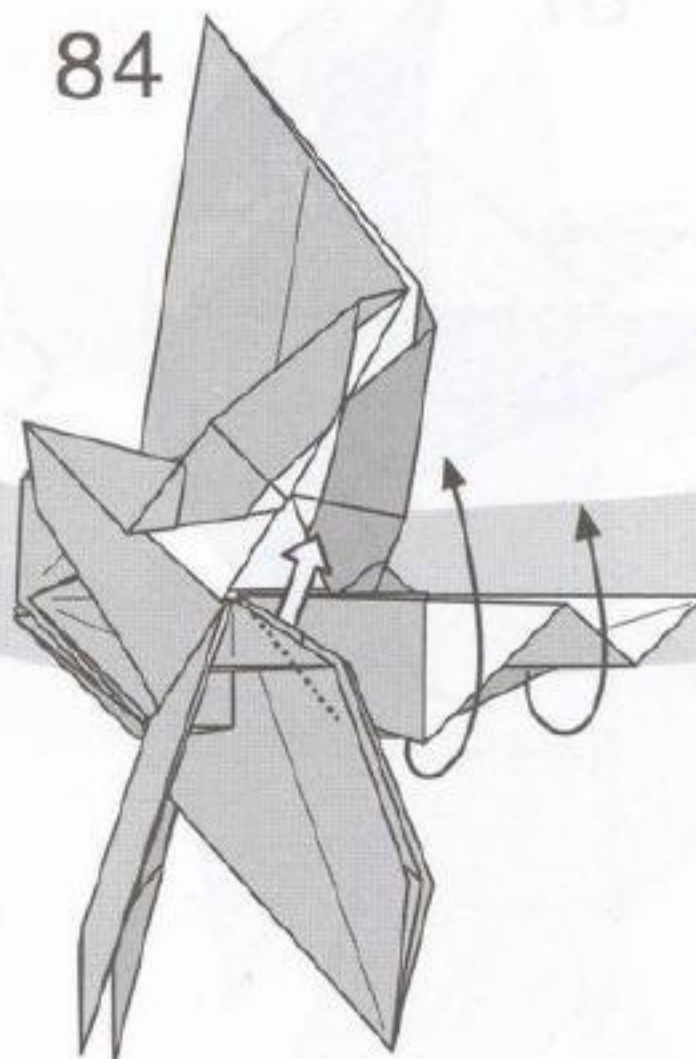
フチを内側へ折り込む

83



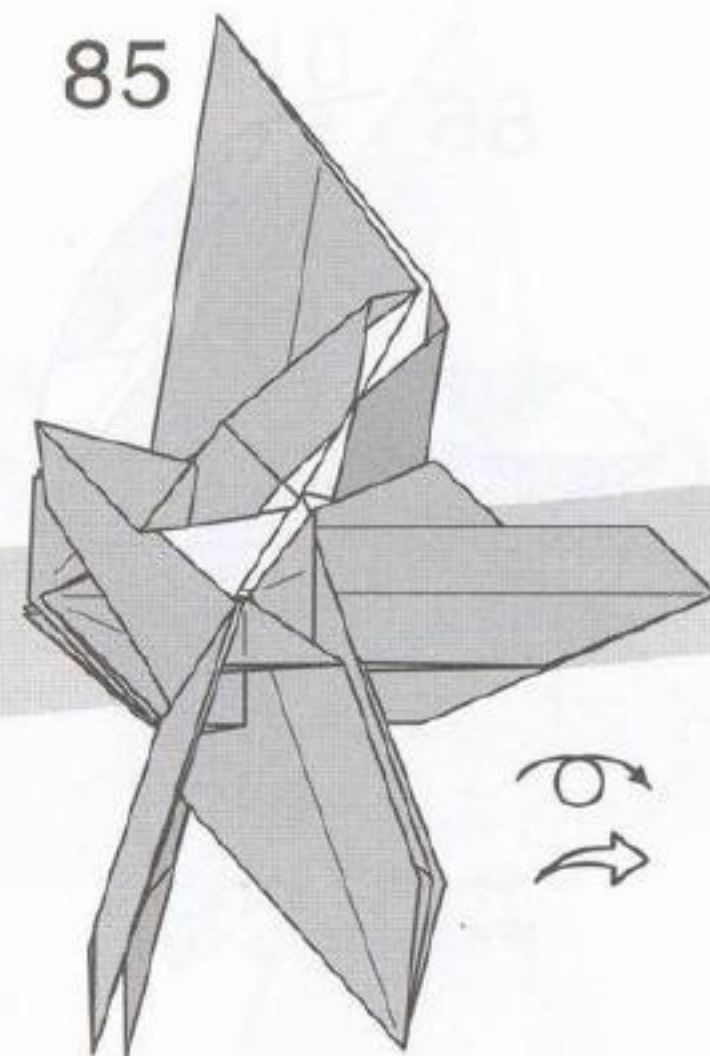
上の1枚を広げて
ずらすように段折り

84

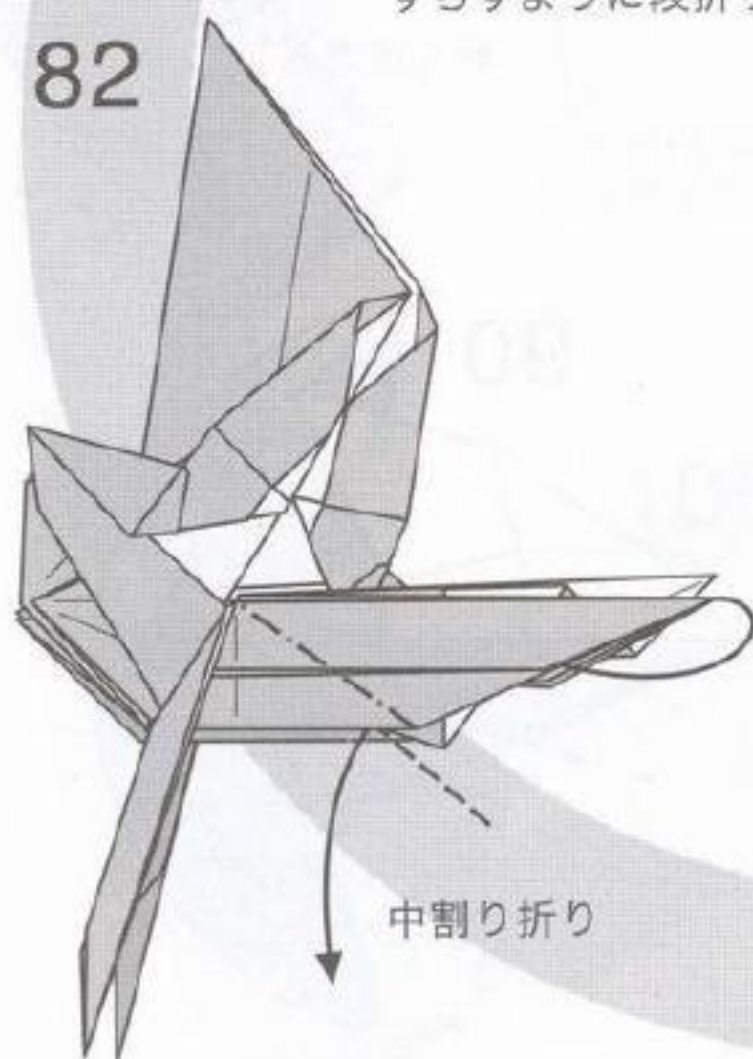


ヒダ2枚を
上へ広げる

85

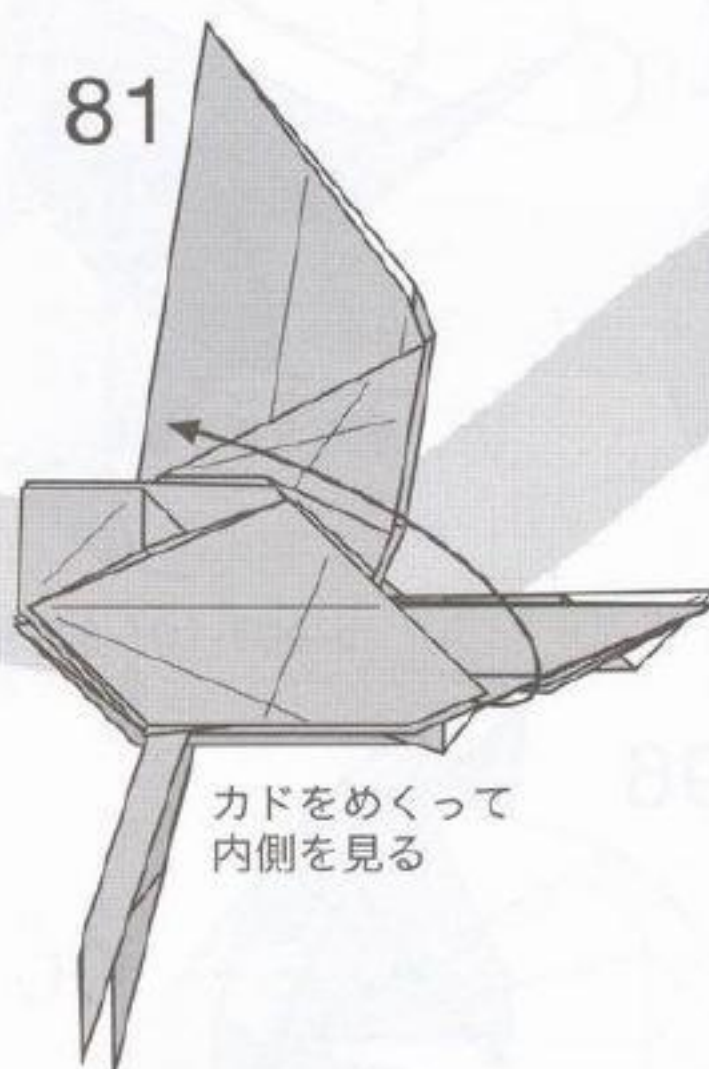


82



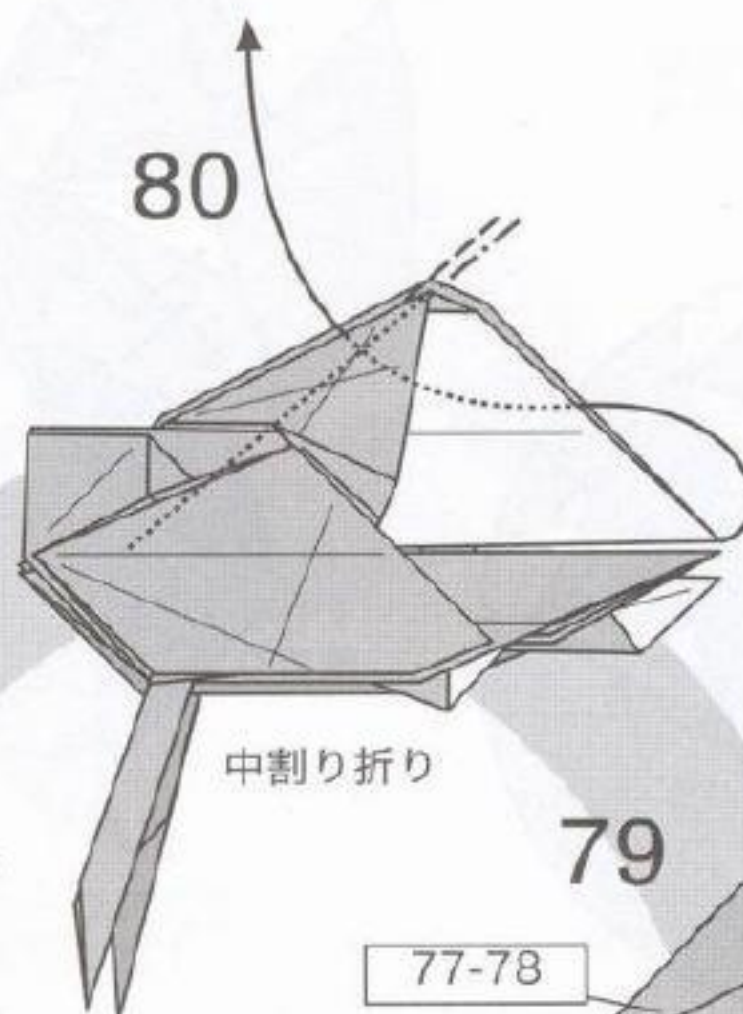
中割り折り

81



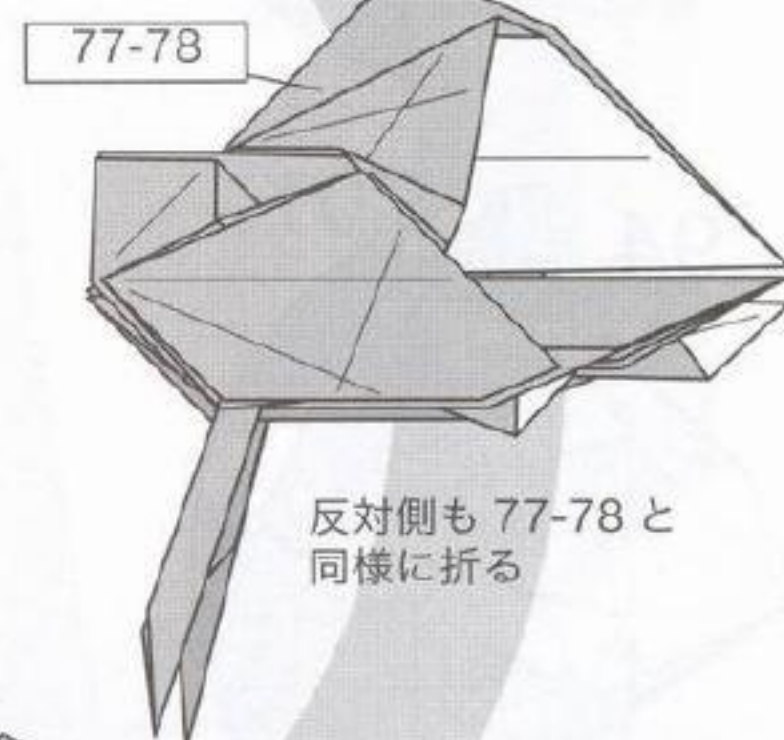
カドをめくって
内側を見る

80



中割り折り

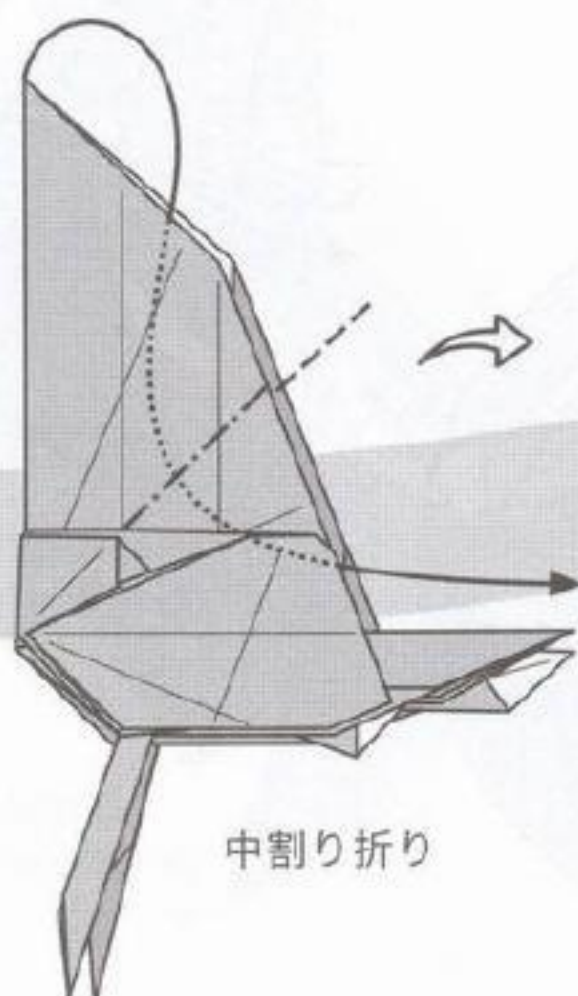
79



77-78

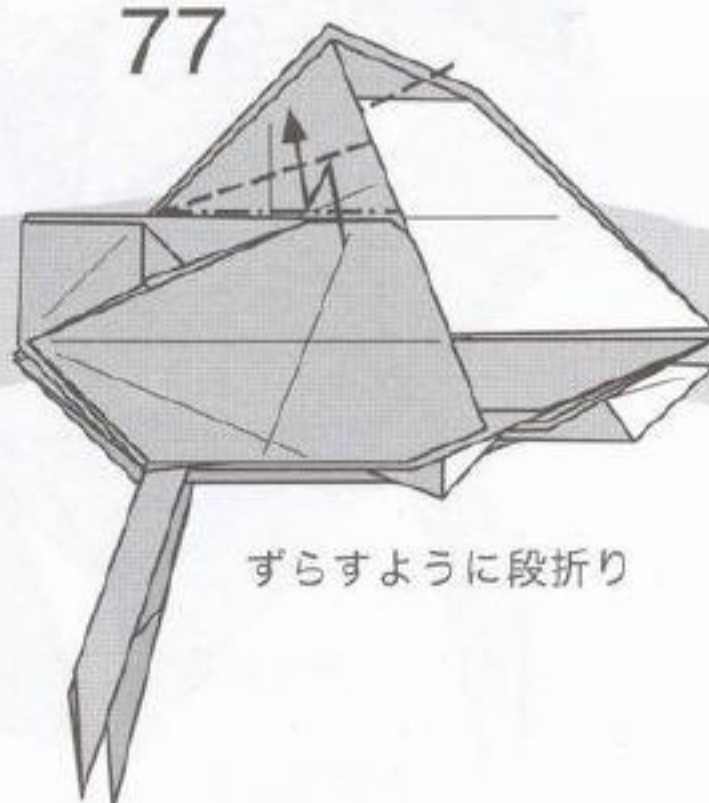
反対側も 77-78 と
同様に折る

76



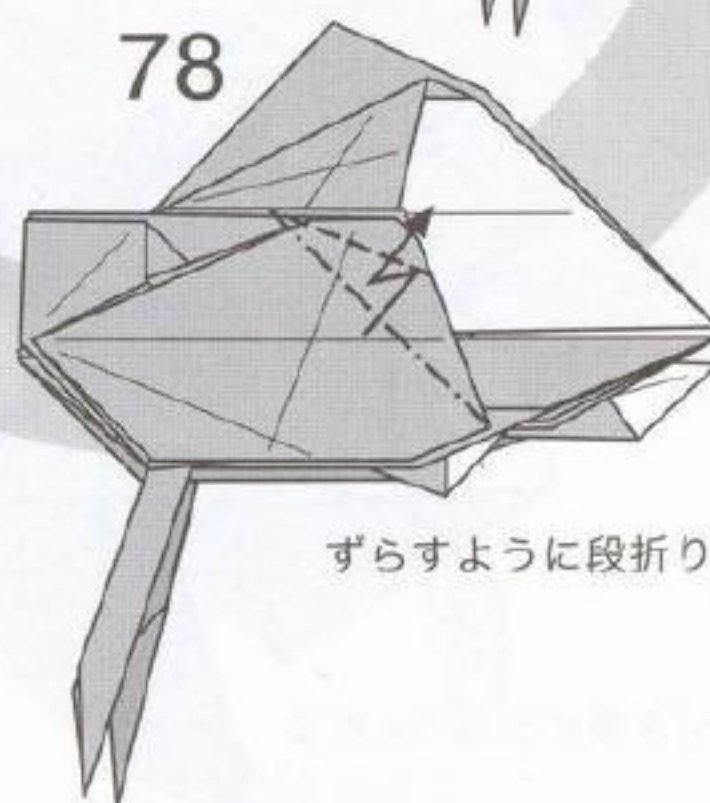
中割り折り

77



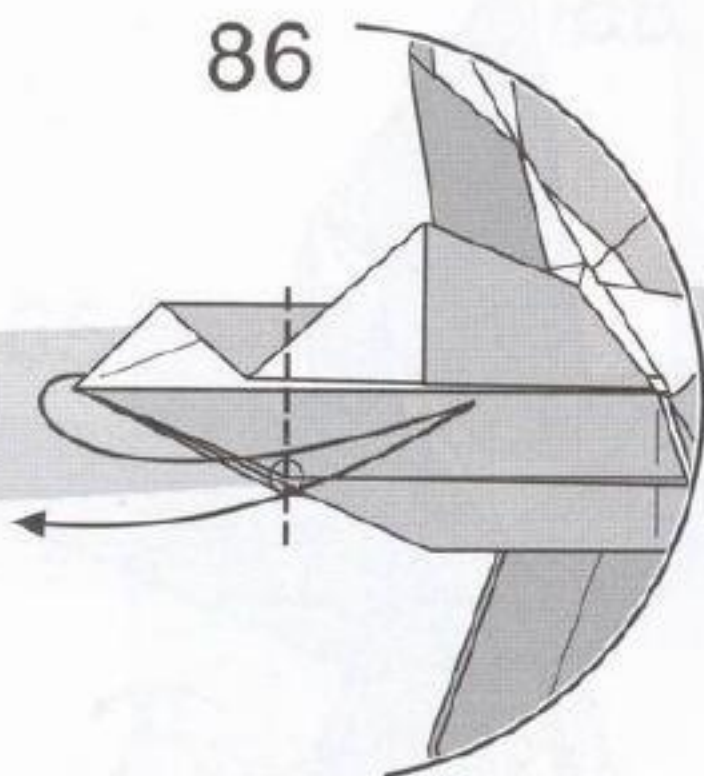
ずらすように段折り

78



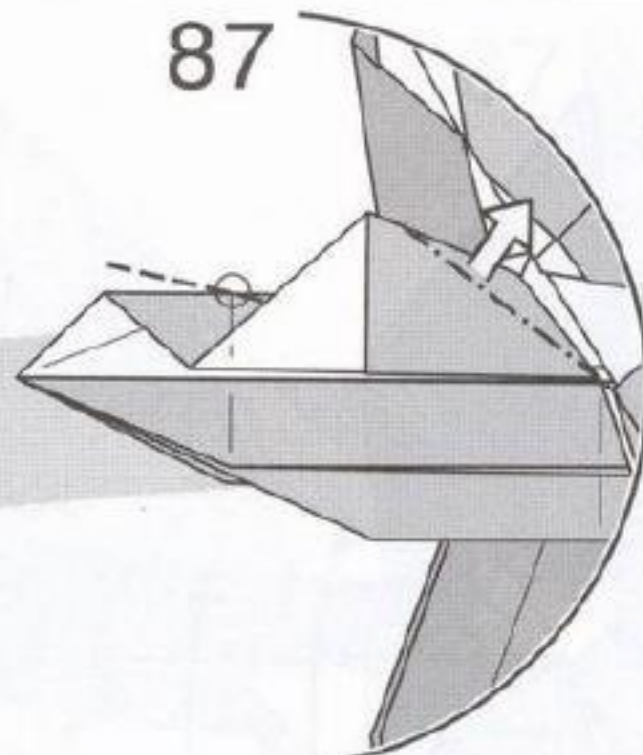
ずらすように段折り

86



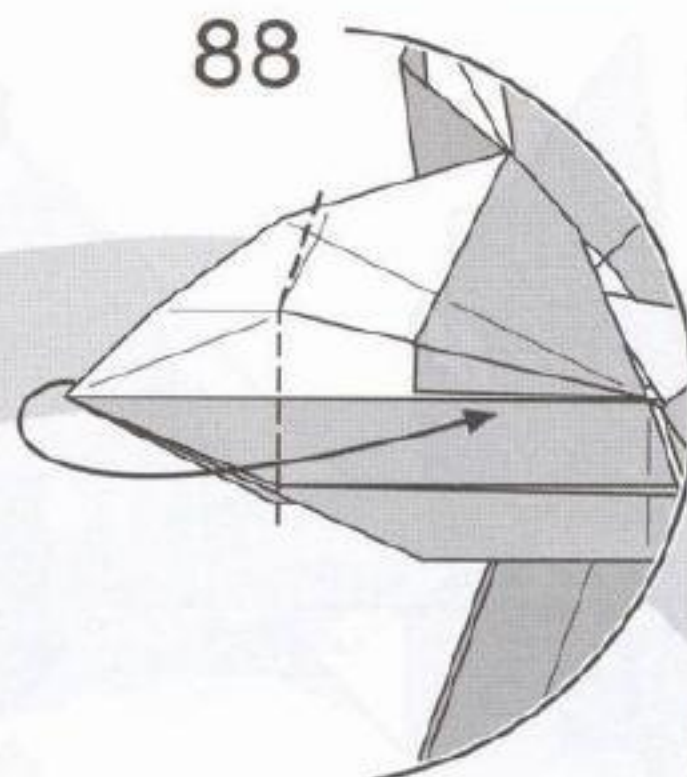
カドのところで
折り筋をつける

87



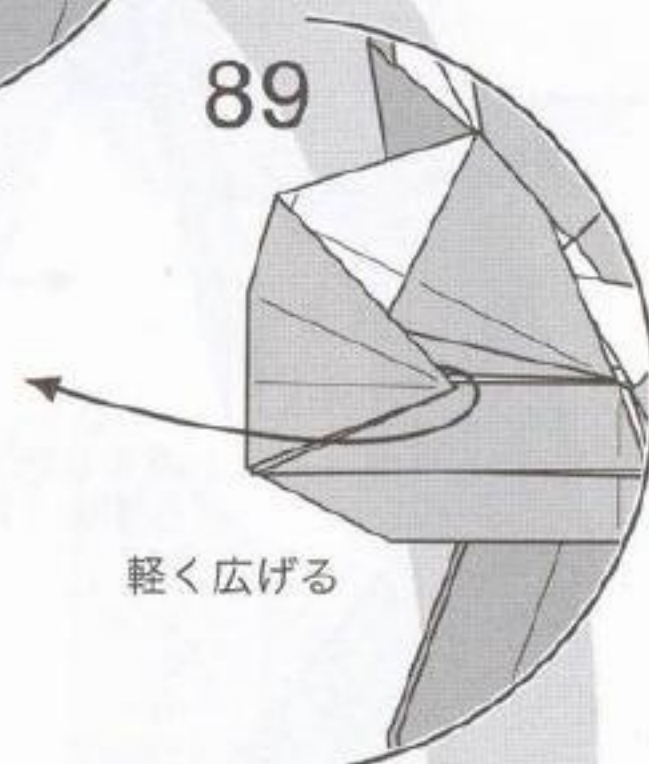
ずらすように折る

88



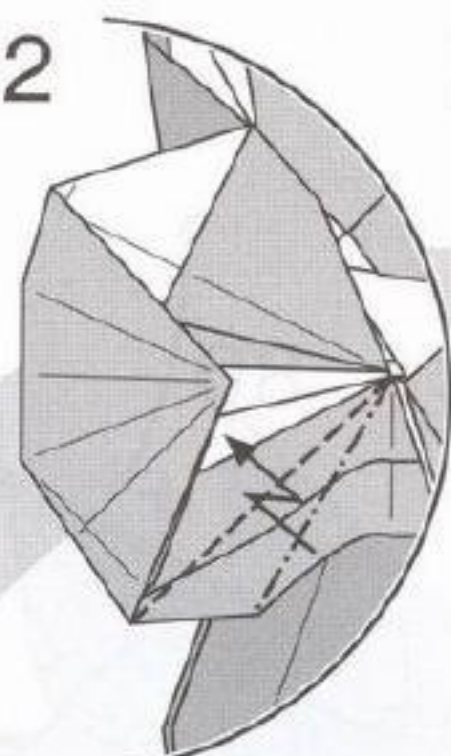
平らに折り畳む

89



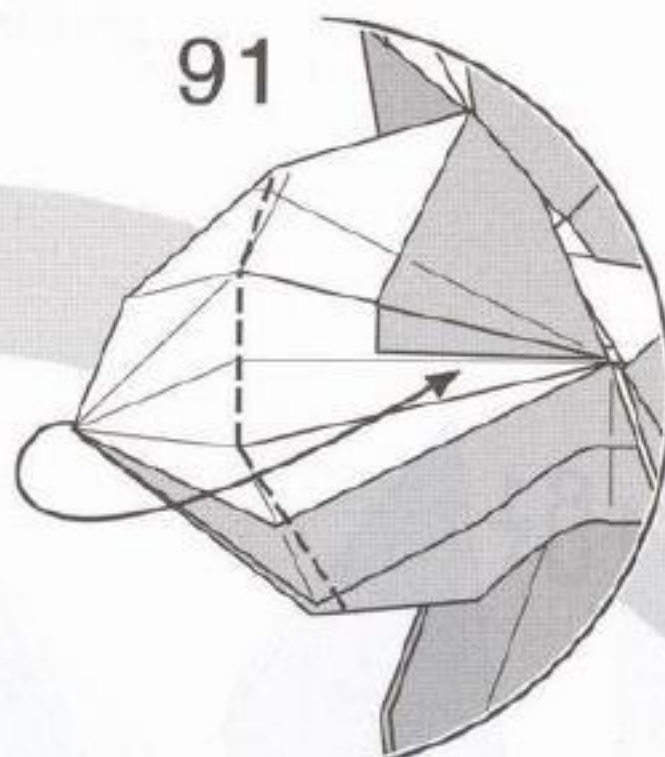
軽く広げる

92



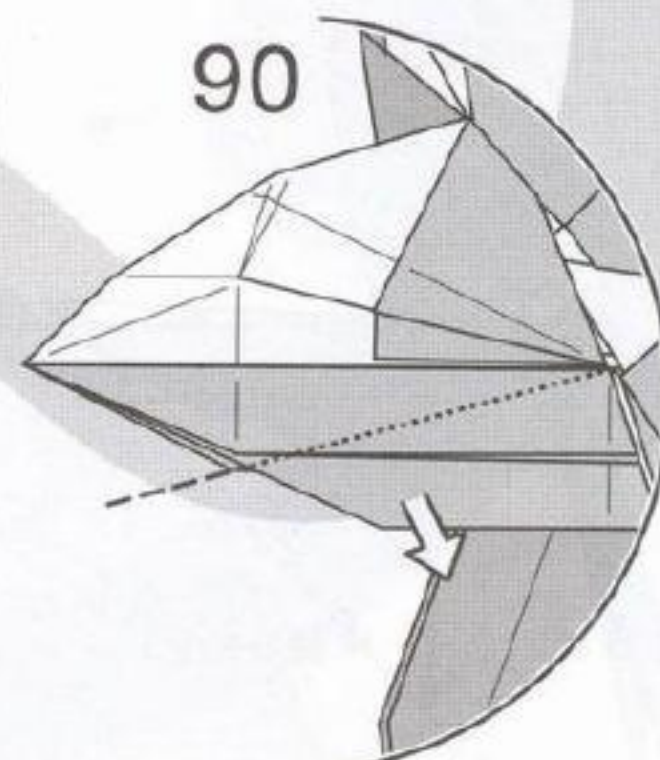
ずらすように
段折り

91



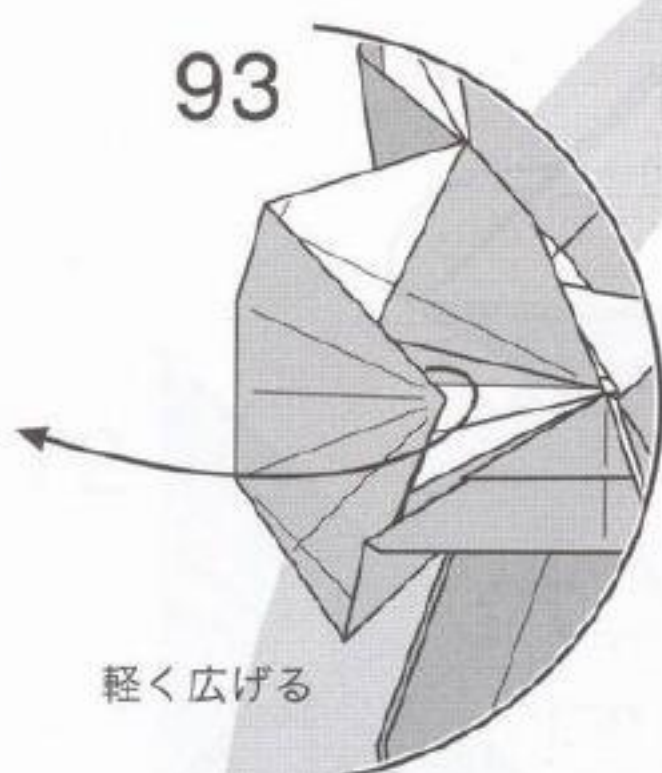
平らに折り畳む

90



ずらすように折る

93



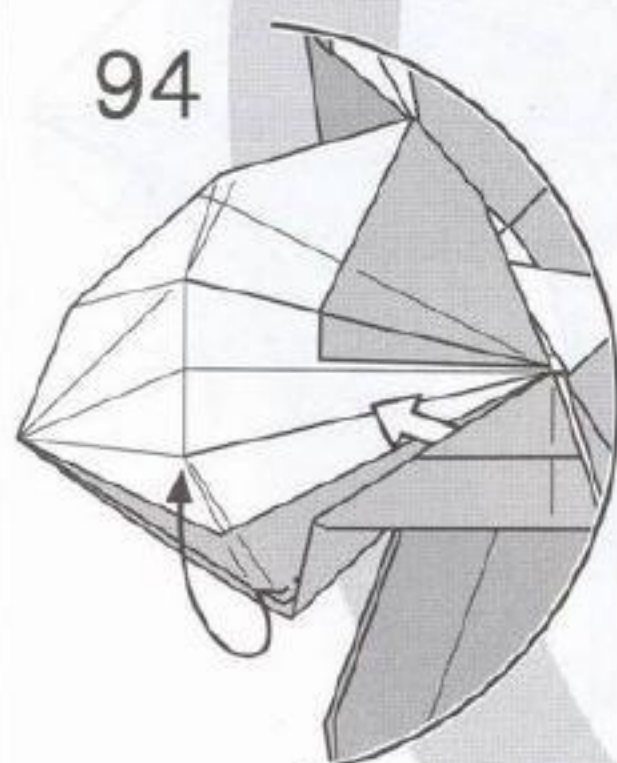
軽く広げる

96



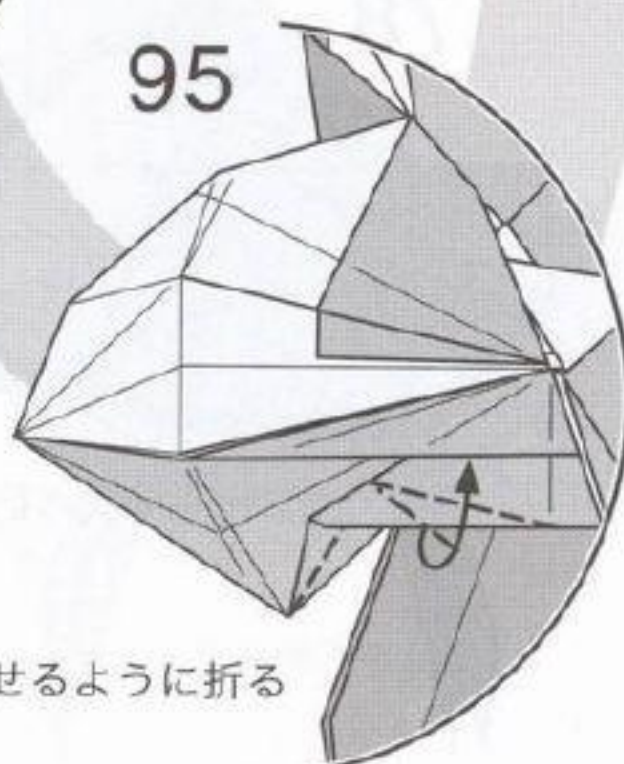
カドを斜めに折る

94



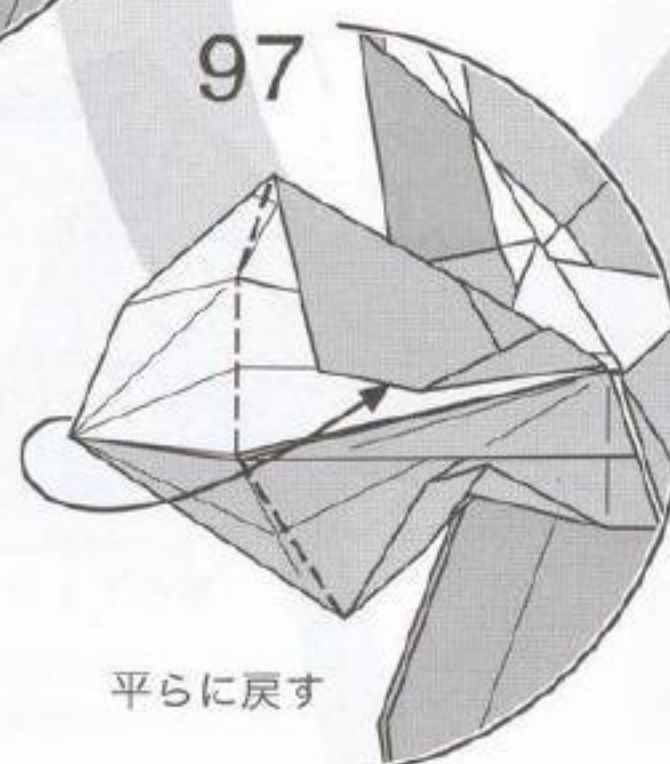
上の1枚を引き出す

95



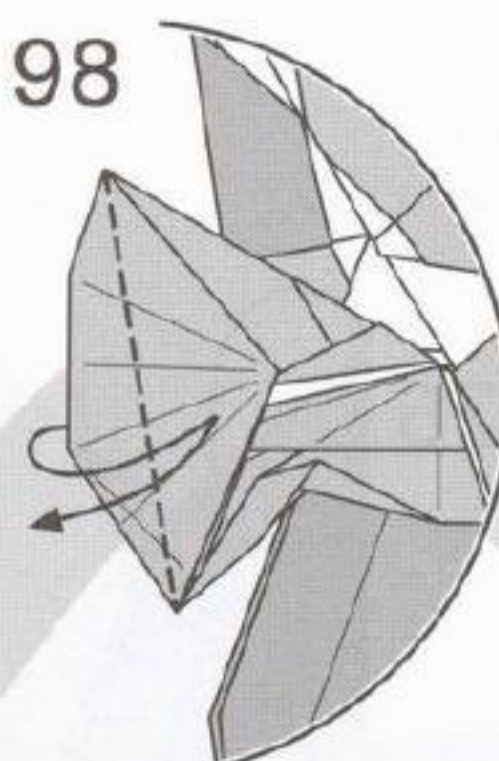
引き寄せるように折る

97

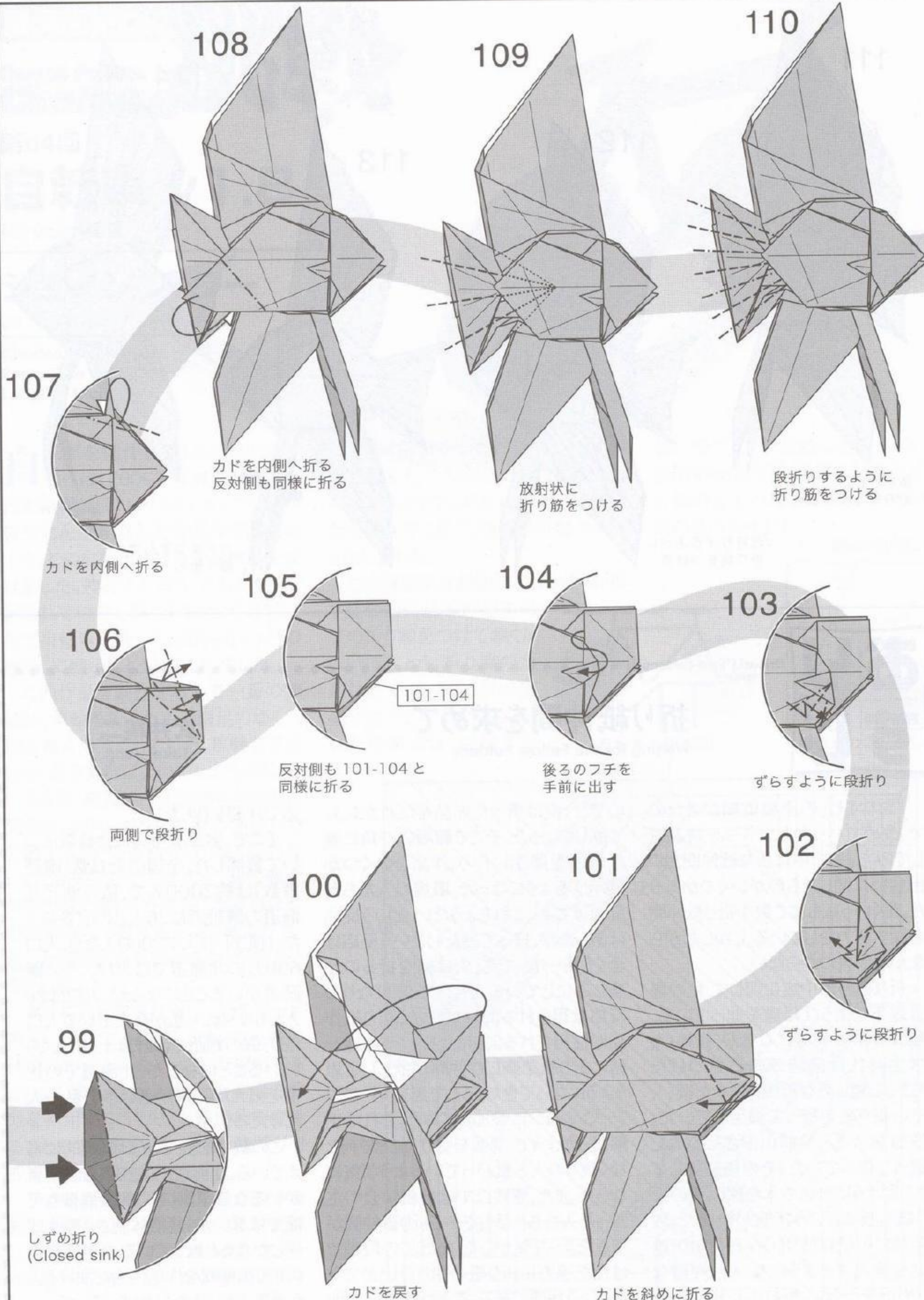


平らに戻す

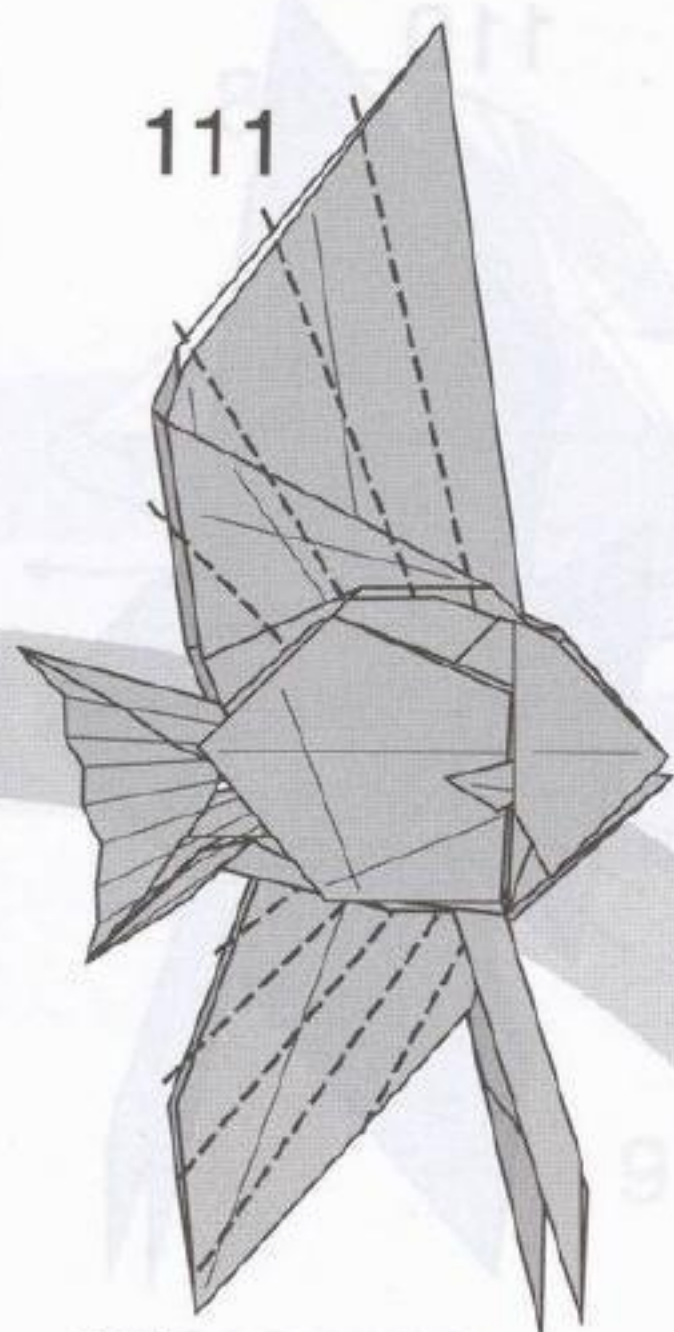
98



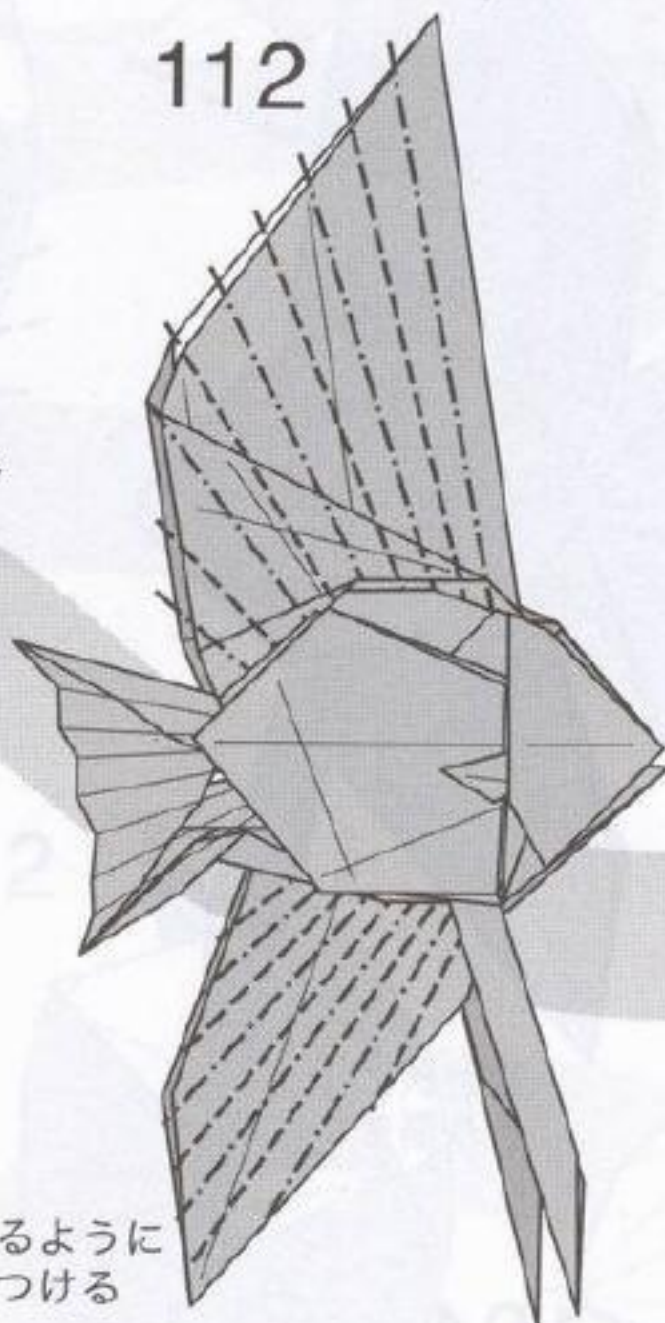
カドを結ぶ線で
折り筋をつける



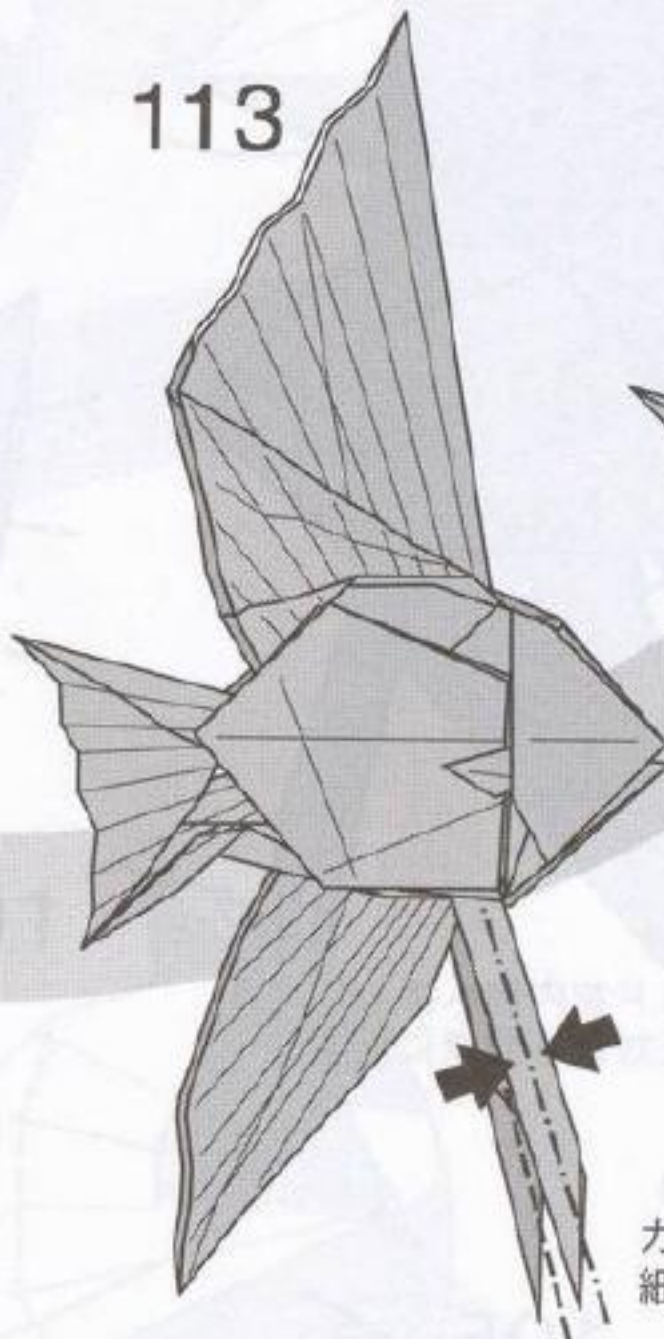
111

放射状に
折り筋をつける

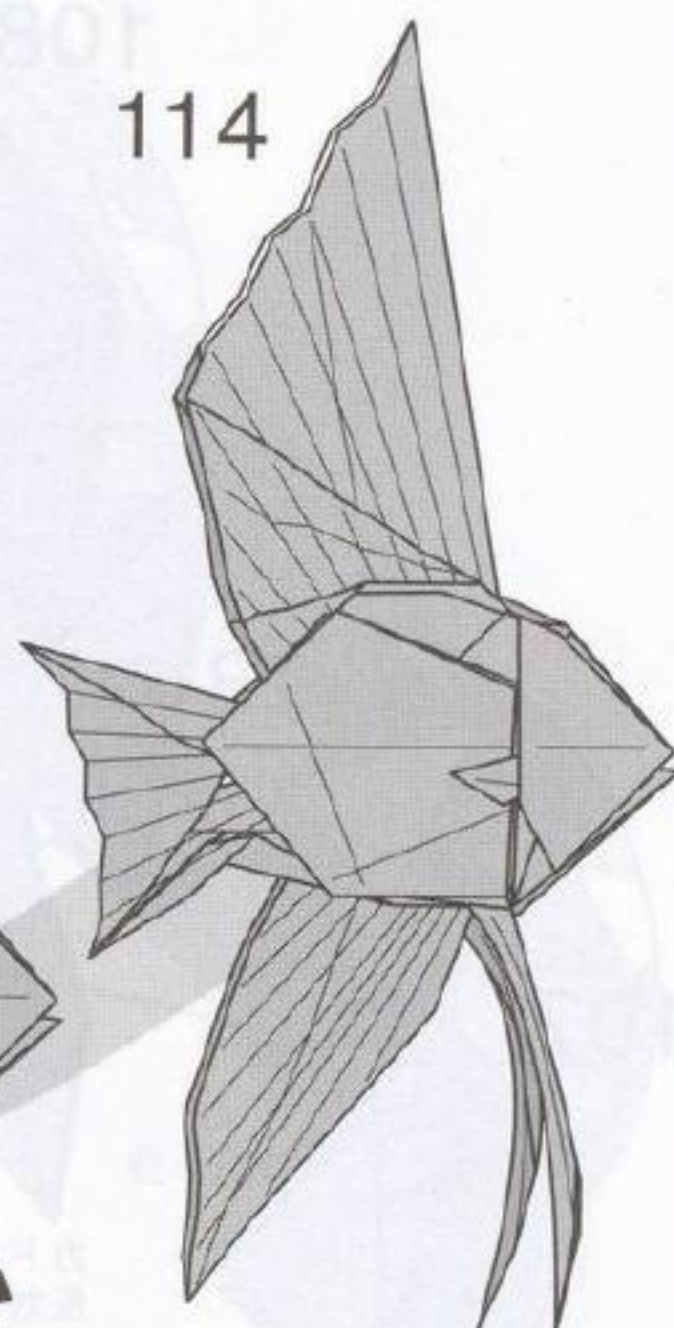
112

段折りするように
折り筋をつける

113

カドをつまんで
細く折る

114



完成

おり
すじ

Orisuzi ("Fold-Creases")

折り紙仲間を求めて

Waiting for the Fellow Folders

武井純二

Takei Junji

「おりすじ」の原稿依頼がきたので、改めてバックナンバーを読み返してみた。その中に折り紙仲間との出会いに関したものがいくつかあった。かくいう私も、ここ数年折り紙仲間を探す努力をしている。しかしながらなかなか見つからない。

折り紙の熱中度に関して、私の場合以下のような経過を辿っている。私は今年で48才になるが、高校・大学生時代は書店で偶然見つけたちょっと難しめな折り紙の本を買い、その折り紙を折って満足していた。笠原邦彦さんや前川淳さんの本を買って折っていた。その後結婚しても同じように書店で本を探し、その折り紙を折るという状態が続いた。数年前に折紙探偵団の存在を知り、雑誌を購入するようになった。複雑な折り紙をたくさん折れるようになった

ので、今度は折った作品をだれかに見て欲しくなった。そこで職場の一角に展示場所を勝手に作り、作品をいくつか展示するようになった。職場の人たちからは「すごい、これちょうだい」という反応はあったが、折ってみたいという反応は全くなかった。でも、次は何を折るのか楽しみにしている人もいて、それなりの反応は得られるようになった。折り紙作品が注目されるようになると、今度は一緒に折り紙を楽しむ仲間が欲しいと思うようになってきた。そこで思い切ってコンベンションに参加してみた。これは正解だったようで、講習を受けることで何となく周りの人と繋がっているような気になった。また、懇親会では折紙学会の主だった人たちと話もできて折り紙仲間ができたような気がした。ただ、この段階ではただ遠方に折り紙の知り合いができたという状態である。できれば地元北海

道で仲間を作りたい。

そこで、学会事務局に会員数について質問した。全国の会員数(購読者数)は約2000人で、私の地元北海道の購読者は26人との回答だった。1億3千万人で2000人なら、人口600万の北海道では90人くらい購読者がいることになるが、実際は26人しかいない。私が住んでいる人口20万弱の釧路では計算上は3人くらいいることになるが、北海道での比率を考えたら、購読者は多分私一人だけだろう。

この数字を見て、私は楽観的に考えている。北海道内に26人も購読者がいるなら、札幌での例会開催も可能ではないか。連絡体制さえ整えば何とかできると思っている。まずは身近に折り紙仲間を作り、例会を開けるよう頑張っていきたいと思っている。

展開図折りに挑戦

Crease Pattern
Challenge!

第64回

自転車 v1.8

Bicycle v1.8

ジェイソン・クー

Jason Ku

Created : 2009.10.17

Paper Size : 35x35cm

Length : 13cm



自転車を創作しようと思ったきっかけは、2009年に東京で開かれた折紙探偵団コンベンションで、神谷哲史さんが創作した作品を見たことです。この自転車には大きな感銘を受けました。神谷さんから、これが9枚で折られていると聞くまでは。そこで、1枚で自転車を折って、2009年11月のPCOCに展示しようと思いました。

この作品を創作する上で一番の課題は、車輪を折るための満足のゆく方法を考え出すことでした。車輪を折るには、どうすればよいでしょう。車輪というのは、細長い一次元的な突起とは異なり、1つのカドをほかの部分から分離するという方法ではうまく作れないことが明らかです。しかし、紙の幅全体を一定の間隔でずらしながらほかの部分から分離するという考え方で、適した解決法を見つけることができそうでした。

考えられる解決法をいくつも作ってみました。ここに示したものが、紙の使用効率がよいため、これを採用することにしました。加えて、紙の両端の部分を利用することで、車輪の色を変えることもできます。タイヤも、段折りで簡単に折ることができます。

そのほかの部分の構造はかなり単純で、実際のところ、引き延ばして変形した魚の基本形です。ボックスプリーツによって、整った一定の幅のカドが得られるので、それを使って作品のさ

まざまな部分をつなぐようにすることができます。この作品に最後に加えたのはスタンドで、対角線に沿って領域を付加することで、後ろの車軸から折り出しました。

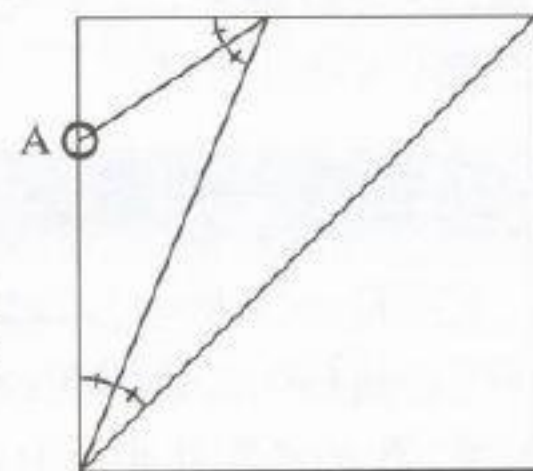
この展開図を最初に折るときは、折り畳む前に基本形のすべての折り線をつけておくといよいでしょう。折り線の角度はすべて、22.5度の倍数になっています。図に示した基準点は、正確では

ないのですが、誤差は正方形の一边の0.0028倍です。正確な基準点は、正方形の左上の頂点から $3\sqrt{2}/(7+6\sqrt{2})$ の点になります。

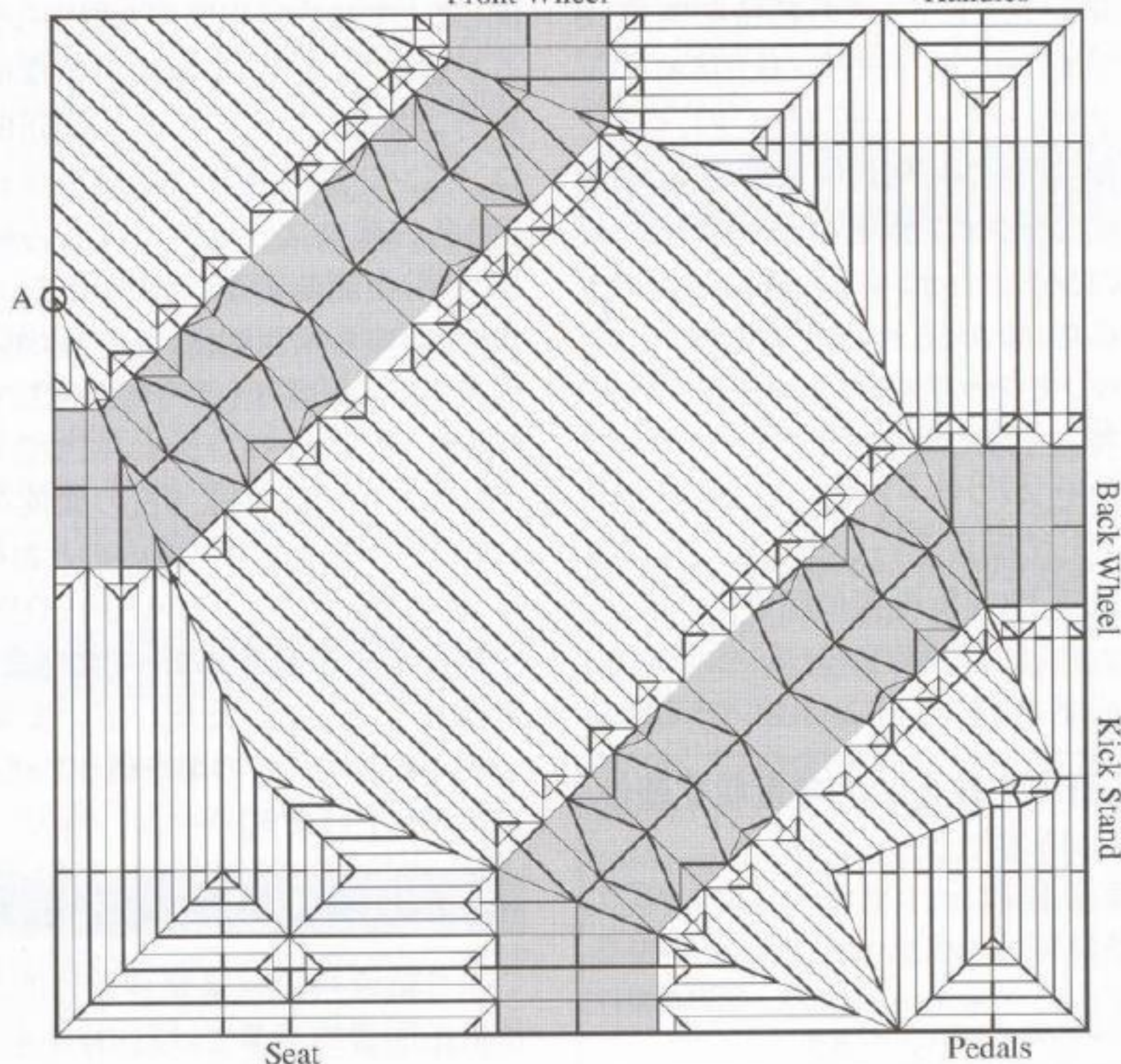
翻訳:羽鳥公士郎



自転車の樹形図



基準点の折り出し



Seat

Pedals

Back Wheel Kick Stand

日本折紙学会 (JOAS)

20期事業報告と21期予定

JOAS' Annual Report: Activities in the 20th Year and Prospects in the 21st Year

1) 会員・定期購読者

第20期は前期に比べ購読者は3%減、会員は12%増でした。会員は順調に増加を続け20期会員数は450名間近です。20期会員の皆様へは、配付資料として羽鳥公士郎氏の論文「折り紙による作図」および川畑文昭氏の折り図「虎」を送付させていただいております。21期につきましても引き続きご購読・会員継続していただきますようお願いいたします。

2) 吉野一生基金

「吉野一生基金」には2009年度も多くの皆様のご寄付をいただいております。改めてお礼申し上げます。2009年度の吉野一生基金では、探偵団20周年記念として4名の招待を実施。8月にエリック・ジャーディ氏(USA)、シュテファン・ペーバー氏(ドイツ)、ベトナムからチャン・チュン・ヒエユ氏、グエン・フン・クオン氏を第15回折紙探偵団コンベンションに迎えることができました。また、5月には関西コンベンションでのクリス・パルマー氏(USA)招待、11月には名古屋コンベンションでのセス・フリードマン氏(USA)招待に対して助成を行いました。2010年度は第16回折紙探偵団コンベンション大会、5月の関西コンベンション、11月の名古屋コンベンションでの海外

吉野一生基金2009年度収支報告

(2010年3月7日)

残高合計	1,385,407円
寄付等入金計	570,600円
支出	850,000円
(海外招待6名、招待に関わる雑費)	

作家招待にも助成を行う方針です(地方コンベンションは半額助成)。派遣助成に関しましても引き続き募集しておりますのでご希望の方は事務局まで応募用紙をご請求ください(募集要項は102号を参照ください)。

3) 折紙探偵団コンベンション

2009年8月14～16日に第15回折紙探偵団コンベンションを東洋大学で開催いたしました。本大会は400名を超える参加(第10回大会に次ぐ参加者数です)を得て、盛会に行うことができました。ひとえに愛好家の皆様の支援の賜です。今後ともよろしくお願いいたします。2010年につきましては、まだ会場が決定しておりません。第16回折紙探偵団コンベンションに関しましては次号以降でもお知らせする予定です。2009年度の折紙探偵団地方コンベンションでは第10回関西コンベンション(神戸女学院大学)、第5回名古屋コンベンション(名古屋芸術大学)を開催することができました。2010年度も関西地区、名古屋地区でのますますの盛り上がり期待しております。関西コンベンションにつきましては2010年5月4日、5日の開催を既に誌上、ウェブ上でご案内のとおりです。招待者としてアン・ラビン氏(USA)をお迎えする予定となっております。世話役となつていただいております友の会の皆様にはこの場を借りて心よりお礼申し上げます。

4) その他の事業報告・計画

◇折り紙資料の收集整理を目的とした折紙図書館事業では2007年4月よ

り、これまで收集整理した資料の蔵書目録をウェブ公開いたしております。書庫の整理等を進め、図書へのアクセスの利便性の向上を図っておりますので活発にご利用をお待ちいたしております。

◇折紙指導員制度につきましては、2009年度も数名の方に新たに資格認定をさせていただきました。本制度につきましてはさらに有用なものとなりますよう検討を継続いたします。

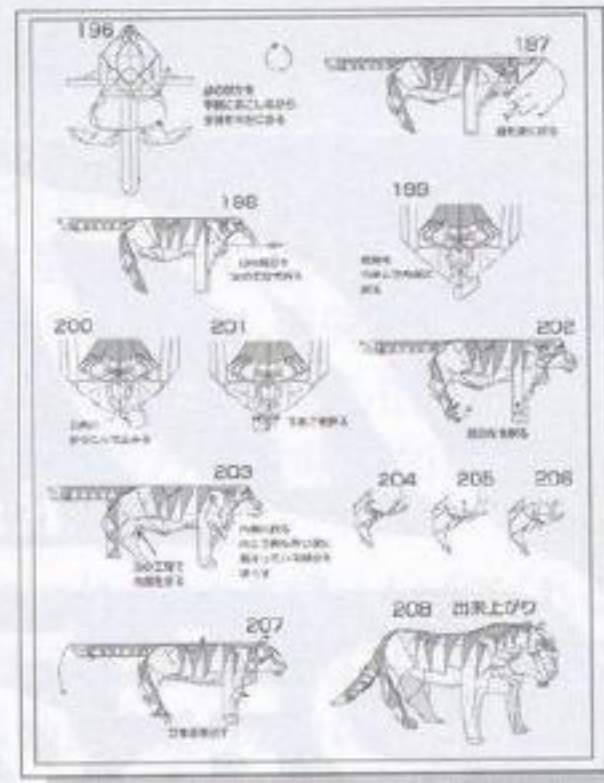
◇2009年度もギャラリーおりがみはうす隣に得た常設のスペース「JOASホール」の運営を行ってまいりました。東京友の会例会、布施知子氏、神谷哲史氏など有名作家ならではの特徴ある講習会、さらに2009年6月、12月には第6回、第7回折り紙の科学・数学・教育研究集会を開催しました。話題提供いただいている研究者の皆様にはこの場を借りてお礼申し上げます。折り紙の科学・数学・教育研究集会は第8回を2010年6月に計画しております。今後とも折り紙の様々な活動拠点として有効に運営してまいります。

◇2008年10月に第1回が開催された「折り紙の著作権を考える国際会議」は、OrigamiUSAコンベンション期間中(2009年6月)に第2回会議が行われ、JOASからは評議員の立石浩一氏より活動報告を行いました。JOASは今後も折り紙の知的財産権の研究を積極的に推進いたします。

5) 総会・その他

◇日本折紙学会2009年度の会計報告につきましては、第16回折紙探偵団コンベンション開催期間中に予定し

【第20期会員特別配布資料】
羽鳥公士郎氏の論文「折り紙による
作図」と川畑文昭氏の折り図「虎」



ております総会においてご報告いたします。2010年6月30日までに第21期会員に登録いただきました皆様には追って総会のご案内をご送付申し上げます。

◇21期の評議員体制は、川畑文昭(5)、川村みゆき(6)、立石浩一(8)、津田良夫(5)、西川誠司(3)、三谷純(3)、川崎敏和(2)、北條高史(2)に加え、羽鳥公士郎氏、前川淳氏の復帰を予定いたしており、合わせて10名で運営を進めてまいります(カッコ内は勤続年数：最長任期9年)。評議員代表は引き続き西川誠司が務める予定です。今後ともますますのご支援よろしくお願い申し上げます。

1) Membership and Subscribers

In the 20th year, we had a 3% decrease in number of subscribers and a 12% increase of members. The number of JOAS members in the 20th year is now approaching 450. Members will find an article by Hatori Koshiro "Origami Constructions" and Diagrams of Kawahata Fumiaki's "Tiger". We expect all members and subscribers will renew for the 21st year as well.

2) The Yoshino Issei Fund

We thank you for your continuing support of the Yoshino Fund for the year 2009. In August, 2009, we have invited Eric Gjerde (USA), Stephan Weber (Germany), and Tran Trung Hieu and Nguyen Hung Cuong (Vietnam) to the 15th Origami Tanteidan Convention with the Fund. We have also invited Chris

Palmer (USA) to the Origami Tanteidan Kansai Convention in May, 2009, and Seth Friedman (USA) to the Origami Tanteidan Nagoya Convention in November, 2009 with the partial aid from the Yoshino Fund.

As of March 7th, 2010, the Fund has 1,385,407 yen (contributions from members 570,600 yen, and expenses 850,000 yen (mainly invitation of the six origami creators)).

3) Origami Tanteidan Convention

We held the 15th Origami Tanteidan Convention at Toyo University on August 14-16, 2009. We had 400 participants (the second record only below the 10th International Convention) and the Convention was a success. We thank you for cooperations of folders of the world. This year, we plan to have the 16th Convention, with place and time still pending (we will announce about them in the following issue of the Magazine). We also had the 10th Kansai Convention at Kobe College, and the 5th Nagoya Convention at Nagoya University of Arts. As for the Kansai Convention, the 11th one will be held on May 4-5, 2010 at Kobe College, with Anne R. LaVin (USA) as the invited lecturer. We JOAS thank staff members of these conventions.

4) Other Prospects

The Origami Library started making the list of materials in the archive there open on the web in April, 2007. Sorting by authors and keywords has progressed significantly since its start, and it is available, so feel free to use it. We had licenced a few people as new

JOAS Origami Instructors in 2009. We hope to have this license become more beneficial for the awardees in the near future.

The studio space we have gained in 2005, JOAS Hall, are being used for regular meetings of Tokyo Tanteidan Group, occasional origami classes by Fuse Tomoko, Kamiya Satoshi, and so on. We also had held the 6th and 7th Workshop on Origami in Science, Mathematics and Education there in June and December, 2009. The 8th workshop will be held in June, 2010.

The Origami Copyright International Conference, the 1st one of which was held in Japan in October, 2008, had its 2nd meeting during the 2009 OrigamiUSA Annual Convention in June. We had Tateishi Koichi, a board member, present issues and activities on this side of the earth. JOAS will keep working on the issue actively.

5) General Meeting and the Board

The fiscal report of JOAS in 2009 will be reported in the General Meeting immediately preceding the 16th Origami Tanteidan Convention. Members will be notified of the meeting if they register their membership by June 30th, 2010. The Board members for the 21st year will be: Kawahata Fumiaki (5), Kawamura Miyuki (6), Tateishi Koichi (8), Tsuda Yoshio (5), Nishikawa Seiji (3), Mitani Jun (3), Kawasaki Toshikazu (2), Hojyo Takashi (2), Hatori Koshiro (1) and Maekawa Jun (1) (numbers indicate the years for which they have been the Board members consecutively). The chair of the Board will be Nishikawa Seiji.

Rabbit Ear

つまみおり

Information

20期会員特別配布資料

日本折紙学会会員特別配布資料として、今号のカラーページで紹介している川畑文昭氏作の「虎」の折り図と、羽鳥公士郎氏の「折り紙による作図」が配布されます。どちらも興味深く中身の濃い資料となっています。

現在購読のみ(年間3800円)で、配布物を希望される場合は、購読料と年会費の差額である4600円をお支払いいただければ、20期会員登録の上、特別配布物を発送させていただきます。

なお以上の措置は3月末までとなります。4月からは第21期となるため、20期の資料はその残部を21期会員に限りお分けするかたちとなりますのでご注意ください、ご了承ください。

振込先

郵便振替口座 00170 -7- 260699

加入者名 日本折紙学会

第16回折紙探偵団コンベンション コンテスト作品と折り図募集

今年で4回目となるJOAS創作折り紙コンテスト。前号でもお知らせしましたが今回の特別テーマは「家族」です。また、前回に引き続き、干支部門と、自由題のはうす賞もあります。創作準備に入った方もいらっしゃると思います。準備期間を有効に使ってクオリティの高い作品を創り上げてください。

◆JOAS賞特別テーマ部門:家族 ◆JOAS賞干支部門:うさぎ ◆おりがみはうす賞:テーマなし

※ひとりで3賞それぞれへ1点ずつ応募できます。※JOAS賞はJOAS評議員およびコンベンション参加者の投票で決定します。はうす賞はおりがみはうすが審査し決定します。

■応募作品は未発表作品に限ります。

未発表とは、インターネットや出版物など、公に発表していないことを指します。これは「新作」を募集したいという意図と、コンベンションの会場で初めて作品が披露されるというイベント性を考慮しての条件となります。早めに作品が完成してもコンベンション前に公開しないようご注意ください。

■折り図募集

世界中の折り紙愛好家が楽しみにしている『折紙探偵団コンベンション折り図集』の折り図の募集です。6月の締め切りに合わせて、いまから作品を準備してください。原稿の規定については「折り図集投稿マニュアル」

をウェブサイトで配布していますのでご覧ください。

<http://origami.gr.jp/>

Convention Book Vol.16

We are having, fortunately, the season of the JOAS 16th Origami Tanteidan Convention very soon again. As we do so every year, we call for the diagrams from folders all over the world. Here are the conditions of acceptance of your diagrams:

The diagrams you send are not yet published.

The diagrams you send are in the form of digital data (we STRONGLY encourage sending diagrams in either Adobe Illustrator or Free-hand format).

If your diagrams are accepted for publication in the 16th Convention Book, we will send you one copy of the 16th Convention Book to express our gratitude. The official deadline is the end of June, 2010, but we STRONGLY, again, encourage your early submission. The data should be sent to the following e-mail address: conv16@origami.gr.jp

We look forward to seeing your original, unique diagrams, as usual.

第11回折紙探偵団 関西コンベンション 申し込み締め切り間近

毎年恒例の、折紙探偵団関西コンベンションも次回でもう11回、前号でお知らせの通り、5月4日・5日に神戸女学院大学文学館にて開催されます。今年度より関西友の会の例会を各地を巡回して行うなどの関係でコンベンションの費用を1000円値上げ致しましたが、その分、より充実したコンベンションにするべくスタッフ一同準備をしております。

第11回は、Origami-L(国際的折紙者のメーリングリスト)の管理をされているアン・ラビン氏(USA)を招待者として迎え、講演会を開催する予定です。



ラビン氏は毎年のように東京のコンベンションに参加されていて、いろいろな形でJOASを助けてくれている方です。

今回の関西コンベンションには初お目見えとなります。(我々はアン・ラビン氏のことを親しみを込めてアンちゃんと呼んでいます。会場で会ったら気軽にアンちゃんと声をかけてあげてください。)

申し込み締め切りは4月16日(金)、まだの方はお急ぎ下さい。

(申込書は<https://sv34.wadax.ne.jp/~tatekoo-net/>からダウンロード可能、問い合わせは、origami_kansai@kcc.zaq.ne.jpまで)

◆第16回折紙探偵団コンベンション

今年のコンベンションは諸般の事情で、会場が未定である。今のところ例年通り、東洋大学白山キャンパスをお借りしての開催が予定されている。

開催日時は、例年通りで、お盆の時期の8月13日(金)、14日(土)、15日(日)であるが、場合によっては14、15日の2日間開催になることも考えられる。

大まかなスケジュールは次の通り。

13日、日本折紙学会総会(午前中)。午後からは特別講演会が開かれる。海外からのスペシャルゲストによる講演をはじめ、折紙に関する話題を広く扱っ

た内容となるだろう。

14日、15日は作家や愛好家による新作を中心とした折紙教室大会。この機会ではなければ受けられない講習が目白押し。シンプルな作品から超難解作品まで参加者を満足させる幅広さである。また、海外からのゲストの教室も興味深いものがあるだろう。

昨年に続き折紙指導員資格保持者を

対象とした、折紙紙についてより深く知るための教室も開かれる予定である。指導員資格者でなくても興味をお持ちの方は参加ができる。これから指導員になろうと考えている方は是非参加して欲しい。

毎回、コンベンションを盛り上げてくれる吉野一生基金招待者は現在、応募者を募集中。自薦他薦を問わないので、皆さんの中で「こんな方に来てほしい」、「この人を推薦する」などの希望も受け入れている。

コンベンションの詳細や、参加申し込み等の情報は、次号(121号)に掲載予定。

Yoshino Issei Fund invites foreign origamists to our conventions.

Yoshino Issei Fund, named in commemoration of the talented origami designer, aims at exchanges of ideas with the world's origamists, supported by contributions from Tanteidan members, and we have invited foreign origamists to our conventions.

This time, we would like to invite Two foreign origamists to the 16th convention in August 2010.

We are accepting candidates until the end of the April. We accept both recommendations and direct applications. The selection committee will decide who we invite and announce the conclusion the May in the magazine, our web site and directly to the winners.

The selected guests must attend the 16th convention and instruct some models.

They must also supervise an exhibition at Gallery Origami House.

Yoshino Issei Fund offers each of them up to 200,000 yen for traveling and staying expenses. We also advise on their stay. Send us your application with the candidate's name, age, address, telephone number, fax number, e-mail address, and some works (photographs of the model, diagrams, or books).

Yoshino Issei Fund
c/o Gallery Origami House
1-33-8-216, Hakusan, Bunkyo-ku,
Tokyo, 113-0001, JAPAN
Email : webman@origami.gr.jp

◆MATSURI レポート

勝田恭平

2月27日～28日にかけて、アリゾナ州はフェニックスにて開催された日本文化のイベント「MATSURI」に、お世話になっているJune Sakamotoさんと参加してきました。

乾燥しているアリゾナらしく、空港から出ると周囲は巨大なサボテンだらけで驚くと同時に、多肉植物マニアである私には素敵な環境でしたが、まあそれはともかく、イベント場へと向かいました。

イベント場は、広いスペースに日本の屋台の様な店が立ち並び、中には折紙を教えたりするブースもありましたが、それとは別に展示場がありました。

このイベントにおける私の役割は創作折紙作品の展示です。展示場に作品を並べ、そこで何人かの折紙人とお出会うことができ、中でも、段折りの連続によって作品を生み出すGoran Konjevodと知り合い、拙い英語でしたが少し折紙の話をする事ができました。

イベントに参加している折紙のグループは同じホテルに泊まっていたた

め、夜は折紙の講習や雑談が行われ、私も作品を習ったり即興で作品を作ってみせたりと楽しむことができました。夜遅くまで陽気に、笑い溢れるアメリカの折紙人との交流は、それだけで楽しいものです。

また、3月1日には折紙の講習を行う機会がありました。作品はこの日のために用意した、比較的簡単なサボテンです。折り図も用意していましたが、英語で講習するという事を念頭においていたため折り図は最後に配布することにしました。コンプレックス作品の経験者は殆どいないものの、折紙への理解は高い人々だったので、私も教えやすかったです。余談ですが、受講者が受講慣れしていると講習は上手くいくものですね。当初不安に思っていた工程もなんなく過ぎて、最終的には20数名全員が作品を折り上げることができました。

その後はJuneさんの講習の手伝い、Goranを始めとする数名のコンプレックスフォルダーに対する講習(こちらは折

り図を見せながらですが)を行い、難しい折り方の英名などを私も教えてもらいつつ、楽しむことができました。

終了後全員で写真を撮ることになりましたが、そのとき作品を一つ持とうということで、皆さんがサボテンを選んでくれた気遣いと優しさに感動しました。

老若男女関係なく、こういった交流によって新しい刺激を受けることができるのが折紙の世界のいいところです。

さて、その刺激をどうやって次の折紙に生かしましょうか。



教室の受講者と筆者(後列中央)

編注: 写真を見ると毎年のように、OUSAのNYのコンベンションなど各地のコンベンションに参加している受講者が多い。受講慣れしているのもうなずける。

◆折り紙アーティスト・トレーディング・カード交換会

アーティスト・トレーディング・カード(ATC-Artist Trading Cards)とは、手作りのカードサイズのミニチュア・アート作品です。アーティスト同士が名刺代わりに交換するのを始め、交換会や、郵送などの方法でカードを交換して、コレクションを増やすなどして楽しんでいます。

大きさが64mm×89mm(2.5インチ×3.5インチ)である事以外に決まりはないため、イラストを始めコラージュやペーパークラフト等、様々な表現方法を使って製作されます。もちろん、折り紙を使ったATCもあり、これまでにアメリカやオランダのコンベンションで交換会が行われています。

今年の6月に開催されるOrigamiUSAのコンベンションでも、折り紙ATCの交換会が行われます。交換は26人のグ

ループを作り、自分以外の25人とカードを交換するという形で行われます。また、交換の際には、テーマが指定される場合もあります。郵送での参加も可能ですので、日本の皆さんも折り紙ATCを始めてみませんか？

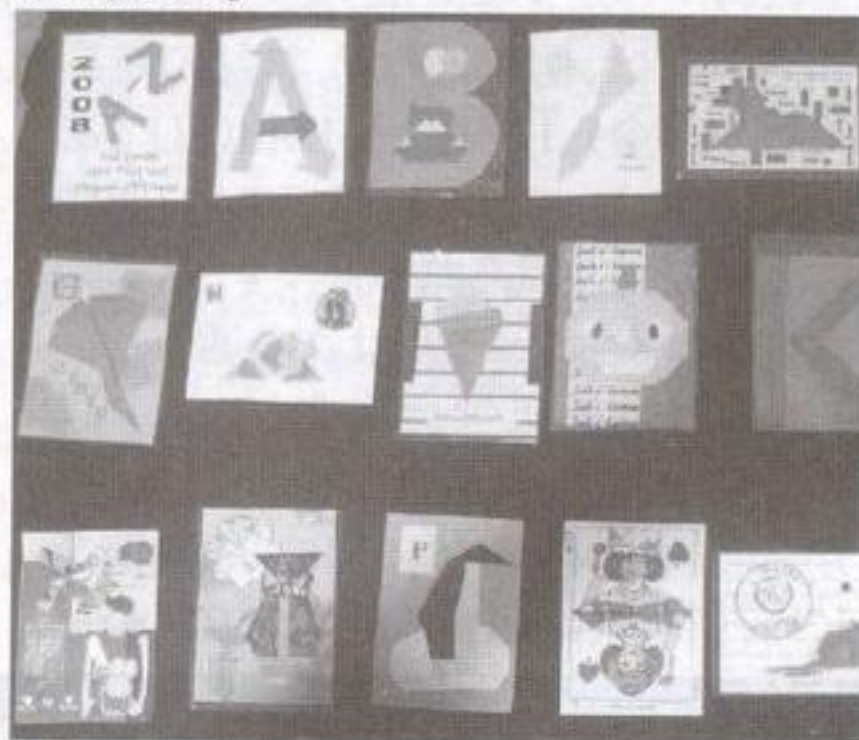
◆折り紙ATCの規定

・カードには折り紙が使われていること。折り紙作品をカードに貼付けたもの、もしくはカードそのものを折り紙で作っても構いません。

・大きさが64mm×89mm(2.5インチ×3.5インチ)であること。

・裏面にはカードの情報を記載します。必須項目は、制作者の名前、タイトル、日付です。その他、作品の番号・メールアドレス・国名などの情報の記載は、ご本人の管理にお任せ致します。

参加についてのお問い合わせ、および交換会への参加を希望される方はマルシオ・野口(marcio_noguchi@yahoo.com)まで。



昨年のOUSAコンベンションで展示された折り紙ATCの一部

JOASホール今後の予定

◆「知子の部屋」

次回から3、6、9、12月の第3土曜日、年4回の教室になります。

6月19日(土)／講師＝布施知子／参加費＝2,500円／12:30～16:00

アットホームな雰囲気の中で、どなたでもご参加頂けます。15cmの折り紙持参。

■参加の申し込みはFAX(03-5684-6080)か、メールinfo@origamihouse.jp宛でお願いします。

編集後記

■先日お会いした折り紙愛好家のIさんが言っていた。「私もそれなりの年なので、今まで収集した折り紙本をなんとか後世の役に立てられないか。」という話だった。■私も以前から同じようなことを考えている。■私の場合は全てJOASに寄贈することになっている。■多くの折り紙愛好家には家族の理解者がいない場合が多い。■その場合には、愛好家が没した後、良くて古本屋、悪くするとゴミ行きだ。■そのようにして、貴重な資料が消えていったのだから。■そのことで、以前、考えたことがある。■前にも言ったことがあるけれど、アイバンクのように、折り紙バンク(?)の様なものをつくり、生前からそこに登録しておくという事はできないだろうか。■せつかくのお宝を無にしたいものだ。■(や)

日本折紙学会公式HP

折紙探偵団 <http://www.origami.gr.jp/>

折紙探偵団

2010年3月25日発行 第20巻6号 通巻120号
発行所／日本折紙学会

〒113-0001

東京都文京区白山1-33-8-216

Phone & Fax / 03-5684-6080

発行人／西川誠司

編集人／山口 真

編集スタッフ／松浦英子、神谷哲史

デザイン／おりがみはうす

翻訳／立石浩一

発売元／おりがみはうす

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

定価635円(本体605円)

◆オリガミ・デザイン・チャレンジ

毎年、OrigamiUSAのコンベンションに合わせて開催されるオリガミ・デザイン・チャレンジが今年も参加者を募っている。

このイベントはロバート・ラング氏が中心となって2004年から行われており、これまでにいくつもの傑作が生まれている。参加者の幅が広いのも特徴で、若手からベテランまで、世界各国の作家が参加している。また、デザイン・チャレンジには若手作家の育成という側面もあり、毎年設定されるテーマに沿った作品を創作するなかで実力をつけてきた若手も多い。

今年2010年のテーマは「車」。原則として1枚の正方形から折られている事が条件となる。

投稿された作品はOrigamiUSAのコンベンション、及び8月に開催される東京のコンベンションでも展示される。

事務局ではデザイン・チャレンジへの

東京友の会 ※折り紙は各自持参

会場＝JOASホール／参加費＝大人500円(中学生以下300円)／講習会＝14:00～16:00／研究会＝16:00

●4月3日(土)／講師：北條高史／作品：ガイコツくん4号

●5月8日(土)／講師：未定／作品：未定

静岡友の会 ※折り紙は各自持参

会場＝「紙友館ますたけ」増武ビル3F／参加費＝大人500円(中学生以下は200円)／時間＝10:30～12:00

●4月4日(日)／講師：鈴木美恵子／作品：兜(作・前川淳)

■ORIGAMITANTEIDAN / No.120 / Published on 25, March 2010 by Japan Origami Academic Society, 1-33-8-216
Hakusan Bunkyo-ku 113-0001 Tokyo JAPAN / Cover Photo: "Bicycle v1.8" Produced by Jason Ku: Photographed by Matsuura Eiko / Publisher: Nishikawa Seiji / Editor in Chief: Yamaguchi Makoto / Editor: Matsuura Eiko, Kamiya Satoshi / Editorial Design: ORIGAMI HOUSE / Translator: Tateishi Koichi

参加をお手伝いします。作品を展示用の札を同封の上、日本折紙学会宛にお送り下さい(6月15日必着)。投稿された作品はOrigamiUSAのコンベンションに参加する山口真氏が運ぶ予定です。

読者プレゼント



新刊書プレゼント『かわいいどうぶつ折り紙』山口真/著(主婦と生活社刊)を抽選で3名に著者サイン入りでプレゼント!! ご希望の方はハガキ又はメールにて、お名前、ご住所、電話番号、年齢を明記し、「かわいいどうぶつ折り紙」とお書き頂き、本誌の感想なども添えて、以下までお送りください。締め切り：4月28日
応募先住所：113-0001東京都文京区白山1-33-8-216 おりがみはうす宛
メールアドレス：info@origamihouse.jp
前回『ヤマあり タニおり』の当選者は次の通りです。魚住清子(神奈川県)、松下恵子(長野県)、太田キヨミ(愛知県)、吉藤健太郎(奈良県)、田原義文(香川県)(敬称略)以上5名の方です。

東海友の会 ※折り紙は各自持参

会場＝名古屋芸術大学 西キャンパスA棟(部屋は未定です)／参加費＝大人200円(中学生以下は100円)／時間＝13:00～16:30

●4月17日(土)／講師：未定／作品：未定

●5月15日(土)／講師：未定／作品：未定

九州友の会 ※折り紙は各自持参

会場＝佐賀県立アバンセ4階第3研修室B／参加費＝500円(中学生以下は100円)／時間＝13:00～16:00

●4月25日(日)／講師：未定／作品：未定

●5月30日(日)／講師：未定／作品：未定

おりがみはうす商品案内

website = <http://www.origamihouse.jp/>

E-mail = info@origamihouse.jp

このページの商品の取扱いはずべておりがみはうすです。
日本折紙学会とは別になります。

ATTENTION! : This advertisement is for Japan-internal use only.
For overseas shipment, please refer to the OrigamiHouse Web Site.



第15回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.15

日本折紙学会 編 / 2,000円 / 送料420円
B5判 / 全256頁 / 56作品収録

好評発売中!

ヨークシャー テリア: 西川誠司、猪: 川畑文昭、トロボス: 川村みゆき、紅葉: 霞誠志、ケルベロス: 神谷哲史、リス: シュテファン・ペーパー、フクロウ: グエン・フン・クオン、チョウ: ジェイソン・クー、ダラー・コイフィッシュ: ウォン・パーク等、国内外56作品を収録

書籍名/著者・編者	価格(税込)	送料	内 容
神谷哲史作品集 神谷哲史 著 山口 真 編 立石浩一 訳	4,000円	国内一律 1冊 420円 (梱包込) ※ 複数冊は 異なります	B5判/全228頁/カラー口絵4頁/19作品収録 超複雑系折り紙の創作活動8年間の集大成。
西川誠司作品集 西川誠司 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,200円		B5判/全196頁/カラー口絵4頁/32作品収録 シンプルからコンプレックスまで幅広く楽しめる本
折紙図鑑「昆虫1」 川畑文昭・西川誠司 共著 山口 真 編	3,100円		B5判/全196頁/カラー口絵 4頁/17作品収録 '93~'94年の「昆虫戦争」で誕生した作品の記録
折紙図鑑「昆虫2」 ロバート・J・ラング 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,500円		B5判/全196頁/カラー口絵4頁/18作品収録 初心者お断り、世界で一番難しい昆虫折り紙の本
面~The Mask~ 布施知子 著 山口 真 編	3,300円		B5判/全200頁/全27作品カラー写真紹介 作者がユニットに出会う前の、お面だけの作品集
空想おりがみ 川畑文昭 著	2,900円		B5判/全180頁/カラー口絵4頁/18作品収録 1995年6月初版発行の恐竜と空想動物の本
第14回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.14 日本折紙学会 編	2,000円		B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作41作品を収録
第11回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.11 日本折紙学会 編	2,000円		B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作55作品を収録
第10回記念 折紙探偵団 国際コンベンション 折り図集vol.10 日本折紙学会 編	2,000円		B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作50作品を収録

※第1回~第9回及び第12回、第13回の折り図集は全て絶版です

※書籍は郵便の「ゆうメール」で発送しております。送料には梱包材代が含まれています

『折紙探偵団』専用ファイル 好評発売中!!	
変形B5判/箔押し(緑) ロゴ入 ピンが7本ついた改良型 雑誌『折紙探偵団』1年分(6冊)と、会員特別配布物(1冊)が 収納可能!	
1冊750円	送料: 1冊250円(合計1,000円)
※定形外郵便で発送します (書籍・紙製品とは別発送です)	2冊350円(合計1,850円)
	3冊470円(合計2,720円)

書籍 複数 の 送料	書籍2冊の送料は530円 書籍3冊の送料は670円 例外:「折り図集」だけを3冊の場合のみ530円 (例:折り図集11,14,15を各1冊)
---------------------	---

上記以外の場合はお問い合わせください。書籍と紙製品は別発送となります

商品名	送 料	内 容
折紙探偵団Tシャツ XS, S, M, L, 各サイズ 2,000円(税込)	国内一律 2着まで 500円	折紙探偵団のロゴが入ったTシャツ 色は黒のみで布は厚手 ※数に限りがありますので、ご注文の 際には在庫を確認してください。
恐竜柄おりがみ用紙 1,000円(税込)	国内一律	35×35cm/10枚入/70kg の洋紙に細かい恐竜模様を印刷
恐竜柄おりがみ用紙 折り図つきセット 1,200円(税込)	1~2セット 440円	恐竜柄おりがみ用紙+ ドラゴン(北條高史作)の折り図

※定形外郵便で発送しております(書籍とは別発送) 送料には梱包材代が含まれています

本ページに記載していない商品は、現在取り扱っておりません
ご送金頂いてもお送りできませんのでご注意ください

商品の申し込み方法

冊数と料金をよくお確かめの上ご注文ください。

先に郵便振替か現金書留で料金(商品価格+送料)をお
送り下さい。入金を確認後、商品を発送させていただきます。ご希
望の商品名と連絡先の記入(郵便振替の場合は振替用紙の
「通信欄」に記入)をお忘れのない様お願いします。

郵便振替番号 **00120-9-715400**

加入者名 **おりがみはうす**

※折紙探偵団の購読申込みとは別の口座です。くれぐれもご注意ください。

※郵便振替用紙は郵便局備え付けのものをご利用ください。

※現金書留の場合は左記の住所へお送りください。

※商品のお届けは通常、送金から約1週間~10日です(お盆・年末年始等を除く)。



ギャラリー **おりがみはうす**

〒113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216

TEL:(03) 5684-6040 FAX:(03) 5684-6080

E-mail: info@origamihouse.jp

月~土 12時~15時 土・日 10時~18時

折り紙用紙専門のオンラインショップ開店!

(株)トーヨーの商品を中心とした豊富な品揃えです。

<http://origamihouse.store-web.net/>

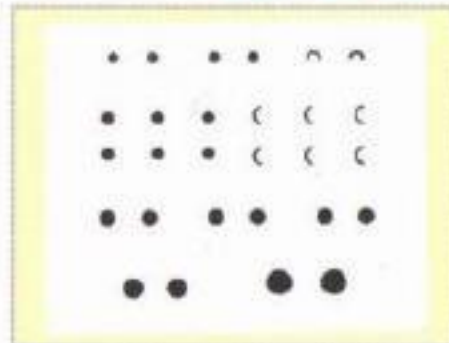
※本ページ商品は取り扱いっておりません。ご注意ください

わくわく おりがみ! トイズ

7種類の楽しいおりがみが作れてあそべるよ!



目玉シール
ついてる



¥200
(税抜き)



ハラペコカラス



かみとんぼ



いろかえあそび



ふきごま



ピチピチさかな



アクロバットホース



 **株式会社トヨー**
ホームページ <http://www.kidstoyo.co.jp>

●写真は印刷ですので実際の商品とは色は違う場合があります。
※表示価格には消費税は含まれておりません。※内容・デザインは一部変更になることがあります。
本社 〒120-0044 東京都足立区千住緑町2-12-12 TEL03-3882-8161
大阪支店 / 名古屋営業所 / 福岡営業所 / 札幌出張所 / 松山出張所